# **D-Link D-View7 / DV-700**Network Management System

ユーザマニュアル



# 安全にお使いいただくために

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

本書は、製品を正しくお使いいただくための取扱説明書です。

必要な場合には、いつでもご覧いただけますよう大切に保管してください。

また、必ず本書、設置マニュアル、および弊社 WEB に掲載された製品保証規程をよくお読みいただき、内容をご理解いただいた上で、記載事項に従ってご使用ください。

製品保証規定は以下を参照ください。

https://www.dlink-jp.com/support/product-assurance-provision

- 本書の記載内容に逸脱した使用の結果発生した、いかなる障害や損害において、弊社は一切の責任を負いません。あらかじめご了承ください。
- 弊社製品の日本国外でご使用の際のトラブルはサポート対象外になります。

なお、本製品の最新情報やファームウェアなどを弊社ホームページにてご提供させていただく場合がありますので、ご使用の前にご確認ください。製品保証、保守サービス、テクニカルサポートご利用について、詳しくは弊社ホームページのサポート情報をご確認ください。https://www.dlink-jp.com/support

目次

11.1541-	-
はじめに	5_
本マニュアルの対象者	6
表記規則について	6
第1章 本製品のご利用にあたって	7
概要	
ライセンスについて サポートデバイスについて	
動作環境	
D-View7 の概念について	
D-View7 サーバについて	11
Probe について	12
センサについて	13
データベースについて	
High Availability(高可用性)について	15
第2章 製品のインストール	16
インストール要件	16
インストール(シングルサーバ)	
インストール(複数 D-View7 サーバ、シングル MongoDB サーバ)	
シングルサーバから複数サーバへの移行(D-View7)	
ライセンスのアクティベーション	
D-View のアップグレード	
D-View7 をインストールしたサーハの起動時または再起動時についての注意 D-View7 へのログイン	
D-View7 へのログイン	
アンインストール	
<u>第3章 Dashboard(ダッシュボード)</u>	64
Dashboard(ダッシュボード)について	64
ウィジェットの表示を変更する	
ダッシュボードのカスタマイズ	
ウィジェットのカスタマイズ	67
第4章 Inventory(インベントリ)	
Inventory の概要	68
ラベルの作成	69
Unmanaged(未管理デバイス)	70
D-View Managed(管理デバイス)	
Device Detail(デバイス詳細)	72
第5章 Monitor (モニタ)	76
Monitor の概要	76
Device View(デバイスビュー)	76
Topology View(トポロジビュー)	77
Rack View(ラックビュー)	
Event View(イベントビュー)	
Monitor Logs (モニタログ)	
Ping Helper(Ping 送信)	88
第 6 章 Maintenance (メンテナンス)	89
Maintenance(メンテナンス)の概要	89
Batch Configuration(バッチコンフィグレーション)	
Firmware Management(ファームウェア管理)	
Configuration Management (コンフィグレーション管理)	
Task Management(タスク管理)	
File Management(ファイル管理)	
Configuration Comparison (コンフィグレーション比較)	104

第7章 Report(レポート)	105
Report(レポート)の概要	
第8章 System (システム)	109
- System(システム)の概要	
License (ライセンス)	
Discovery(Probe 検出)	
User / Workspace(ユーザ / ワークスペース管理)	
Sensor Settings(センサ設定) Notification Center(通知センター)	
Notification Certific (通知センダー)	
Trap Editor (トラップエディタ)	
About (本製品について)	
<u>付録 A MongoDB バージョン 2.6 から 3.2 への移行</u>	128
移行手順	128
トラブルシューティング	
MongoDB チェック結果について	131
付録 B リモート Probe の追加	133
D-View 7 Probe ツールのインストール	133
Probe のアクティベーション	
Probe の検出	135
付録 C D-View7 への HTTPS 接続	136
システム要件	136
HTTPS 接続設定手順	136
付録 D MongoDB の手動アンインストール	138
システム要件	138
アンインストール手順	
付録 E D-View7 の移行と D-View7 ライセンスの解除	140
D-View7 の移行について	
D-View ライセンスの解除について	
付録 F RESTAPI 設定ガイド	153
付録 G サードパーティ製機器の管理	172
サードパーティ製機器の検出	
サードパーティ製機器のモデルリストへの追加	174
ウィジェットによるサードパーティ製機器の情報表示	176

# はじめに

D-View7 の機能と設定方法をについて記載しています。

### 「第1章 本製品のご利用にあたって」

・ 本製品の概要、機能、動作環境について説明します。

### 「第2章 製品のインストール」

・ 製品のインストールとデータベースの作成を行います。

### 「第3章 Dashboard (ダッシュボード)」

・ 本製品のダッシュボードと各機能について説明します。

### 「第4章 Inventory (インベントリ)」

・ 本製品のインベントリと各設定について説明します。

### 「第5章 Monitor (モニタ)」

・ 本製品のモニタ機能と各設定について説明します。

### 「第6章 Maintenance (メンテナンス)」

・ 本製品のメンテナンス機能と各設定について説明します。

# 「第7章 Report (レポート)」

・本製品のレポート機能と各設定について説明します。

### 「第8章 System (システム)」

・ 本製品のシステム機能と各設定について説明します。

### 「付録 A MongoDB バージョン 2.6 から 3.2 への移行」

• MongoDBバージョンの移行について説明します。

### 「付録 B リモート Probe の追加」

・ リモート Probe の追加について説明します。

# 「付録 C D-View7 への HTTPS 接続」

• D-View7への HTTPS 接続について説明します。

# 「付録 D MongoDB の手動アンインストール」

• MongoDB の手動アンインストールについて説明します。

# 「付録 E D-View7 の移行と D-View7 ライセンスの解除」

• D-View ライセンスの移行とアクティベーション解除について説明します。

### 「付録 F RESTAPI 設定ガイド」

・ D-View7 との間で情報を取得および送信する、カスタム API の作成について説明します。

# 「付録 G サードパーティ製機器の管理」

サードパーティ製機器の管理について説明します。

# 本マニュアルの対象者

本マニュアルは、本製品の操作方法についての情報を記載しています。また、ネットワーク管理の概念や用語に十分な知識を持っているネットワーク管理者、システム管理者、または IT 技術者を対象としています。

# 表記規則について

本項では、本マニュアル中での表記方法について説明します。

メモ 参考情報を記述します。

注意 特長や技術についての詳細情報を記述します。

警告 設定の組み合わせ、イベントや手順によりネットワークの接続状態やセキュリティなどに悪影響を及ぼす恐れのある事項について説明します。

本マニュアル中での字体、・記号についての表記規則を表します。

字体・記号	解説	例
[]	メニュータイトル、ページ名、ボタン名。	「Submit」をクリックして設定を確定してください。
青字	参照先。	「ご使用になる前に」を参照してください。
太字	画面遷移。	System > About 画面

# 第1章 本製品のご利用にあたって

- 「概要」
- 「ライセンスについて」
- 「サポートデバイスについて」
- •「動作環境」
- ・「D-View7 の概念について」
- 「D-View7 サーバについて」
- 「Probe について」
- ・「センサについて」
- 「データベースについて」
- 「High Availability (高可用性) について」

# 概要

D-View7 は、Web ベースデザインを採用したネットワーク機器管理ソフトウェアです。特別なソフトウェアをインストールすることなく、ブラウザを使用してサーバにアクセスし、ネットワーク機器を管理できます。Server & Probe アーキテクチャを実装しているため、WAN を超えてノード管理する場合も複数の拠点のノードをセキュアに管理することが可能です。

D-View7 は以下のデバイスに対応しています。

- 無線アクセスポイント
- 無線コントローラ
- 統合アクセスポイント
- 統合スイッチ
- SNMP 対応スマートスイッチ / マネジメントスイッチ
- SNMP 対応デバイス

注意 本マニュアルでは、ネットワーク設計および管理の概念について、または SNMP、MIB、RMON などの技術の概念については説明していません。

本マニュアルは、ネットワーキングの概念について精通している方を対象に記述しています。D-View 内のメニューなどで定義する変数に関する説明は行っていません。

# ライセンスについて

「D-View7 Trial Edition」では、ノード 25 台、Probe2 台までが無償で管理可能です。

それ以上のノードまたは Probe をご利用になりたい場合は、有償の追加ライセンスを別途導入いただく必要があります。

追加ライセンスの購入、適用は随時行うことができます。また、追加ライセンスの使用期限はありません。

追加ライセンスには「ノードライセンス」と「Probe ライセンス」があります。

### ● ノードライセンス

ノードとは、D-View7 で検出される SNMP デバイスのことです。Node ライセンスは D-View7 でいくつのデバイスを管理するかが購入の基準となります。

### ● Probe ライセンス

Probe とは、D-View7 サーバとデバイスの間で通信するリモートエージェントのことです。

Probe ライセンスは D-View7 サーバが存在するネットワーク内で 256 台以上のノードを管理する場合、もしくは D-View7 サーバが自身と異なるネットワークのデバイスと通信するために使用する Probe の数が購入の基準となります。

### 追加ライセンスの購入例

### (1) 単一のロケーション (ネットワーク) で「290Node」の管理が必要な場合:

「250 台の Node 管理用ライセンス(DV-700-N250-LIC)」と「25 台の Node 管理用ライセンス(DV-700-N25-LIC)」を追加購入することで、最大 300 台の Node を管理することができるようになります。

「(25Node) (Trial Edition) + (250Node + 25Node) (追加購入分)」

### (2) 4 つのロケーション (ネットワーク) でそれぞれ「5Node」ずつ管理する場合:

「5 台の Probe 用ライセンス(DV-700-P5-LIC)」を追加購入することで、最大 7 つの Probe と 25 台の Node を管理することができるようになります。「(2Probe/25Node)(Trial Edition + (5Probe)(追加購入分)」

# サポートデバイスについて

D-View7 でサポートしているデバイスについて、以下の点にご注意ください。

- D-View7 でサポートしている製品であっても、すべての機能を使用できるわけではありません。予めご了承ください。
- D-View7 を使用して、物理スタックした機器のファームアップグレードを行うことはできません。
- D-View7 を使用する場合、管理する機器のファームウェアは最新のバージョンをお使いになることを強く推奨します。
- 管理する機器のファームウェアが古いバージョンをお使いの場合、以下の状況が発生する可能性があります。
  - 製品の管理ができない
  - SNMPでの設定ができない
  - ファームウェアアップグレードやコンフィグバックアップ/リストア等の機能が利用できない

### サポート対象機器

- DXS-3600 シリーズ
- ・ DXS-3400 シリーズ
- ・ DGS-3630 シリーズ (A1)
- DGS-3620 シリーズ
- ・ DGS-3420 シリーズ
- ・ DGS-3120 シリーズ
- ・ DGS-3000 シリーズ (B1)
- DGS-1510 シリーズ
- DGS-1210 シリーズ (F1)
- DXS-1100-10TS/16TC
- DES-1210 シリーズ(C1/C2)
- DMS-1100 シリーズ
- ・ DGS-1100 シリーズ (B1/B2)
- DIS-200G シリーズ
- DWC-2000
- DWL-8610AP
- DAP-2695
- DAP-3662
- DAP-2360(B1)
- DSR シリーズ (B1)

# 動作環境

# ハードウェア要件

本製品が動作するには、以下のハードウェア要件を満たしている必要があります。

### D-View7 サーバ要件

- CPU:Dual Core 3.0GHz 以上
- メモリ:8GB以上
- ハードディスク容量:120GB以上(C:\(\)Core Server、D:\(\)MongoDB)
- Windows7 Professional Edition 以上(64bit)
- Windows8/8.1 Professional Edition 以上 (64bit)
- Windows10 Professional Edition以上 (64bit)
- Windows Server 2008 R2 Standard Edition 以上(64bit)
- Windows Server 2012 Standard Edition 以上(64bit)
- Windows Server 2016 Standard Edition (64bit)
- Windows Server 2016 Datacenter Edition (64bit)

# D-View7 Probe システム要件

- CPU:Single Core 2.0GHz 以上
- メモリ:2GB以上
- ハードディスク容量:10GB以上
- Windows7 (32bit/64bit)
- Windows8/8.1 (32bit/64bit)
- Windows10 (32bit/64bit)
- Windows Server 2008 (32bit/64bit)
- Windows Server 2008 R2 (64bit)
- Windows Server 2012 (64bit)
- Windows Server 2016 Standard Edition (64bit)
- Windows Server 2016 Datacenter Edition (64bit)

### D-View7 クライアントシステム要件

- CPU:Single Core 2.0GHz 以上
- メモリ:2GB以上
- ・ ブラウザ:Internet Explorer 11 以上、Firefox、Chrome
- 注意 上記は D-View 7 バージョン 1.5 でのハードウェア要件です。
- 注意 MongoDB は、D-View7 インストールドライブとは別のドライブにインストールすることを推奨します。
- 注意 クラスタモードでは、異なるサーバに MongoDB をインストールすることを推奨します。
- 注意 クラスタ構成のセットアップには、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、または Windows Server 2016 のサーバ環境が必要となります。

# D-View7 の概念について

D-View7は、Server & Probe アーキテクチャを実装しています。

それぞれのコンポーネントは基本的な役割を担っており、ともに動作させることでネットワークに対する高い制御レベルと管理能力をネットワーク管理者に提供することができます。

「D-View7 サーバ」は複数の Probe から受信したデータの収集や整理を行い、それらを分析、コンパイルし、グラフやデータビューなどのわかりやすい形式で表示します。

また、サーバは特定のネットワークセグメントやデバイスに対し、複雑なセットアップなどを行わずにメンテナンスや権限付与などを行う中央コマンドセンタとしての役割を果たします。

「Probe」は SNMP デバイスからのデータ収集に使用され、デバイスへのコマンド展開やコアサーバとの通信などを行います。

D-View7 をインストールすると既存のローカル「Probe」を保持することになりますが、ローカルで管理するノード数が 256 台を超える場合、管理者は必要に応じてさらに「Probe」を追加することも可能です。

さらに、「Probe」を使用することで、SNMP 経由ではデバイスへのアクセスが難しい複雑なネットワーク環境やファイアウォール、NAT などに阻まれてアクセスできないネットワークにおいても、ネットワーク管理者がネットワークを監視できるようにします。

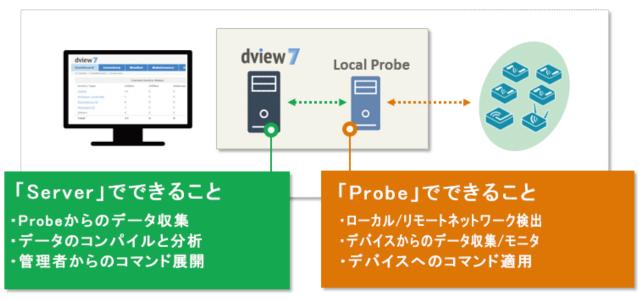


図 1-1 D-View7 概念

注意

Local Probe が管理できる最大ノード数は 256 台です。

# D-View7 サーバについて

Server & Probe アーキテクチャにより、旧式のネットワーク管理システムとは異なり、全ネットワークトポロジのビューを取得することが可能です。 外部からのアクセスできないネットワークセグメントに「Probe」を配置することにより、ネットワーク管理者が、安全でない可能性のある方法でネットワークを再設定することなく、ネットワークリソースのフル制御を得ることができます。

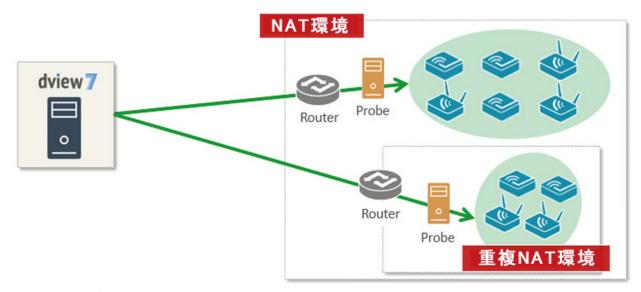


図 1-2 D-View サーバ

Server & Probe アーキテクチャは、監視が必要なネットワークの各セグメントのために、不要なポートをオープンにせずにより安全なネットワーク環境を構築することが可能です。 適切なネットワークセグメント内に Probe を配置することにより、SNMP やトラップなどのポートを悪用される可能性を排除することが可能です。 D-View7 はポート 80 と 443 を使用して、堅牢なネットワークセキュリティを維持したまま、通常のコミュニケーションプロトコルを使用し確かな通信を実現することができます。

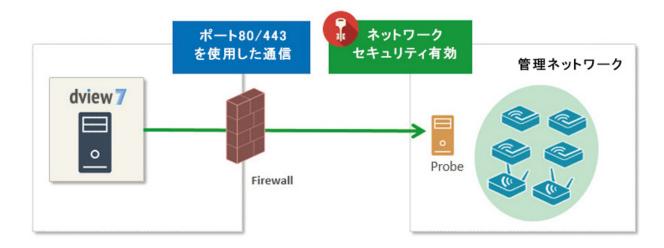


図 1-3 D-View サーバ (ポート/Probe)

注意 コアサーバと Probe サーバ間で HTTPS(443)を使用する場合は、サーバ側の「IIS」を有効に設定してください。

# Probe について

D-View7 における Probe は、ネットワークデバイスと D-View7 サーバを接続する上でのとても重要な要素です。

「Probe」はバックグラウンドプロセスとして動作し、新規デバイスの検出や既存デバイスの統計情報収集、または NAT 環境やファイアウォールに守られたネットワーク内の D-View サーバへのデータ転送における拠点となります。

Probe は D-Link 製品のみでなく、SNMP プロトコルに準拠したあらゆるネットワークデバイスに対応しています。

特定のネットワークセグメントに個別に Probe を配置することにより、D-View7 サーバへ転送されコンパイル / 分析される前にデータは Probe に収集され、帯域制限を緩和する役割もあります。

解放する接続数やすべてのデバイスが直接サーバと通信する必要性を減らすことにより、ネットワークのオーバヘッドを減らすことができます。 ネットワークデバイスをグループに分割することで、多くの基準に基づく識別をより簡単にしたり、与えられたネットワークトポロジに簡単に適用 することができます。

また、Probe に直接接続しているデバイスにおいて、D-View7 の管理者からの再起動、ログ管理、デバイス設定変更のようなコマンドの実行の処理を行うなどの役割も果たします。

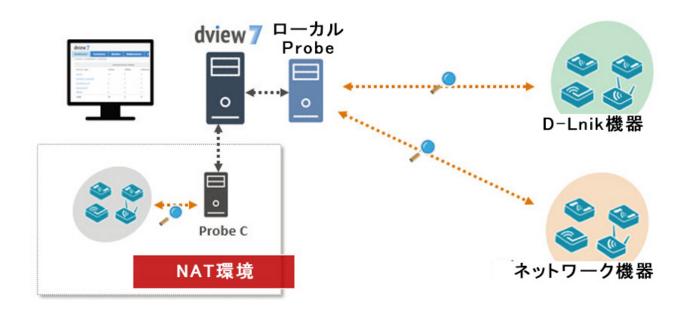


図 1-4 Probe の役割

注意 ローカル Probe が管理するノードが 256 台を超える場合は、同一ネットワーク内の環境であっても Probe サーバを増設する必要があります。

# センサについて

D-View7 には、ネットワーク統計を収集するための多数のセンサ(データの検出)が事前に定義されています。

センサは複数の分析結果に基づく更新情報をネットワーク管理者に提供するために、デバイスレベルでカスタムすることも可能です。管理者は D-View7 サーバにログインし、センサセットアップウィザードを使用して CPU 利用率などのメトリックを指定することができます。その後、デバイス、グループもしくは全ネットワークセグメントにセンサを割り当てます。

センサはデバイスのダッシュボードに配置され、必要な情報のリアルタイム収集、指定した時間間隔での更新、履歴レポートの分析データの保持を行います。

また、センサは D-View7 内の分割されたワークスペースに適用することも可能です。D-View7 内蔵のアクセスコントロールに基づき、異なるネットワーク環境を作成することができます。これにより、同じデバイス数やネットワークトポロジに基づくグループ毎に、個別のワークスペースを作成し、それぞれのチームで重要なポイントに焦点を合わせることが可能になります。

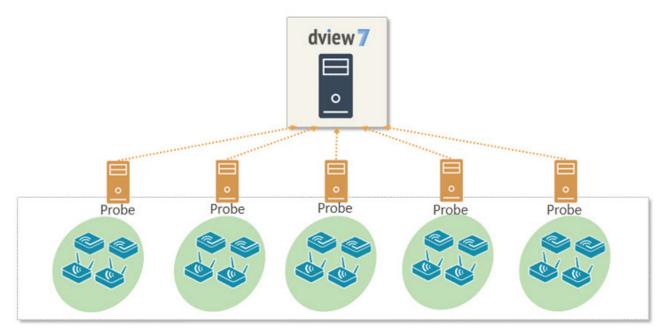


図 1-5 センサ の概要

# データベースについて

D-View7 は「NoSQL」データベースである「MongoDB」上に構成されています。「MongoDB」は「GNU AGPL v3.0」ライセンスと「Apache License v2.0」に基づくドライバーを基に構築されています。

「MongoDB」は高パフォーマンス、高可用性、そして自動スケーリングを提供するデータベースです。

# 「MongoDB」の重要な機能

- ・ データベースシステムの I/O アクティビティを削減するデータモデルをサポート
- ・ インデックスにより高速のクエリ検索とアレイやドキュメントのキーを含んだ検索をサポート
- 自動フェイルオーバ
- ・ 冗長データ提供
- ・ マシンクラスタへの自動的データ分配
- 低レイテンシー、高スループット環境で一貫性のある読み取りを提供するレプリカセット

「MongoDB」について詳しくは下記を参照してください。

http://www.mongodb.org

http://docs.mongodb.org/manual/administration/production-notes/

注意 使用環境において「D-View7」と「MongoDB」が 64 ビットの OS 上にインストールされている必要があります。



図 1-6 MongoDB

# High Availability(高可用性)について

D-View7 は、High Availability(HA/高可用性)システムとして構成することが可能です。これにより、サーバの負荷を抑制する一方で、障害時におけるサービス継続を可能にしシステムの信頼性を向上させます。D-View7 と MongoDB の両サーバは、いずれも HA 構成でインストールすることが可能です。フォールトトレランス・アーキテクチャにより、個々のノードでオフライン状態となる場合であっても、ネットワークへ影響を与えることはありません。

D-View7 は以下の 2 つのタイプの HA 構成でインストールすることができます。

- 単一の MongoDB インスタンスと複数の D-View7 インスタンス
- ・ 複数の MongoDB インスタンスと複数の D-View7 インスタンス

本システムの HA 構成は Windows Server Network Load Balancing (NLB) ツールを用いた仕組みであり、クライアントから D-View7 クラスタへの接続には、両サーバ共通となるクラスタ IP が使用されます。マスターサーバ上では、D-View 7 Core Server、D-View 7 License Agent server、D-View 7 Probe server、D-View 7 Probe File Server サービスが実行され、スレーブサーバ上では D-View 7 Core Server サービスのみが実行されます。マスターおよびスレーブの 2 台の D-View7 サーバは、単一の MongoDB インスタンスに接続します。なお、この MongoDB インスタンスは、単一サーバもしくはクラスタ構成でインストールすることができます。

MongoDB は単一のサーバとしてもクラスタサーバとしても導入することができます。

クラスタモードで導入する場合、Primary サーバ 1 台と Secondary サーバ複数台、オプションの Arbiter サーバによって構成されます。
Primary サーバはデータベースの読み書きを行うことが可能であり、Secondary サーバはデータベースの閲覧のみ可能です。障害発生時には、Secondary サーバが Primary サーバに切り替わります。Secondary サーバの台数が偶数の場合は、Arbiter サーバが選出プロセスの管理に利用されます。

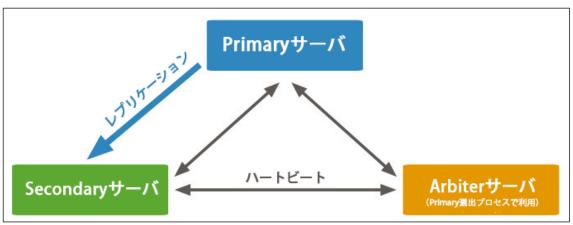


図 1-7 HA 構成

MongoDB を HA 構成でインストールする場合、Primary サーバと Secondary サーバに加えて、Arbiter サーバのインストールが推奨されます。 Arbiter サーバ用に専用のサーバを準備する必要はありません。Arbiter サーバは、ローカルネットワーク経由で直接接続することが可能な同じサブネット内のホストにインストールすることができます。

# 第2章 製品のインストール

- 「インストール要件」
- •「インストール(シングルサーバ)」
- •「インストール(複数 D-View7 サーバ、シングル MongoDB サーバ)」
- 「シングルサーバから複数サーバへの移行(D-View7)」
- 「ライセンスのアクティベーション」
- 「D-View のアップグレード」
- 「D-View7 へのログイン」
- 「D-View7 からのログアウト」
- 「アンインストール」

# インストール要件

D-View7 をインストールするには、以下の要件を満たしている必要があります。

- ・ 構成の種類(シングルサーバ、複数 D-View サーバ /HA 構成)に適した数のホストがある
- ・ ホストが動作環境の要件を満たしてる (「動作環境」を参照してください。)
- ホストがインターネットにアクセスできるネットワークに接続されている

さらに、以下の要件を満たしている必要があります。

インストール時に対応していない場合、インストールウィザードにてインストールが行われます。

- IIS
- .NET Framework 4.0
- Windows Firewall が有効
- ASP、ASP.NET、ISAPI Extensions、ISAPI フィルタがインストールされている
- · MongoDB

インストールを開始するには、「D-View7 セットアップアプリケーション」をウェブサイトからダウンロードします。ダウンロード完了後、アプリケーションをダブルクリックしてインストールを開始します。

セットアップアプリケーションでは、Trial Edition の動作に必要なすべてのコンポーネントをインストールします。Trial Edition ではノード 25 台、Probe2 台までを管理できます。追加ライセンスを有効化する方法は、「ライセンスのアクティベーション」を参照してください。

注意

クラスタ構成のセットアップには、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、または Windows Server 2016 のサーバ環境が必要となります。

# インストール (シングルサーバ)

1. セットアップアプリケーションをダブルクリックし、インストールウィザードを開始します。「Core Server Type」に「Single Server」を選択し、「OK」をクリックします。



図 2-1 Install Wizard

2. 必要なコンポーネントがインストールされ、正しく設定されているかチェックします。 チェック完了後、「Start Installation」をクリックしインストールを続行します。

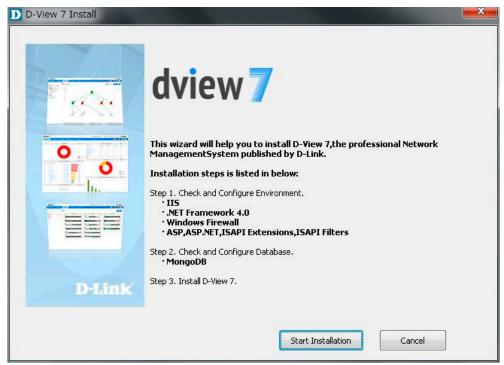


図 2-2 Start Installation

3. 必要なコンポーネントがインストールまたは設定されていない場合、ダウンロード、インストール、設定を行う必要があります。 該当するコンポーネントには赤い「×」マークが表示されます。

「Configuring the Installation Environment」をクリックし、ダウンロード、インストール、設定を実行します。

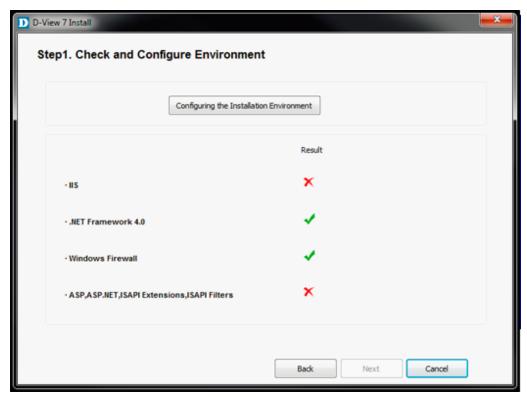


図 2-3 Step1 Check and Configure Environment 01

4. コンポーネントの現在の状況が表示されます。

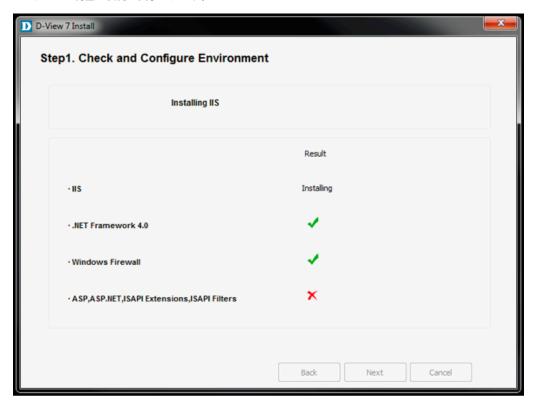


図 2-4 Step1 Check and Configure Environment 02

5. ネットワーク接続のスピードが遅い場合、または追加コンポートネントが既にインストールされているが正しく設定されていない場合は、セットアップアプリケーションの完了までに数分かかることがあります。

インストール済みのコンポーネントであっても他のアプリケーションに影響のある設定変更が行われる場合は、ユーザによる確認が必要な場合があります。

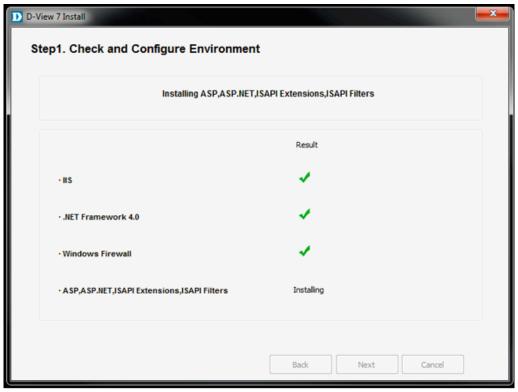


図 2-5 Step1 Check and Configure Environment 03

**6.** セットアップとシステム環境の設定が終了すると、全てのコンポーネントの「Result」のチェックが緑色になります。「Next」をクリックし、インストールプロセスを続行します。

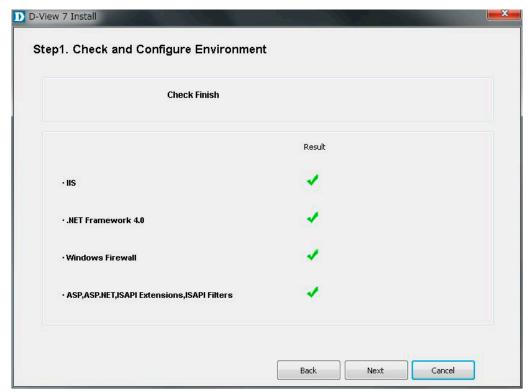


図 2-6 Step1 Check and Configure Environment 04

7. D-View7 を使用するには、「MongoDB」をインストールする必要があります。 ウィザードで新しく「MongoDB」をインストール、または既存の(インストール済みの)「MongoDB」を使用することもできます。

「Install a new MongoDB」(MongoDB をインストール)または「Existing MongoDB」(既存の MongoDB)を選択し、「Next」をクリックします。

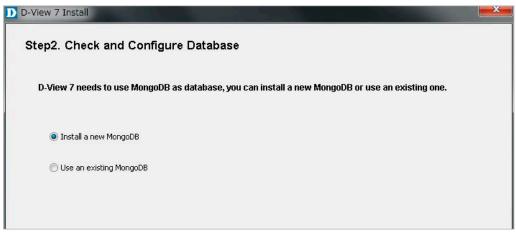


図 2-7 Step2 Check and Configure Database 01

- 8. 既存の「MongoDB」を使用する場合、MongoDB データベースの詳細を入力します。
  - 「MongoDB Host Address」: MongoDB ホストの IP アドレスもしくはドメイン名を入力します。
  - •「Password Authentication」:
    MongoDB の接続でパスワード認証が必要な場合は、「Password Authentication」にチェックを入れて「UserName」(ユーザ名)と「Password」
    (パスワード)を入力します。
  - 「Check Connection」: クリックし、アカウント資格の有効性を確認します。

「MongoDB」アカウント資格の有効性が認められた後、「Next」をクリックしてインストールを続行します。

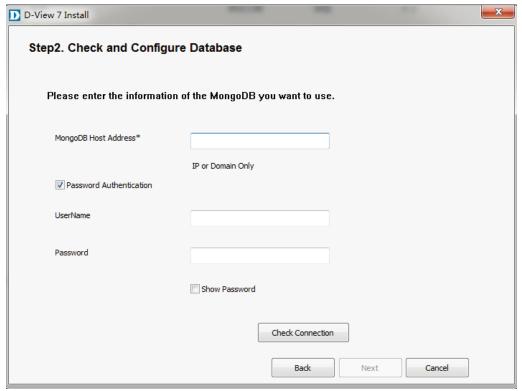
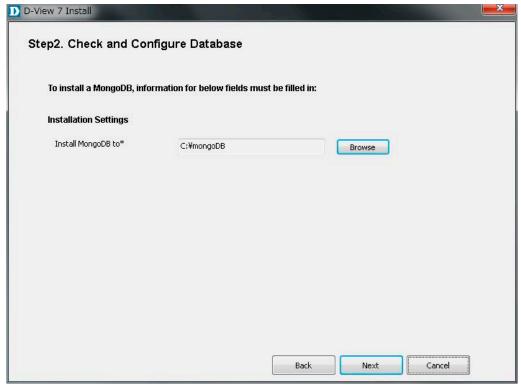


図 2-8 Step2 Check and Configure Database 02

MongoDB ツールを使用してデータベースを version2.6.5 から 3.2.6 以上にアップグレードする場合、「Password Authentication」のチェックは外してください。

9. 新規の「MongoDB」を使用する場合は、「Browse」をクリック → MongoDB アプリケーションをインストールするフォルダを指定します。 「Next」をクリックし、インストールを続行します。



**10.** 必要なデータベースの作成などを行い、インストールを続行します。 ネットワーク接続のスピードが遅い場合、または、追加コンポーネントが必要な場合には、インストールが完了まで数分かかる場合があります。 D-View7 が他のアプリケーションに影響する変更を行うときは、ユーザによる確認が必要な場合があります。

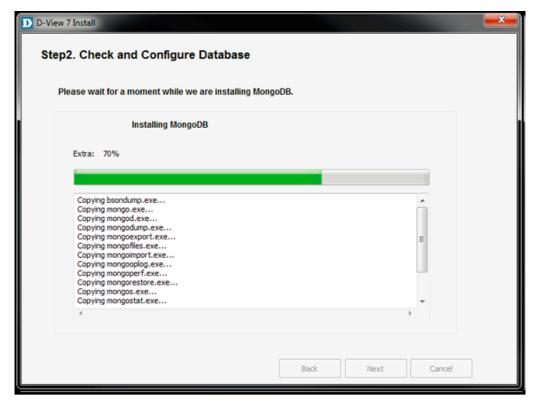


図 2-10 Installing MongoDB

**11.** 「MongoDB」のインストールが終了すると、「MongoDB」サービスをロードし D-View7 データベースを初期化します。 D-View が新規のデータベースを使用するか既存のデータベースを使用するかによって、初期化のプロセス完了に数分かかる場合があります。

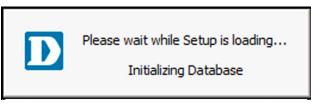


図 2-11 Initializing Database

**12.** データベースのセットアップが完了しサービスが開始されると、D-View7 のセットアップが続行されます。 ライセンスに合意し、「Next」をクリックします。

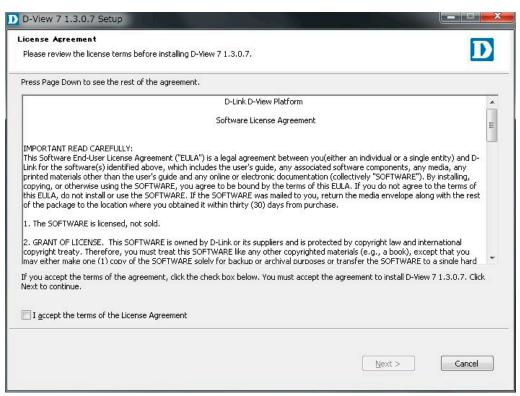


図 2-12 License Agreement

- 13. 以下の項目を設定します。設定完了後、「Next」をクリックします。
  - 「Install D-View to」:

通常 D-View7 のアプリケーションは「Program Files」のディレクトリ ("C:\Program Files\D-Link\D-View7\") にインストールされます。違うディレクトリへのインストールを希望する場合、「Browse」をクリックし別の場所を指定します。

• 「D-View 7 Web Url」:

D-View7 アプリケーションにアクセスするための、初期 URL を入力します。 domainname.com のようなホスト名か、192.168.0.100 のような IP アドレスのどちらかにすることができます。

• 「Web Destination Folder」:

通常("C:\inetpub\wwwroot\DView7 Web\")になります。 違うパスを使用する場合は、「Browse」をクリックし、D-View7 Web ファイル がインストールされる別の場所を指定します。

- 「Local Probe IP Address」:
  - ドロップダウンメニューで、Probe がどのサブネットをモニタするかを決定する正しい IP アドレスを指定します。

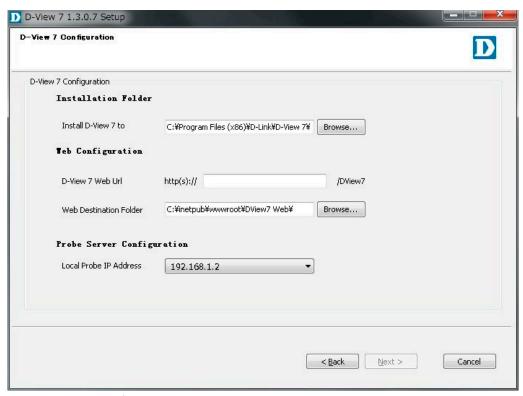


図 2-13 D-View 7 Configuration

14. Windows スタートメニューに表示される D-View7 のフォルダ名を入力し、「Install」をクリックします。

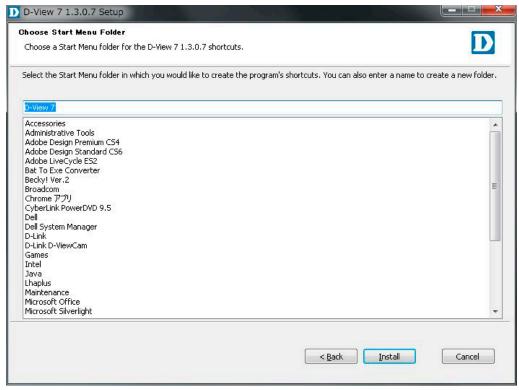


図 2-14 Choose Start Menu Folder

**15.** インストールの進捗状況が表示されます。インストール完了まで数分かかる場合があります。インストール完了後、「Next」をクリックします。

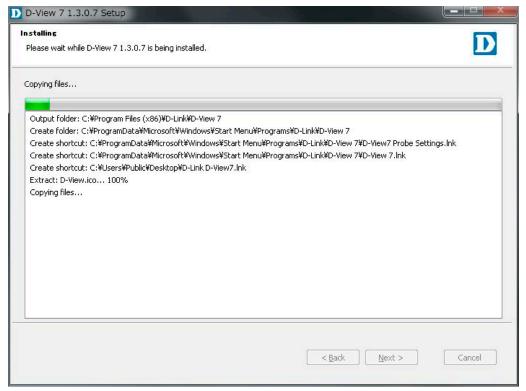


図 2-15 Installing

16. インストール完了後、システムに行った変更のサマリが表示されます。「Next」をクリックします。

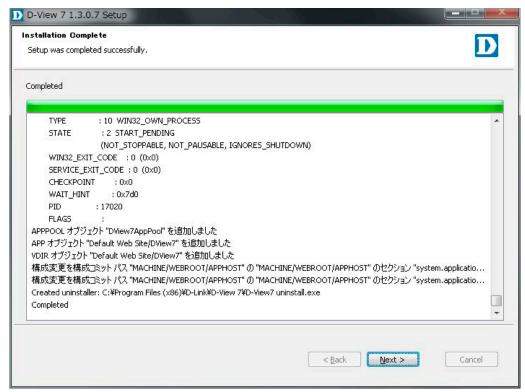


図 2-16 Installation Complete

17. 「Finish」をクリックし、インストールウィザードを終了します。



図 2-17 Completing

以下の URL を Web ブラウザに入力し、D-View7 にアクセスできます。

• http://< ホスト名または IP アドレス >/DView7/

### 注意 コアサーバと MongoDB の依存関係を設定する

D-View サービスを起動するときは、コアサーバサービスを実行する前に、MongoDB サービスが先に開始されていることを確認してください。この構成により、Core Server と MongoDB の間に依存関係が作成され、D-View が正しく起動できるようになります。

# インストール(複数 D-View7 サーバ、シングル MongoDB サーバ)

インストール前に、2 台以上のホストが同じサブネット上に存在し、ICMP Ping でお互いに通信が可能な状態であることを確認してください。 さらに、両サーバ上に Network Load Balancing(NLB)サービスがインストールされ、アクティブな状態であることを確認してください。 これらのホストが D-View7 サーバとなります。また、MongoDB 用に最低 1 台のサーバが必要です。

# MongoDB のインストール

MongoDB ホスト上で、MongoDB のセットアップツールを実行します。
 「Utility Usage Announcement」が表示されるので、確認後「Agree」をクリックします。

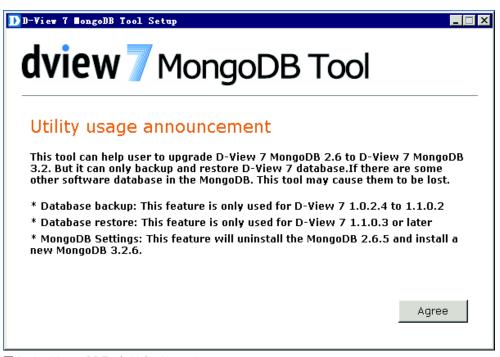


図 2-18 MongoDB Tool - Utility Usage Announcement

2. 「Check」をクリックし、MongoDB がインストールされているかどうか確認します。

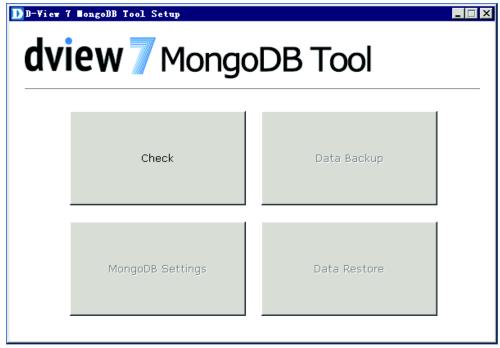


図 2-19 MongoDB Tool - Check

既にインストールされている場合、データベースのリストアを行うかどうかを選択します。インストールされていない場合、「MongoDB Settings」をクリックし、MongoDB をインストールします。

3. 「MongoDB Settings」をクリックし、MongoDB のインストールを開始します。

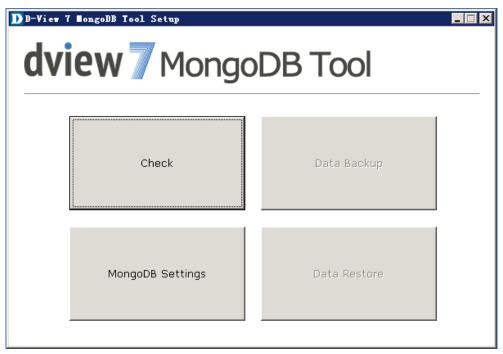


図 2-20 MongoDB Tool - MongoDB Settings

4. MongoDB をインストールするディレクトリを選択し、「Install」をクリックします。



図 2-21 MongoDB Tool - MongoDB Path

**5.** MongoDB のインストールが完了すると、メッセージ(MongoDB Install Succsessfully!)が表示されます。「Cancel」をクリックし、メイン画面に戻ります。

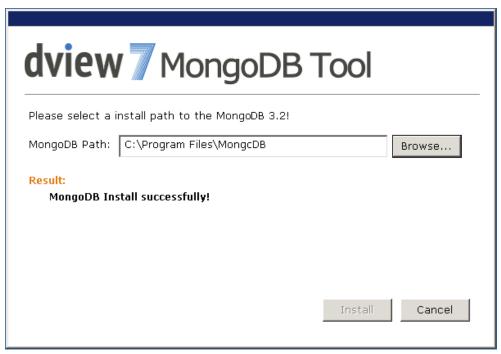


図 2-22 MongoDB Tool - Installation success

# Network Load Balancing Manager(ネットワーク負荷分散マネージャ)の設定

1. D-View7 クラスタのノード 1 で、Network Load Balancing Manager <sup>※ 1</sup>(ネットワーク負荷分散マネージャ)を開きます。 「Network Load Balancing Cluster」(ネットワーク負荷分散クラスタ)を右クリックし、「New Cluster」(新しいクラスタ)を選択します。

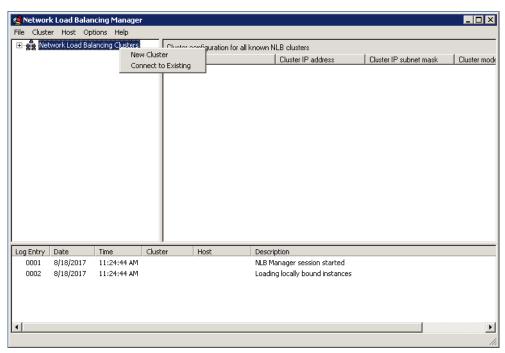


図 2-23 Network Load Balancing Manager

※ 1:Network Load Balancing Manager(ネットワーク負荷分散マネージャ)は、NLB クラスタを管理することのできる Windows サーバ の管理ツールです。Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2016 において、機能の追加ウィザードからインストールすることが可能です。

ノード1のIPアドレスを入力し、「Connect」をクリックします。
 接続状態が「Connected」と表示されたら、「Next」をクリックします。

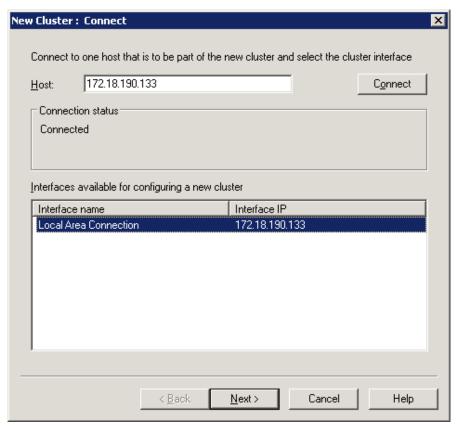


図 2-24 Network Load Balancing Manager - New Cluster: Connect

3. ノード1の「Priority(優先順位)」を設定します。各 D-View7 サーバのパフォーマンスが同等でない場合は、より高性能なサーバに低い数値を 設定してください。低い数値のサーバがマスタサーバになります。 設定後、「Next」をクリックします。

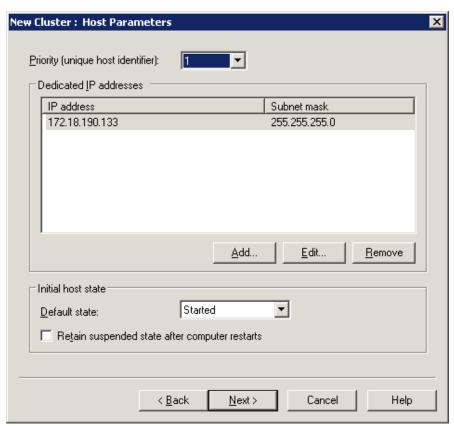


図 2-25 Network Load Balancing Manager - New Cluster: Host Parameters

**4.** 「Add」をクリックし、仮想クラスタの IP アドレスを入力します。このアドレスには、ホストアドレスと同じサブネットを設定してください。 設定後、「Next」をクリックします。

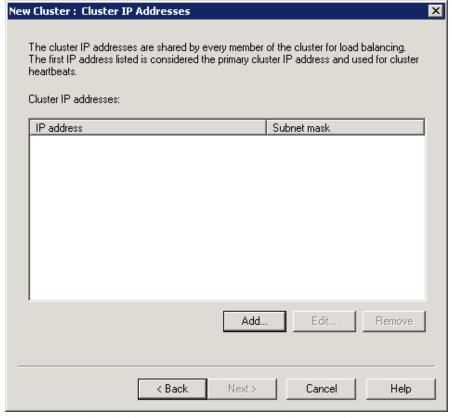
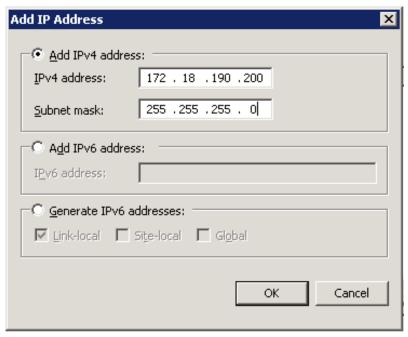


図 2-26 Network Load Balancing Manager - New Cluster: Cluster IP Addresses



🗵 2-27 Network Load Balancing Manager - Add IP Address

**5.** 仮想クラスタ IP の FQDN(完全修飾ドメイン名)を設定し、クラスタ操作モードとして「Multicast」を選択します。 設定後、「Next」をクリックします。

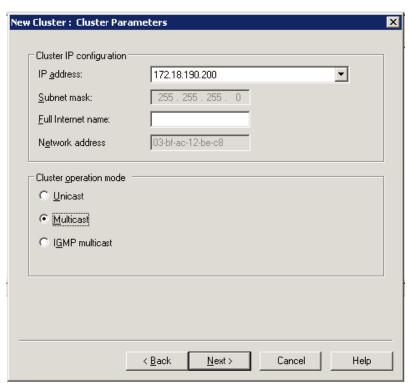


図 2-28 Network Load Balancing Manager - New Cluster : Cluster Parameters

**6.** Port Rules(ポートの規則)画面では、「Add」をクリックしてポートの規則を追加できます。「Finish」をクリックし、ノード1のクラスタ構成を終了します。

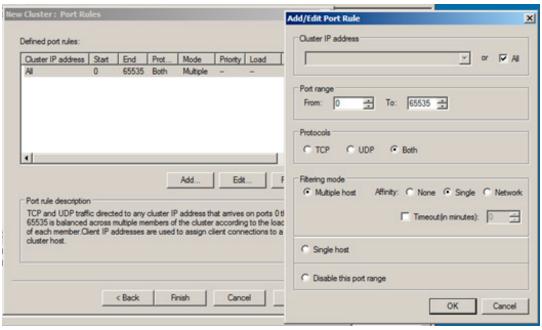


図 2-29 Network Load Balancing Manager - Port Rules

7. Network Load Balancing Manager (ネットワーク負荷分散マネージャ) 画面でホストのステータスが「Converged」に更新されるまで待機します。 ステータスが更新されたら、クラスタ名を右クリックし「Add Host To Cluster」(ホストをクラスタに追加)を選択します。

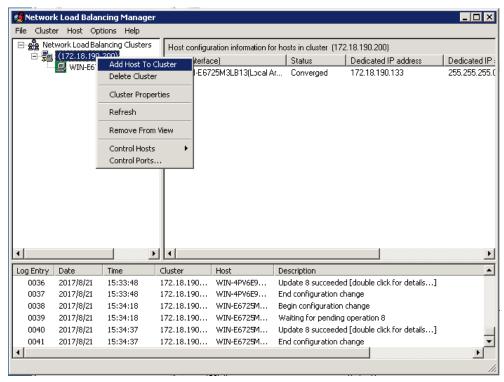


図 2-30 Network Load Balancing Manager

8. ノード2のIPアドレスを入力し、ノード1の手順と同様にクラスタにノードを追加します。

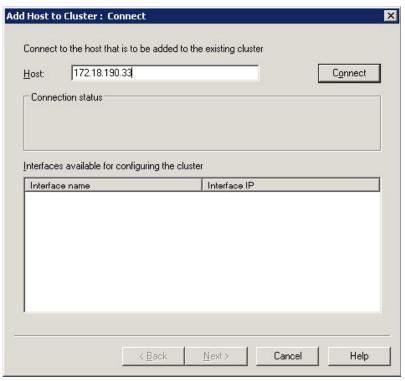


図 2-31 Network Load Balancing Manager - Add Host to Cluster: Connect

**9.** 設定完了後、ノード 2 上で Network Load Balancing Manager(ネットワーク負荷分散マネージャ)を開きます。 パネル左側の「NetworkLoad Balancing Clusters」(ネットワーク負荷分散クラスタ)を右クリックします。

「Connect to Existing」(既存の NLB クラスタに接続)をクリックしてのノード 1 の IP アドレスを入力します。 「Connect」をクリックし、接続状態が「Connected」と表示されたら「Finish」をクリックしてノード 2 の追加作業を終了します。

これらの設定が完了すると、手順の中で割り当てた仮想 IP アドレスを使用してクラスタに接続できます。

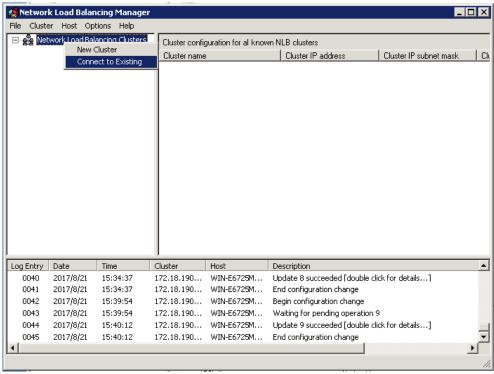


図 2-32 Network Load Balancing Manager

# D-View7 のインストール

D-View7 クラスタのノード 1 上で、D-View7 インストールパッケージを実行します。
 「Core Server Type」に「Cluster Server」、「Cluster Role」に「Master」を選択 →「OK」をクリックします。



図 2-33 Install Wizard

2. 必要なコンポーネントがインストールされ、正しく設定されているかチェックします。 チェック完了後、「Start Installation」をクリックしインストールを続行します。

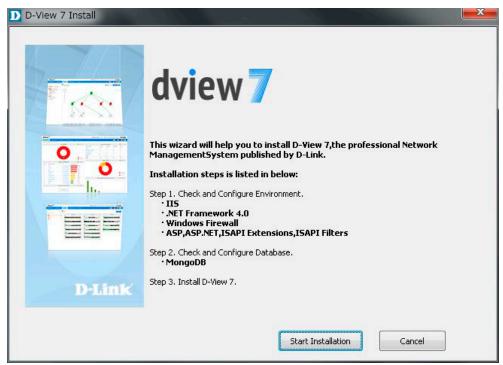


図 2-34 Start Installation

3. セットアップとシステム環境の設定が終了すると、全てのコンポーネントの「Result」のチェックが緑色になります。「Next」をクリックし、インストールプロセスを続行します。

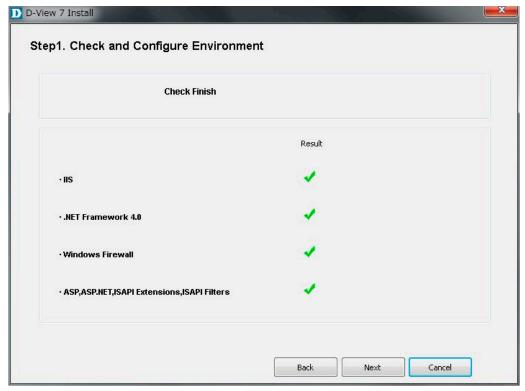


図 2-35 Step1. Check and Configure Environment

- 4. MongoDB データベースの詳細を入力します。
  - 「MongoDB Host Address」: MongoDB ホストの IP アドレスもしくはドメイン名を入力します。
  - 「Password Authentication」:
    MongoDB の接続でパスワード認証が必要な場合、「Password Authentication」にチェックを入れ、ユーザ名とパスワードを入力します。
  - 「Check Connection」: クリックして、アカウント資格の有効性を確認します。

「MongoDB」アカウント資格の有効性が認められた後、「Next」をクリックしてインストールを続行します。

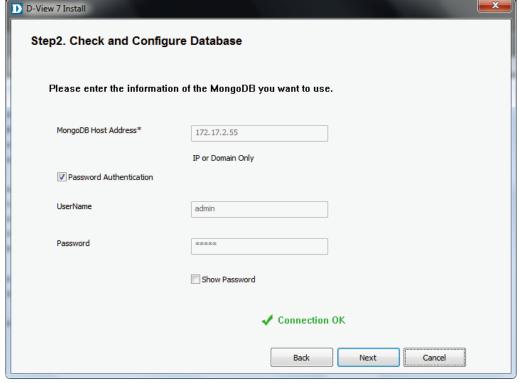


図 2-36 Step2. Check and Configure Database

### 第2章 製品のインストール

**注意** MongoDB ツールにより MongoDB をインストールした場合、「Password Authentication」項目のチェックを外してください。通常はこの方法でインストールを行います。

|注意 D-View7 のインストール時に MongoDB がインストールされている場合、「UserName」と「Password」に「admin」を入力します。

注意 上記以外の方法で MongoDB のセットアップを行った場合、設定時のユーザ名とパスワードを入力してください。

5. ライセンスに合意する場合は「I accept the terms of the license Agreement」にチェックを入れ、「Next」をクリックします。

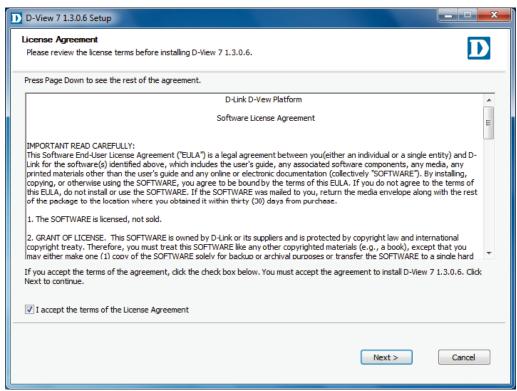


図 2-37 License Agreement

- 6. 以下の項目を設定します。設定完了後、「Next」をクリックします。
  - 「Install D-View to」:

通常 D-View7 のアプリケーションは「Program Files」のディレクトリ ("C:\Program Files\D-Link\D-View7\") にインストールされます。違うディレクトリへのインストールを希望する場合、「Browse」をクリックし別の場所を指定します。

• 「D-View 7 Web Url」:

D-View7 アプリケーションにアクセスするための、初期 URL を入力します。domainname.com のようなホスト名か、192.168.0.100 のような IP アドレスのどちらかにすることができます。

• 「Web Destination Folder」:

通常("C:\inetpub\wwwroot\DView7 Web\")になります。 違うパスを使用する場合は、「Browse」をクリックし、D-View7 Web ファイル がインストールされる別の場所を指定します。

• 「Local Probe IP Address」:

ドロップダウンメニューで、Probe がどのサブネットをモニタするかを決定する正しい IP アドレスを指定します。

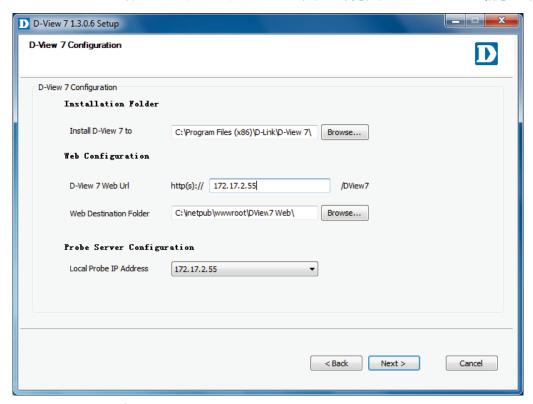


図 2-38 D-View7 Configuration

注意 D-View7の URL には、クラスタ IP アドレスを設定します。

7. Windows スタートメニューに表示される D-View7 のフォルダ名を入力し、「Install」をクリックします。

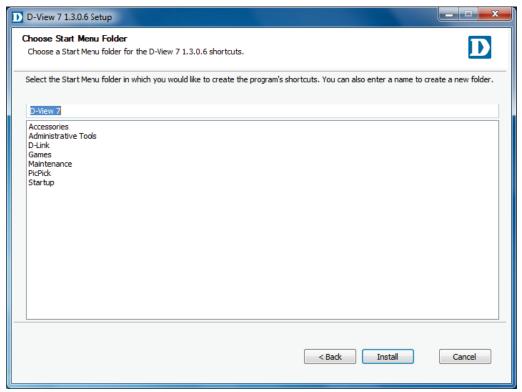


図 2-39 Choose Start Menu Folder

8. インストールの進捗状況が表示されます。インストール完了まで数分かかる場合があります。 インストール完了後、「Next」をクリックします。

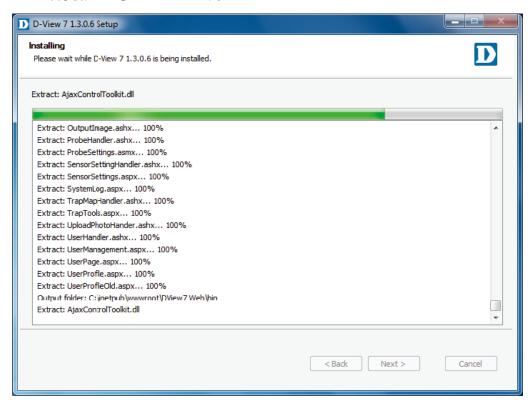


図 2-40 Installing

9. 「Finish」をクリックし、インストールウィザードを終了します。

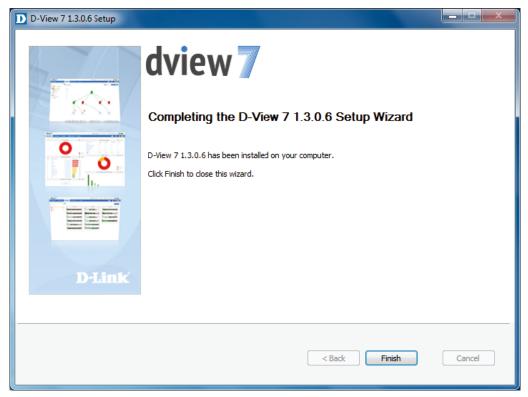


図 2-41 Completing

**10.** 続いて、D-View クラスタのノード 2 上でも同様に D-View7 のインストールを行います。 ノード 2 の設定の際は、「Core Server Type」に「Cluster Server」、「Cluster Role」に「Slave」を選択してください。

注意 以下の URL を Web ブラウザに入力し、D-View7 にアクセスできます。 <cluster IP> には NLB 構成で設定した仮想クラスタ IP を指定します。

- http://<cluster IP>/DView7
- ・ https://<cluster IP>/DView7(SSL を使用している場合)

# シングルサーバから複数サーバへの移行(D-View7)

本項目では、シングル D-View7 サーバから複数 D-View7 サーバへの移行方法について説明します。

移行は以下の流れで行います。

- (1) 既存の D-View7 サーバから D-View7 をアンインストール
- (2) Network Load Balancing Manager(ネットワーク負荷分散マネージャ)の設定
- (3) D-View7 のインストール
- (4) データベースから既存 D-View7 サーバの IP を削除する

#### (1) D-View7 をアンインストール

既存の D-View7 サーバから D-View7 のみをアンインストールし、MongoDB はインストールされたままの状態にします。 この既存の D-View7 サーバが、新しくセットアップされる 2 台の D-View7 サーバの MongoDB ホストとなります。

移行を開始する前に、アップグレードする既存の D-View7 サーバの他に、同じサブネット上に 2 台以上のホストが用意されていることを確認してください。

また、これらすべてのサーバが ICMP Ping を使用してお互いに通信が可能な状態であり、新しく D-View7 サーバとなる 2 台のサーバ上には Network Load Balancing(NLB)サービスがインストールされ、アクティブな状態であることを確認してください。

注意

アンインストールプロセスを実行する際、MongoDB も同様にアンインストールするかどうかを尋ねられます。必ず「No」を選択してください。D-View7 クラスタ構成で必要となります。

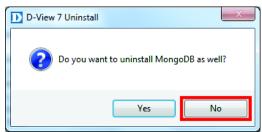


図 2-42 D-View7 Uninstall

注意 D-View コアサーバをアンインストールする前に、ライセンスを解放してください。 ライセンスを解放する手順については「ライセンスの解放」を参照してください。

D-View7のアンインストール手順については、「アンインストール」を参照してください。 アンインストール完了後、次ページ以降の手順を実施してください。

# (2) Network Load Balancing Manager (ネットワーク負荷分散マネージャ) の設定

D-View7 クラスタのノード 1 で、Network Load Balancing Manager (ネットワーク負荷分散マネージャ)を開きます。
 「Network Load Balancing Cluster」(ネットワーク負荷分散クラスタ)を右クリックし、「New Cluster」(新しいクラスタ)を選択します。

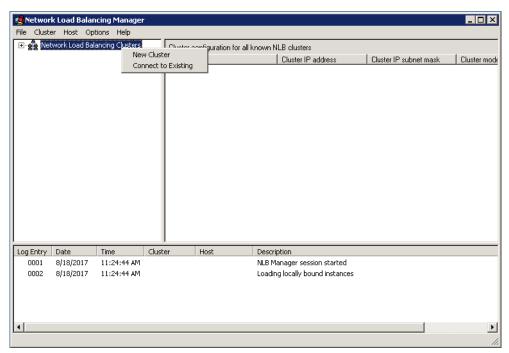
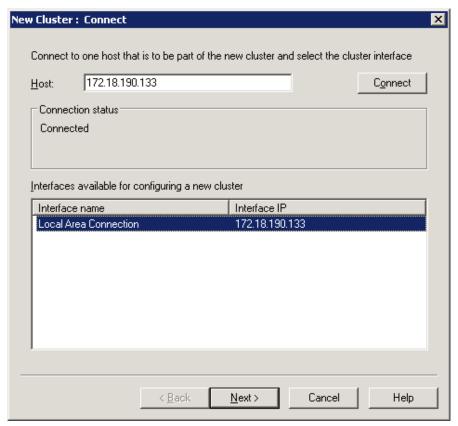


図 2-43 Network Load Balancing Manager

**2**. ノード1の IP アドレスを入力し、「Connect」をクリックします。接続状態が「Connected」と表示されたら、「Next」をクリックします。



🗵 2-44 Network Load Balancing Manager - New Cluster: Connect

3. ノード1の「Priority」(優先順位)を設定します。各 D-View7 サーバのパフォーマンスが同等でない場合は、より高性能なサーバに低い数値を 設定してください。低い数値のサーバがマスタサーバになります。 設定後、「Next」をクリックします。

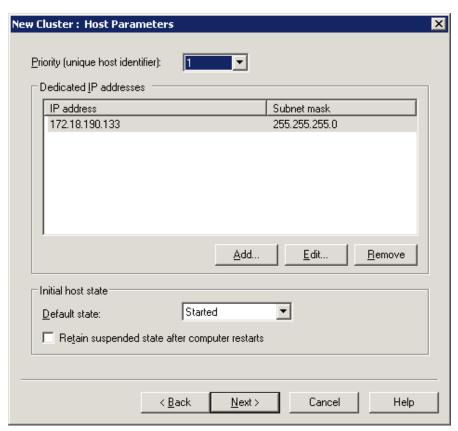
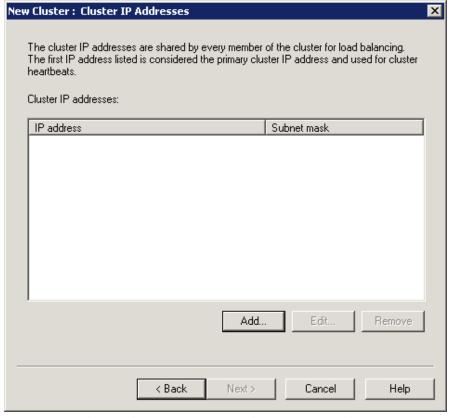
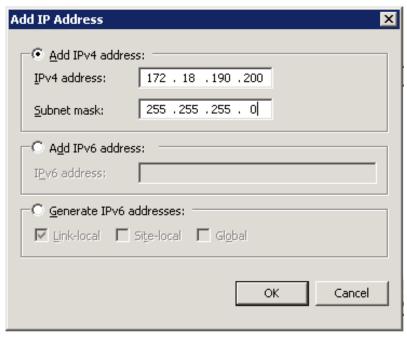


図 2-45 Network Load Balancing Manager - New Cluster: Host Parameters

**4.** 「Add」をクリックし、仮想クラスタの IP アドレスを入力します。このアドレスには、ホストアドレスと同じサブネットを設定してください。 設定後、「Next」をクリックします。



🗵 2-46 Network Load Balancing Manager - New Cluster : Cluster IP Addresses



🗵 2-47 Network Load Balancing Manager - Add IP Address

**5.** 仮想クラスタ IP の FQDN(完全修飾ドメイン名)を設定し、クラスタ操作モードとして「Multicast」を選択します。 設定後、「Next」をクリックします。

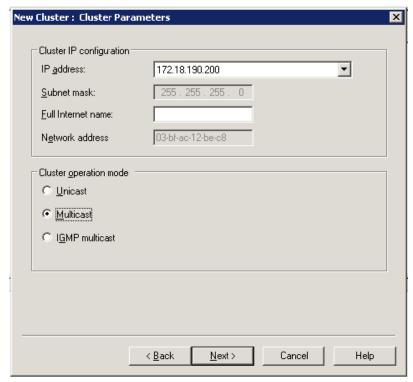


図 2-48 Network Load Balancing Manager - New Cluster: Cluster Parameters

**6.** Port Rules(ポートの規則)画面では、「Add」をクリックしてポートの規則を追加できます。「Finish」をクリックし、ノード1のクラスタ構成を終了します。

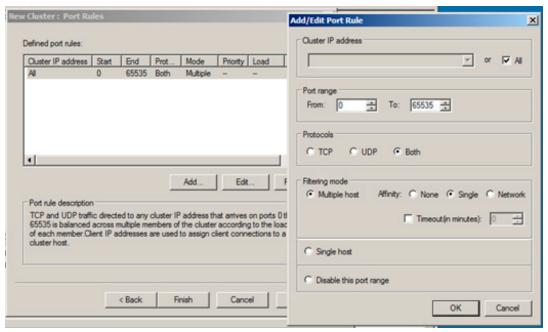


図 2-49 Network Load Balancing Manager - Port Rules

7. Network Load Balancing Manager (ネットワーク負荷分散マネージャ) 画面でホストのステータスが「Converged」に更新されるまで待機します。 ステータスが更新されたら、クラスタ名を右クリックし「Add Host To Cluster」(ホストをクラスタに追加)を選択します。

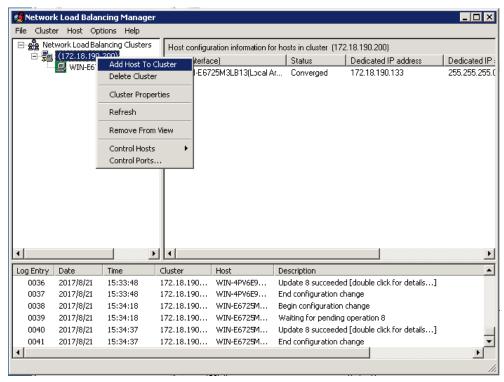


図 2-50 Network Load Balancing Manager

8. ノード2のIPアドレスを入力し、ノード1の手順に従ってクラスタにノードを追加します。

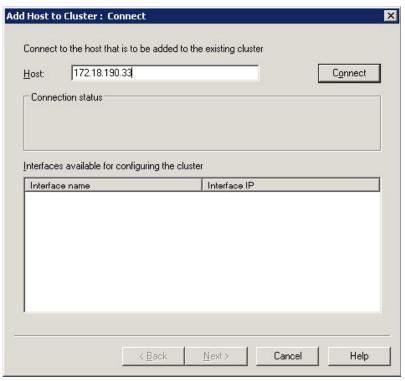


図 2-51 Network Load Balancing Manager - Add Host to Cluster: Connect

**9.** 設定完了後、ノード 2 上で Network Load Balancing Manager(ネットワーク負荷分散マネージャ)を開きます。 パネル左側の「NetworkLoad Balancing Clusters」(ネットワーク負荷分散クラスタ)を右クリックします。

「Connect to Existing」(既存の NLB クラスタに接続)をクリックしてのノード 1 の IP アドレスを入力します。 「Connect」をクリックし、接続状態が「Connected」と表示されたら「Finish」をクリックしてノード 2 の追加作業を終了します。

これらの設定が完了すると、手順の中で割り当てた仮想 IP アドレスを使用してクラスタに接続できます。

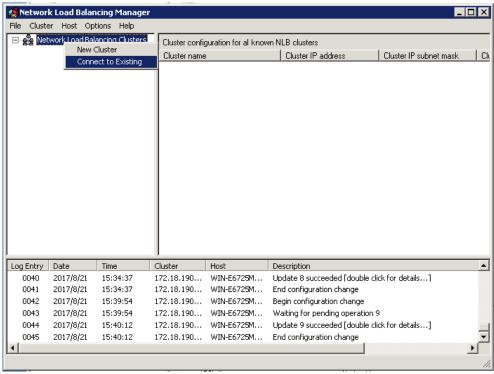


図 2-52 Network Load Balancing Manager

# (3) D-View7 のインストール

D-View7 クラスタのノード 1 上で、D-View7 インストールパッケージを実行します。
 「Core Server Type」に「Cluster Server」、「Cluster Role」に「Master」を選択 →「OK」をクリックします。



図 2-53 Install Wizard

2. 必要なコンポーネントがインストールされ、正しく設定されているかチェックします。チェック完了後、「Start Installation」をクリックしインストールを続行します。

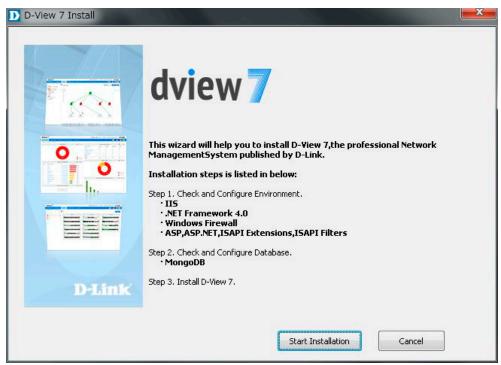


図 2-54 Start Installation

3. セットアップとシステム環境の設定が終了すると、全てのコンポーネントの「Result」のチェックが緑色になります。「Next」をクリックし、インストールプロセスを続行します。

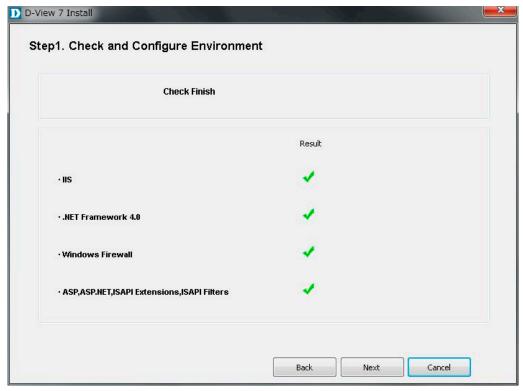


図 2-55 Step1. Check and Configure Environment

- **4.** MongoDB データベースの詳細を入力します。
  - 「MongoDB Host Address」:
    MongoDB ホストの IP アドレスもしくはドメイン名を入力します。
  - •「Password Authentication」: パスワード認証チェックボックスのチェックを外します。MongoDB が以前の D-View 7 インストールの一部としてインストールされた場合、 ユーザー名とのパスワードに「admin」と入力します。
  - 「Check Connection」: クリックし、アカウント資格の有効性を確認します。

「MongoDB」アカウント資格の有効性が認められた後、「Next」をクリックしてインストールを続行します。

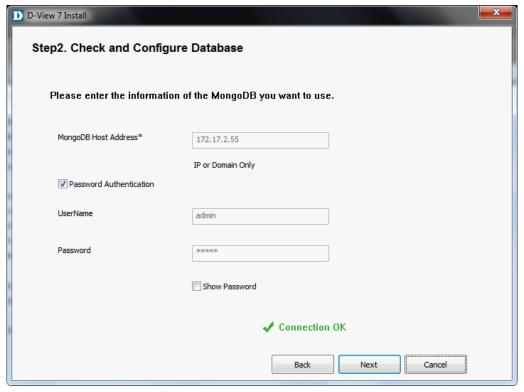


図 2-56 Step2. Check and Configure Database

注意 シングルサーバで利用していた MongoDB を使用する場合、そのサーバの情報を入力します。

5. ライセンスに合意する場合は「I accept the terms of the License Agreement」にチェックを入れ、「Next」をクリックします。

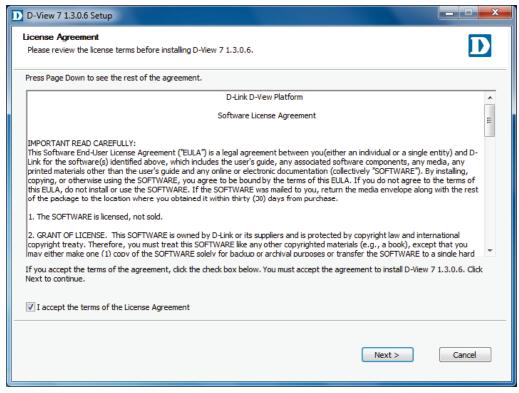


図 2-57 License Agreement

- 6. 以下の項目を設定します。設定完了後、「Next」をクリックします。
  - 「Install D-View to」:

通常 D-View7 のアプリケーションは「Program Files」のディレクトリ ("C:\Program Files\D-Link\D-View7\") にインストールされます。違うディレクトリへのインストールを希望する場合、「Browse」をクリックし別の場所を指定します。

• 「D-View 7 Web Url」:

D-View7 アプリケーションにアクセスするための、初期 URL を入力します。domainname.com のようなホスト名か、192.168.0.100 のような IP アドレスのどちらかにすることができます。

•  $\lceil \text{Web Destination Folder} \rfloor$ :

通常("C:\inetpub\www.root\DView7 Web\")になります。 違うパスを使用する場合は、「Browse」をクリックし、D-View7 Web ファイルがインストールされる別の場所を指定します。

• 「Local Probe IP Address I :

ドロップダウンメニューで、Probe がどのサブネットをモニタするかを決定する正しい IP アドレスを指定します。

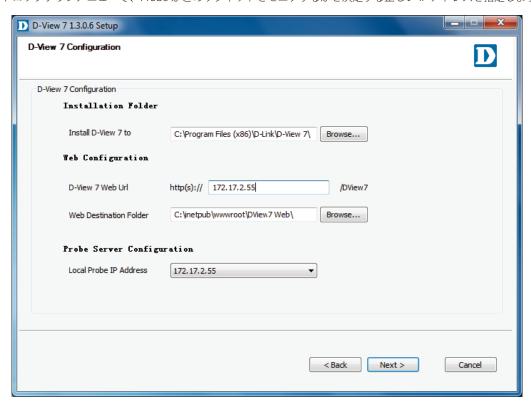


図 2-58 D-View7 Configuration

7. Windows スタートメニューに表示される D-View7 のフォルダ名を入力し、「Install」をクリックします。

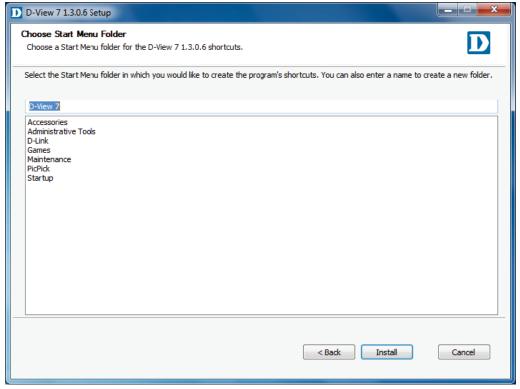


図 2-59 Choose Start Menu Folder

8. インストールの進捗状況が表示されます。インストール完了まで数分かかる場合があります。 インストール完了後、「Next」をクリックします。

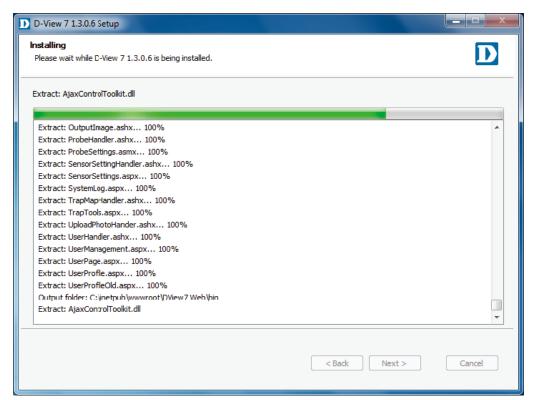


図 2-60 Installing

9. 「Finish」をクリックし、インストールウィザードを終了します。

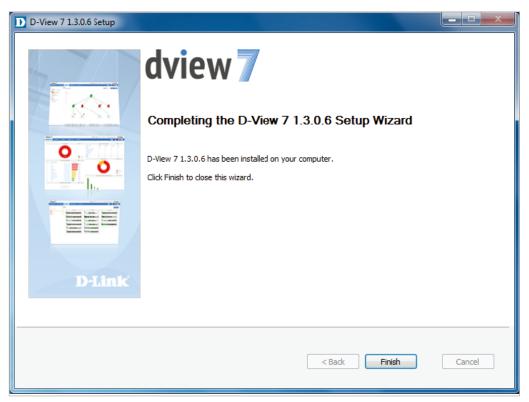


図 2-61 Completing

- **10.** 続いて、D-View クラスタのノード 2 上でも同様に D-View7 のインストールを行います。 ノード 2 の設定の際は、「Core Server Type」に「Cluster Server」、「Cluster Role」に「Slave」を選択してください。
- 注意 以下の URL を Web ブラウザに入力し、D-View7 にアクセスできます。 <cluster IP> には NLB 構成で設定した仮想クラスタ IP を指定します。
  - http://<cluster IP>/DView7
  - https://<cluster IP>/DView7(SSL を使用している場合)

## (4) データベースから既存 D-View7 サーバの IP を削除する

- 1. MongoDB サーバで管理者として「cmd」(コマンドプロンプト)を起動します。
- 2. 「cd」コマンドを使用して、「MongoDB」のインストールパスを変更します。(例:「cd C:\Program Files\MongoDB\bin」)
- 3. 「MongoDB」のサービスが開始していることを確認します。
- 4. 「mongo.exe」を入力 → 「Enter」をクリックし、データベースに接続します。

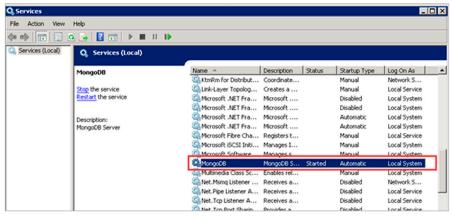


図 2-62 MongoDB.exe

5. ログイン成功後、「use admin」を実行し管理者データベースへ移行します。

```
C:\bin>mongo.exe
MongoDB shell version: 2.6.5
connecting to: test
> use admin
switched to db admin
> _
```

図 2-63 use admin

- 6. 「show users」を入力し、現在の全ユーザのデータベースを確認します。「MongoDB」が管理者モード(authentication mode)で実行されていることを確認します。
- 7. 「コマンドプロンプト」にエラーが発生していない場合、手順「11」へ移動します。
- 8. 「コマンドプロンプト」にエラーメッセージ「Error: not authorized on admin to execute command…」が表示されている場合、データベースアカウントとパスワードでログインする必要があります。

```
> show users
2016-05-20T11:49:19.656+0800 Error: not authorized on admin to execute command (
usersInfo: 1.0 > at src/mongo/shell/db.js:1281
```

図 2-64 Not Authorized

9. 「db.auth('admin', 'admin')」を入力し、管理者データベースへログインします。

```
> db.auth('admin','admin')

1
> _
```

図 2-65 Admin

- 10. コマンドプロンプトに「1」が表示されるとログインは成功です。失敗した場合は再度手順「8」からやり直してください。
- 11. 「use DView7」を入力し「D-View7」のデータベースに移行します。

```
> use DView?
switched to db DView?
```

図 2-66 D-View7 database

12. 別途、新しくコマンドプロンプトを起動し、「ipconfig /all」を実行して MongoDB の IP アドレスと MAC アドレスを確認します。

図 2-67 ipconfig

**13.** MongoDB に接続しているコマンドプロンプトに戻り、「db.Cor\_ClusterInfo.remove({CoreMAC:'AA:BB:CC:DD:EE:FF'})」を実行して MongoDB 上のリファレンスを削除します。「AA:BB:CC:DD:EE:FF」の部分には物理アドレスを指定します。

```
> db.Cor_ClusterInfo.remove({CoreMAC:'00:19:D1:35:F3:27'})
WriteResult({ "nRemoved" : 1 }}
```

# ライセンスのアクティベーション

D-View7 の追加ライセンスのアクティベーション方法について説明します。 追加ライセンスのアクティベーションは、オンラインまたはオフラインで実行できます。

- 1. System > License 画面で「Add License」をクリックします。
- ライセンスアクティベーションウィザードが開始されます。
   「Online Activation」(インターネット経由のアクティベーション) または「Offline Activation」(オフラインアクティベーション) \*\* 1 を選択し、
   「Next」をクリックします。

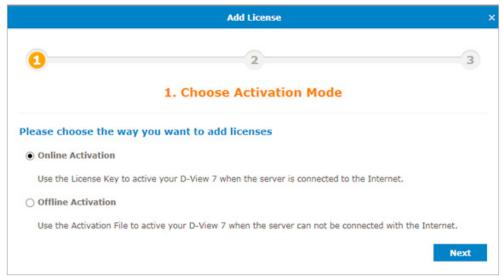


図 2-69 Choose Activation Mode

※1:オフラインでのアクティベーションを行う場合、購入時のライセンス申請で弊社から提供されたオフラインアクティベーションファイルを使用する必要があります。必ずアクティベーション開始前にオフラインアクティベーションファイルをで準備ください。

注意 サーバの故障により新しいサーバへ移行する際に、故障したサーバでオンラインでのアンバインド処理ができない場合は、弊社システム側での処理が必要になりますので弊社までご連絡ください。その場合、時期によりお時間をいただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

3. ライセンスキーの入力、またはアクティベーションファイルの指定を行います。

#### 「Online Activation」の場合:

Node または Probe の追加ライセンスパックのライセンスキーを入力します。ライセンスキー欄の横の「+」をクリックすると、複数のライセンスを同時にアクティベートできます。入力後、「Next」をクリックします。

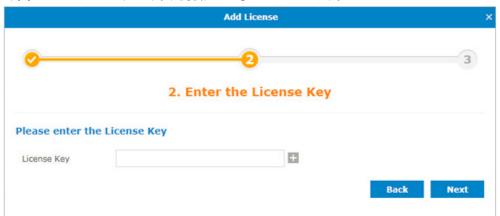


図 2-70 Enter the License Key

システムが自動的にライセンスの種類を識別し、D-Link サーバがライセンスの有効性を確認します。 ライセンスの有効性が確認されると、ライセンスキーは **System > License** 画面に表示されます。

#### 「Offline Activation」の場合:

「Browse」をクリックし、アクティベーションファイルが保存されているフォルダを指定します。指定後、「Next」をクリックします。



☑ 2-71 Upload the Activation File

- 注意
  入力したライセンスキーまたはアクティベーションファイルを登録できなかった場合、以下の点を確認してください。
  - ・ライセンスキーに無効な文字列が含まれていないか
  - ・システムの MAC アドレスは D-View を登録するために使用した MAC アドレスに合致している

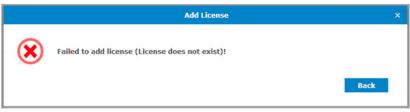


図 2-72 Failed to add license

**4.** [ ライセンスキー」または「アクティベーションファイル」が D-Link アクティベーションサーバで認証されると、D-View7 サーバはアクティベートされたライセンスの種類に基づき自動的に利用可能なノード数や Probe 数を調整します。 ライセンスは **System > License** 画面からも管理できます。

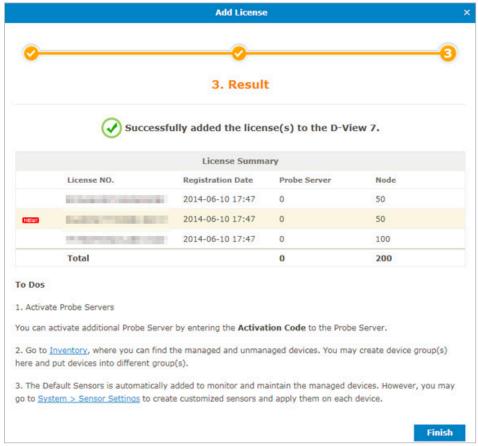


図 2-73 Result

# D-View のアップグレード

D-View6 から D-View7 へのアップグレードについて説明します。

D-View7 の前モデルに D-View 6.0 があります。

D-View7 は新しいデータベーステクノロジーを使用しているため、D-View 6.0 から D-View7 ヘデータの移行を行うことはできません。 D-View7 はストリームラインやワークフローのプロセスといった観点で、デバイスの管理をよりシンプルに行うため、前モデルとは全く異なるデザインやアーキテクチャを採用しています。

注意 D-View 6.0 と D-View7 を同一サーバにインストールしないでください。データベースとネットワークのコンフリクトが発生します。

# D-View7 をインストールしたサーバの起動時または再起動時についての注意

サーバの起動時または再起動時には、D-View7 Core Server のサービスよりも Mongo DB のサービスが先に起動している必要があります。 Mongo DB のサービスが起動していない状態で D-View7 Server に Web ブラウザを使用してログインしようとした場合、下記のように "Core server error" が表示されます。

"Core server error" は、D-View7 Core Server が停止中(起動していない、もしくは起動に失敗した場合)であることを示します。

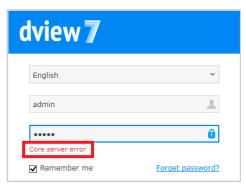


図 2-74 Core Server Error

インストーラによる依存関係の設定は行いません。

ユーザ環境に応じて Windows サーバのサービスの依存関係の設定を適切に行うなど、必ず Mongo DB が先に起動するようにしてください。

### ■ サーバと DB を同一筐体にインストールしている場合:

sc コマンドにより、依存関係を適切に設定してください。

sc コマンドの一例:sc config "DView7CoreServer" depend= "MongoDB"

#### ■ サーバと DB を別筐体にインストールしている場合:

起動時もしくは再起動時には、必ず DB をインストールしているサーバを先に起動してください。

# D-View7 へのログイン

1. Windows から「スタート > すべてのプログラム > D-Link > D-View7 > D-View7」をクリックします。 標準ブラウザが起動し D-View7 のログイン画面が表示されます。

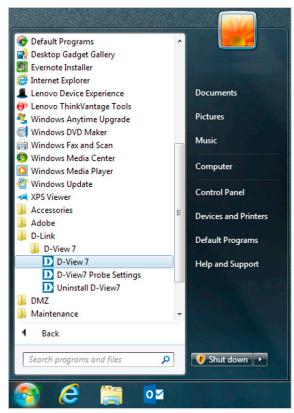


図 2-75 Start > D-View

- 「Email」と「Password」を入力します。初期値は以下のとおりです。
  - Email: admin
  - Password: admin
- 「Login」をクリックします。

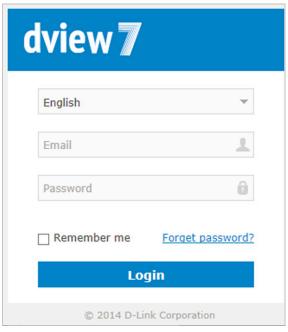
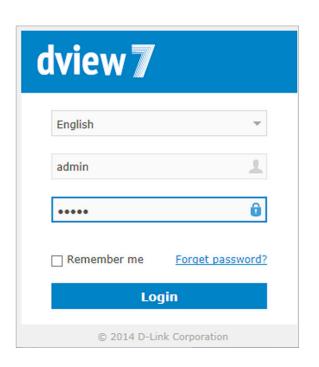


図 2-76 Login



パスワードは System > User / Workspace 画面から変更できます。詳細は「User / Workspace (ユーザ / ワークスペース管理)」の「ユーザの編 集」を参照してください。

## OpenID を使用したログイン

D-View 7 は、通常のログインの他に OpenID を使用したログインが可能です。 OpenID 認証を利用すると、OpenID に対応した様々な Web サービスで共通 ID によるログインができるようになります。

OpenID を利用するには、事前に OpenID プロバイダから OpenID 用の URL を取得する必要があります。

### OpenID アカウントの登録

OpenID プロバイダの Web サイトで OpenID の登録を行います。 本セクションでは、「OpenID.org.cn」を利用した OpenID 認証利用の設定例を記載します。

1. http://openid.org.cn/ にアクセスし、OpenID の新規登録を行います。



図 2-77 OpenID register 01

必要な情報を入力し「Register」をクリックします。
 登録が完了すると、「registration successfully」(登録が OK です)というメッセージが表示されます。



図 2-78 OpenID register 02

注意

OpenID のユーザ名(URL)には数字を使用することはできません。

# OpenID プロバイダの設定

新しい OpenID を D-View7 サーバに追加する方法について説明します。

注意 下記設定を行う前に、SMTP サーバを設定しておくことを推奨します。SMTP 設定については「About (本製品について)」を参照してください。

1. D-View7 の System > User/Workspace 画面で「OpenID Provider」をクリックします。



図 2-79 System - User/Workspace

2. 以下の項目を入力します。

「Provider Name」: OpenID のサービス提供プロバイダ「URL」: OpenID サービスで登録した OpenID URL「Abbreviation」: OpenID アカウントに適用する略称



図 2-80 OpenID Provider

- 3. 「Add」をクリックし、エントリを追加します。
- 4. 「Save」をクリックし、設定を保存します。

## OpenID ユーザの作成およびアクティブ化

OpenID ユーザを作成し、アクティブ化する方法について説明します。

- 1. System > User / Workspace 画面で「New User」をクリックします。
- 2. 以下の項目を設定します。

「Account Source」:「OpenID」選択します。

「Email Address」:E メールアドレスを入力します。設定したメールアドレスに、OpenID アカウントをアクティブ化するための招待メールが送信されます。

「Name」: 名前の入力します。

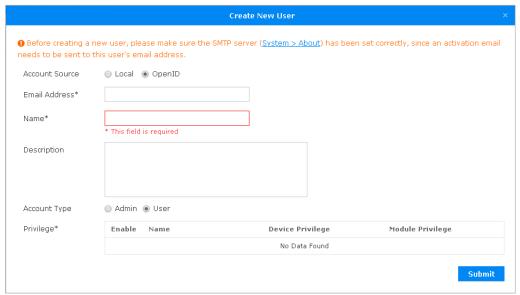


図 2-81 Create New User

3. 「Submit」をクリックします。

4. 受信したメールのハイパーリンクをクリックします。アクティブ化は7日以内に実行してください。

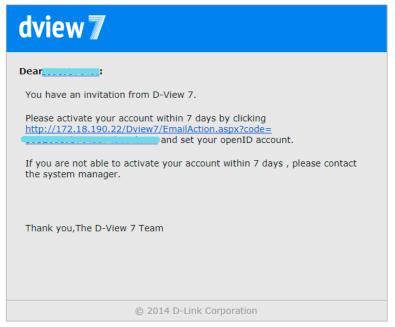


図 2-82 OpenID Invitation

5. 作成した OpenID Provider の略称をクリックします。

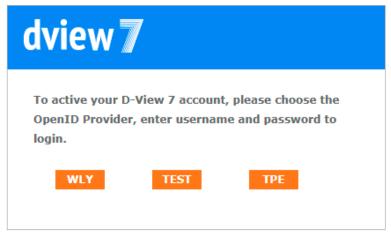


図 2-83 OpenID Invitation

- 6. OpenID サービスプロバイダの画面にリダイレクトされます。 URL とパスワードを入力しログインします。
- 7. 以下の画面で、「Allow Forever」(永続許可)をクリックします。



図 2-84 OpenID Verification

アクティベーション完了のメッセージが表示され、OpenID による D-View7 へのログインが可能になります。

8. 「Go to Login」をクリックし、D-View7 のログイン画面を表示します。

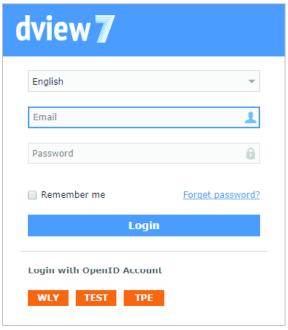


図 2-85 Login

# D-View7 からのログアウト

D-View7からのログアウト方法について説明します。

1. 画面右上の「logout」をクリックします。



図 2-86 logout

2. 「OK」をクリックします。

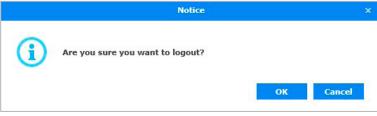


図 2-87 Notice

# アンインストール

D-View7のアンインストール方法について説明します。

1. Windows のスタートメニューから「Uninstall D-View7」アプリケーションを起動します。 (Start > D-Link > D-View7 > Uninstall D-View7)



図 2-88 Uninstall D-View7

2. アンインストールを確認するダイアログが表示されます。実行する場合は「Yes」、キャンセルする場合は「No」をクリックします。

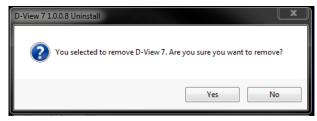


図 2-89 Uninstall

3. アンインストールの進捗状況が表示されます。完了まで数分かかる場合があります。完了後、「Next」をクリックします。

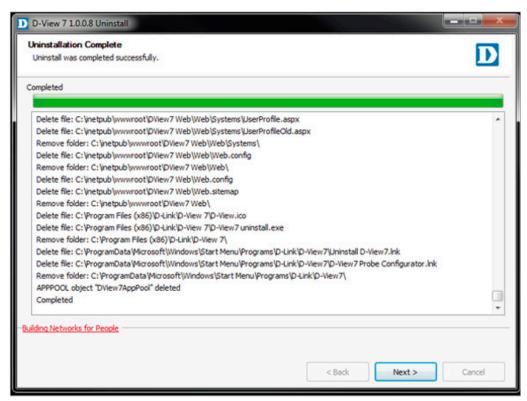


図 2-90 Uninstall Complete

**4.** D-View7 Probe Server のアンインストールが行われます。アンインストールの進捗状況が表示されます。完了まで数分かかる場合があります。

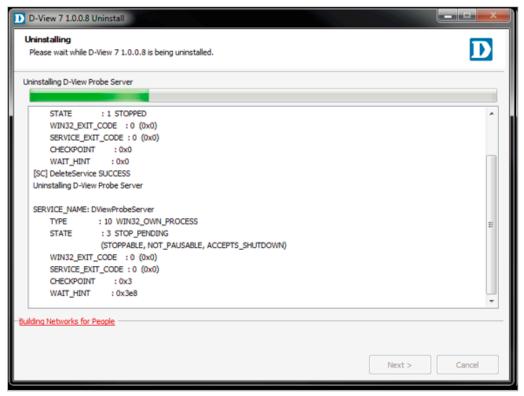


図 2-91 Uninstalling (Probe)

5. 完了後、「Next」をクリックします。

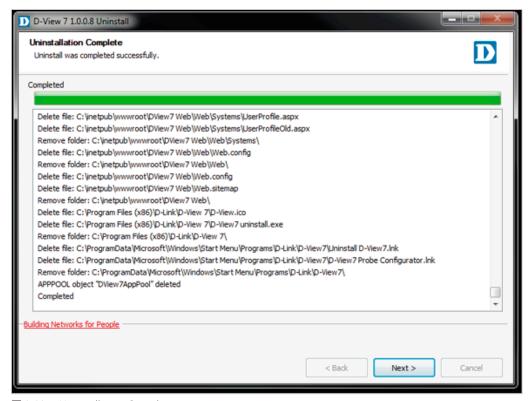


図 2-92 Uninstallation Complete

**6.** 「OK」をクリックし、アンインストールを終了します。



図 2-93 Uninstallation Successfully

# 第3章 Dashboard (ダッシュボード)

- 「Dashboard(ダッシュボード)について」
- 「ウィジェットの表示を変更する」
- 「ダッシュボードのカスタマイズ」
- 「ウィジェットのカスタマイズ」

# Dashboard (ダッシュボード) について

ダッシュボードは、ログイン後に表示される管理画面です。様々な情報の表示や管理を行うことができます。

多数のウィジェットから構成され、ユーザの目的よってカスタマイズ可能です。 初期設定ではオーバービュー(概観)ダッシュボードが表示され、ネットワーク管理者にとって基本的な数値のセットなどが表示されます。 ウィジェットタイトルバーをクリック、ドラッグすることにより、ダッシュボード内のウィジェットのカスタマイズを行うことができます。

**Dashboard > Wireless** の順にクリックすると、Wireleess ダッシュボード画面が表示されます。Wireleess ダッシュボード画面では、D-View7 の管理 するネットワーク内の無線デバイスに特化した情報をウィジェットで表示します。

#### ダッシュボード画面

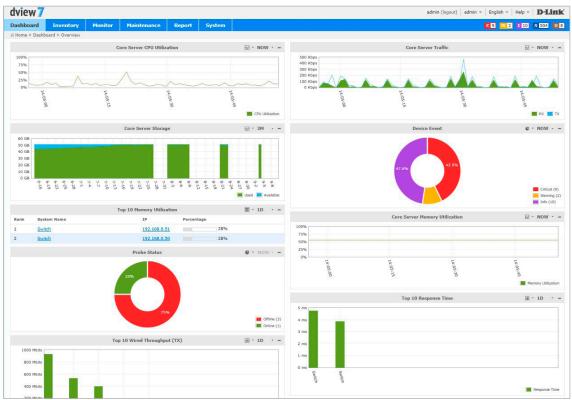


図 3-1 ダッシュボードの表示例

### ウィジェット



図 3-1 ウィジェットの表示例

# ウィジェットの表示を変更する

ダッシュボードのインタフェースは、以下の項目でカスタマイズすることができます。

- ウィジェットスタイル変更
- データ表示期間変更
- 表示最小化



図 3-2 ウィジェットカスタマイズ

**注意** ダッシュボード上のウィジェットを移動するには、ウィジェットのタイトルバーをクリック→ドラッグします。

## ウィジェットスタイル変更



ドロップダウンメニューで、ウィジェットの表示タイプを以下から選択します。

- ・「ビジュアルグラフモード」:情報を円グラフや折れ線グラフなどで表示します。
- •「グリッド/テーブルモード」:情報を表で表示します。

### データ表示期間変更



ドロップダウンメニューでデータの更新間隔を選択します。

選択する更新間隔がグレイアウトされている場合、ウィジェットは現在表示可能なデータのみを表示します。

# 表示最小化



ウィジェットを表示しない場合は「-」をクリックします。 再表示、もしくは表示を広げる場合は「+」をクリックします。

# ダッシュボードのカスタマイズ

ダッシュボードをカスタマイズする方法について説明します。

ダッシュボードは現在のワークスペースに固有のものです。複数のユーザでワークスペースを共有する場合、新しく作成したダッシュボードをユーザ間で共有します。複数のユーザで異なるダッシュボードを使用する場合、ユーザはそれぞれ別のワークスペースを使用する必要があります。ワークスペースについての詳細は、「User / Workspace(ユーザ / ワークスペース管理)」を参照してください。

1. 「Dashboard」メニューから「Customized」をクリックします。

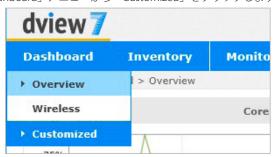


図 3-3 Dashboard > Customized

**2.** D-View7 のインストール直後、または新しいワークスペースの場合、カスタムダッシュボードはありません。「Create a New Dashboard」をクリックし、新しいカスタムダッシュボードを作成します。

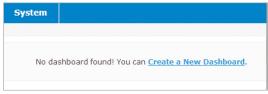


図 3-4 Create a New Dashboard

3. 以下の項目を入力し、「Create」をクリックします。

「Name」: ダッシュボード名

「Description」: ダッシュボードを識別するための説明

	Create New Dashboard	×
Name*		
Description		
		Create
		ar cute

図 3-5 Create New Dashboard

**4.** 作成したダッシュボードは画面左端のダッシュボードリストに表示されます。 追加でダッシュボードを作成する場合は、ダッシュボードリストの「+」をクリックします。

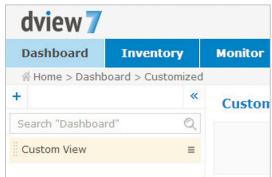


図 3-6 Dashboard List

#### ■ ダッシュボードリストについて

- ダッシュボードリストを表示しない場合は、ダッシュボードリスト上部の「<<」をクリックします。ダッシュボードリストはダッシュボード名 の左側をクリックすることにより再表示されます。
- ドラッグしてリストの順番を変更できます。
- ダッシュボード名の右側のドロップダウンメニューから、ダッシュボード名の変更またはダッシュボードの削除ができます。
- ・ 検索ボックスでダッシュボードの検索ができます。ダッシュボード名 (または一部) を入力し、エンターキーまたは検索ボタンを押してください。

# ウィジェットのカスタマイズ

ダッシュボードに表示するウィジェットのカスタマイズ方法について説明します。

1. 新規のダッシュボードをカスタマイズする場合は、「Add a New Widget」をクリックします。

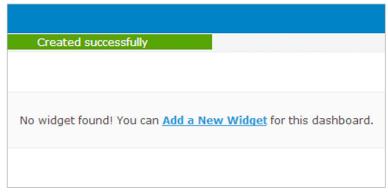


図 3-7 Add a New Widget

既存のダッシュボードをカスタマイズする場合は、**Dashboard > Customized** 画面でダッシュボードを選択します。 画面右上の「Add Widget」をクリックします。

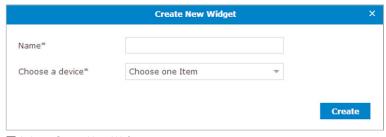
# Add Widget

2. 以下の項目を入力し、「Create」をクリックします。

「Name」:ウィジェット名を入力します。

「Choose a device」:ウィジェットがデータを収集するデバイスを選択します。

選択したデバイスの種類によりデータの収集方法は異なります。一部のセンサのオプションは、ウィジェットの作成完了前に指定する必要があります。初期値では、データの時間間隔は1分に設定されています。



🗵 3-8 Create New Widget

**3.** 「Customized」エリアに作成したウィジェットが表示されます。 タイトルバーのウィジェット名をクリックし、ウィジェット名を変更できます。

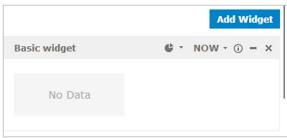


図 3-9 Customized

タイトルバーのアイコンを使用し、ウィジェットの表示を変更できます。詳細は「ウィジェットの表示を変更する」を参照してください。

4. ウィジェットを削除する場合は、タイトルバーの×アイコンをクリックし、確認画面で「OK」をクリックします。



図 3-10 Alert

# 第4章 Inventory (インベントリ)

- 「Inventory の概要」
- 「ラベルの作成」
- 「Unmanaged (未管理デバイス)」
- ・「D-View Managed(管理デバイス)」
- 「Device Detail(デバイス詳細)」

# Inventory の概要

本章では Inventory (インベントリ) メニューの機能について説明します。

Inventory 画面には、ネットワーク上のハードウェアデバイスとその関連情報(IP アドレス、シリアル番号、ファームウェア)がインベントリリストとして表示されます。

インベントリリストには以下の 2 種類があります。初期値では「D-View Managed」のリストが表示されます。

- 「D-View Managed」: D-View で管理しているデバイスのリストです。
- 「Unmanaged」: D-View で管理していないデバイスのリストです。

「D-View Managed」リストは、デバイスグループのラベルによって整理されます。

新しいデバイスがネットワークに追加されると、D-View は自動的に「Unmanaged」リストにデバイスを追加します。

「D-View Managed」リストのデバイスがラベルグループから削除されると「Unmanaged」リストへ移動されます。

#### ■ インベントリ画面

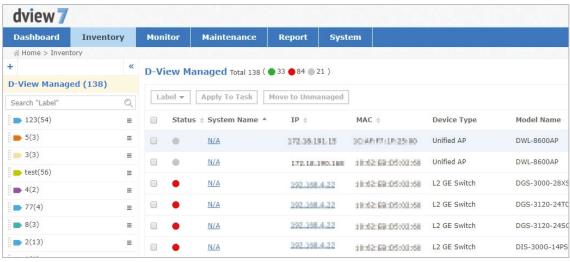


図 4-1 インベントリリスト

## ■ インベントリリストの編集



A:インベントリリストが表示されているコラムを非表示にします。

B: ラベルを検索します。

C: ラベル名を変更、またはラベルを削除します。

D:ドラッグし、リストの順番を変更します。

E: ラベルを作成します。

# ラベルの作成

「D-View Managed」リストのデバイスに付与するラベルの作成方法について説明します。

1. 画面左端の「+」をクリックします。

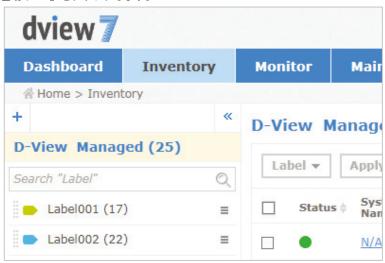


図 4-1 インベントリリスト

- 2. 以下の項目を設定します。
  - 「Name」: ラベル名を入力します。
  - 「Label Color」: ラベルの色を選択します。「Description」: ラベルの概要を入力します。

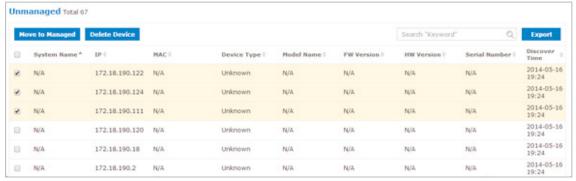


図 4-2 Create New Label

3. 作成したラベルは画面左端のインベントリリストに表示されます。

# Unmanaged(未管理デバイス)

新しく検出された未管理のデバイスは、「Unmanaged」リストに追加されます。



☑ 4-3 Unmanaged Panel

右パネルでは以下の操作をすることができます。

#### ■ 「Unmanaged」リストから「D-View Managed」リストヘデバイスを移動する

- 1. 右パネルで移動するデバイスにチェックを入れます。
- 2. 右パネル上部の「Move to Managed」をクリックします。

#### ■「Unmanaged」リストからデバイスを削除する

- 1. 右パネルで削除するデバイスをチェックします。
- 2. 右パネル上部の「Delete Device」をクリックします。

注意 一度削除したデバイスを「Unmanaged」リストに戻すことはできません。

#### ■ 「Unmanaged」リストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. デバイスのリストが CSV 形式でエクスポートされます。

# ■ 「Unmanaged」リストをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、デバイスリストをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



- 3. 検索する項目を入力します。
- **4.** 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

# D-View Managed (管理デバイス)

「D-View Managed」リストにあるデバイスは、右パネルに以下のように表示されます。

「D-View Managed」リストのデバイスは、「System Name」列または「IP」列のリンクをクリックし、直接管理することができます。



図 4-5 Managed device panel

右パネルでは以下の操作をすることができます。

#### ■ デバイスにラベルを適用する

- 1. 追加するデバイスにチェックを入れます。
- 2. 「Label」ドロップダウンリストでラベルを選択します。
- 3. 「Apply」をクリックします。

#### ■ デバイスにタスクを適用する

- 1. タスクを適用するデバイスにチェックを入れます。
- 2. 「Apply to Task」をクリックします。

# ■ 「D-View Managed」リストから「Unmanaged」リストヘデバイスを移動する

- 1. 移動するデバイスにチェックを入れます。
- 2. 「Move to Unmanaged」をクリックします。

#### ■「D-View Managed」リストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. デバイスのリストが CSV 形式でエクスポートされます。

#### ■ 「D-View Managed」リストをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、デバイスリストをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



図 4-6 Advanced Search

- 3. 検索する項目を入力します。
- **4.** 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

#### ■ デバイスの詳細情報を確認する

- 1. 「System Name」列のリンクをクリックします。
- 2. デバイスの詳細情報画面が表示されます。



デバイスの詳細情報画面については、「Device Detail(デバイス詳細)」を参照してください。

#### ■ デバイスの Web GUI にアクセスする

- 1. 「IP」列のリンクをクリックします。
- 2. D-View の管理画面を離れ、対象デバイスの Web GUI にアクセスします。

# Device Detail(デバイス詳細)

Inventory メニューでは、各デバイスの詳細情報を確認できます。

デバイス情報画面の表示方法:

- **1.** 「Inventory」をクリックします。
- 2. 「D-View Managed」パネルの「System Name」列のリンクをクリックします。

### Overview(デバイス概要)タブ

デバイスのシステム情報、使用状況、SNMP情報などを確認できます。 表示されるウィジェットはデバイスの種類によって異なります。

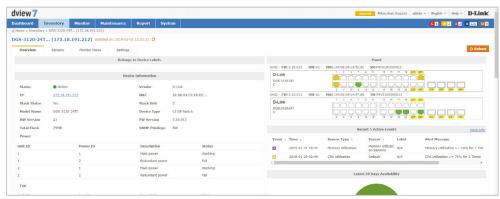


図 4-8 Overview タブ

### ■ ウィジェットの編集

☑ アイコンのついているウィジェットを編集できます。

- をクリックします。
- 2. 各項目を編集します。
- 3. 「Save」をクリックします。

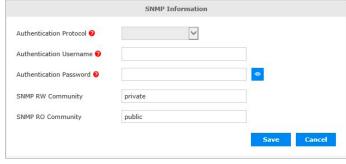


図 4-9 ウィジェットの編集例

### Sensors(検出情報)タブ

「Sensors」タブは、デバイスから検出した情報を表示します。

- ・ 無線アクセスポイントの場合:無線クライアント、無線トラフィック、Ping 時間などの情報
- ・ ルータやスイッチの場合:CPU 使用率、ワイヤスピード、エラーパケットなどの情報

Sensors (センサ) 設定は、System > Sensor Settings 画面から行うことができます。詳細は「Sensor Settings (センサ設定)」を参照してください。

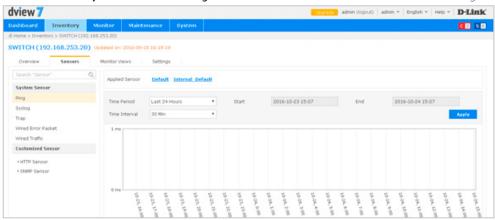


図 4-10 Device Detail Sensors

## Monitor Views(トポロジリスト)タブ

「Monitor Views」タブは、選択したデバイスを含むトポロジリストを表示します。

トポロジリストには、トポロジ名、トポロジの種類、作成日時、トポロジ内のデバイス数、トポロジの概要(任意)が表示されます。

トポロジ名のリンクをクリックすると、選択済みのデバイスを含むトポロジビューが新しいウィンドウで表示されます。 画面右上の検索ボックスでは、リストの内のトポロジをフィルタ検索することができます。



☑ 4-11 Device Details Monitor Views

### Settings(デバイス設定)タブ

「Settings」タブでは、D-View7 サーバから設定コマンドをデバイスに送信し、設定を適用することできます。

管理スイッチ、管理アクセスポイント、ルータ / ファイアウォールなどの設定を行うことが可能です。デバイスの種類によって画面の表示内容は異なります。



## アクセスポイント用設定オプション

アクセスポイント設定時に表示される項目です。

メニュー	説明
SNTP / NTP Status	デバイスの NTP/SNTP 設定状況を表示します。変更する場合デバイスでの設定を行います。
DHCP Server Status	デバイスの DHCP サーバ設定状況を表示します。変更する場合デバイスでの設定を行います。
Trap Status	デバイスの D-View への Trap 送信設定状況を表示します。D-View7 で設定変更を試みることも可能です。「Set D-View as Trap Server」をクリックすると D-View7 により、デバイスに対して必要な設定変更が行われ、成功するとインタフェースに Trap サーバの設定変更オプションが表示されます。
Syslog Status	デバイスの D-View への Syslog 送信設定状況を表示します。D-View7 で設定変更を試みることも可能です。 「Set D-View as Syslog Server」をクリックすると D-View7 により、デバイスに対して必要な設定変更が行われ、成功する とインタフェースに Syslog サーバの設定変更オプションが表示されます。
Operation Mode	デバイスの操作モード設定状況を表示します。変更する場合デバイスでの設定を行います。
SSH Status	デバイスがリモート SSH ログインをサポートしている場合、D-View7 からデバイスの SSH サービスを設定することが可能です。リモート SSH の有効 / 無効を指定します。ステータスが「Not Supported」と表示されている場合、サービス自体は有効であってもステータス通知が無効となっている可能性があります。初期値では「SSH」はポート 22 に設定されていますが、SSH サービスが他のポートで実行されている場合、編集ボタンをクリックして、正しいポート番号を入力します。
Telnet Status	デバイスがリモート Telnet ログインをサポートしている場合、D-View7 からデバイスの Telnet サービスを設定することが可能です。リモート Telnet の有効 / 無効を指定します。ステータスが「Not Supported」と表示されている場合、サービス自体は有効であってもステータス通知が無効となっている可能性があります。初期値では「Telnet」はポート 23 に設定されていますが、Telnet サービスが他のポートで実行されている場合、編集ボタンをクリックして、正しいポート番号を入力します。
Web Status	デバイスがリモート Web ログインをサポートしている場合、D-View7 からデバイスの Web サービスを設定することが可能です。リモート Web サービスの有効 / 無効を指定します。ステータスが「Not Supported」と表示されている場合、サービス自体は有効であってもステータス通知が無効となっている可能性があります。初期値では「Web サービス」はポート80 に設定されていますが、リモート Web ログインサービスが他のポートで実行されている場合、編集ボタンをクリックして、正しいポート番号を入力します。
HTTPS Web Access Status	選択したデバイスが HTTPS でのリモートログインをサポートしている場合、SSH サービスのステータスを D-View7 で管理できます。「HTTPS Web Access Status」の有効 / 無効を指定します。ステータスが「Not Supported」と表示されている場合、D-View7 は選択したデバイスの HTTPS サービスをサポートしていません。HTTPS の通知ステータスを有効にするには、管理ソフトウェアを使用してください。初期値では、「HTTPS Web Access Status」はポート 443 を使用しています。リモートセキュア Web ログインサービスが非標準ポートで実行されている場合は、編集ボタンをクリックして正しいポート値を入力します。

## 管理スイッチ用設定オプション

管理スイッチ設定時に表示される項目です。

メニュー	説明
SNTP / NTP Status	デバイスの NTP/SNTP 設定状況を表示します。変更する場合デバイスでの設定を行います。
DHCP Server Status	デバイスの DHCP サーバ設定状況を表示します。変更する場合デバイスでの設定を行います。
Trap Status	デバイスの D-View への Trap 送信設定状況を表示します。D-View7 で設定変更を試みることも可能です。
	「Set D-View as Trap Server」をクリックすると D-View7 により、デバイスに対して必要な設定変更が行われ、成功すると
	インタフェースに Trap サーバの設定変更オプションが表示されます。
Syslog Status	デバイスの D-View への Syslog 送信設定状況を表示します。D-View7 で設定変更を試みることも可能です。
	「Set D-View as Syslog Server」をクリックすると D-View7 により、デバイスに対して必要な設定変更が行われ、成功する
	とインタフェースに Syslog サーバの設定変更オプションが表示されます。
Spanning Tree  LLDP Status	デバイスがスパニングツリープロトコルをサポートしている場合、「D -View 7」で機能の有効 / 無効を指定することが可能です。ボタンを「ON」に指定すると、デバイスのスパニングツリーを有効にします。
	です。 ボッフを「ON」に指定するこ、ナバイスのスパーフソフリーを有効にします。 デバイスが LLDP ステータス表示をサポートしている場合、「D -View 7」で機能の有効 / 無効を指定することが可能です。
	アハイスか LLDP ステータス表示をリホートしている場合、「D-view /」で機能の有効 / 無効を指定することが可能です。     ボタンを「ON」に指定すると、デバイスの LLDP ステータス表示を有効にします。
Safeguard Engine	デバイスが D-Link セーフガードエンジンをサポートしている場合、「D-View 7」で機能の有効 / 無効を指定することが可
	能です。ボタンを「ON」に指定すると、デバイスの D-Link セーフガードエンジンを有効にします。
PoE Status	デバイスが PoE をサポートしている場合、「D -View 7」で機能の有効 / 無効を指定することが可能です。ボタンを「ON」
	に指定すると、デバイスの PoE を有効にします。
RMON	デバイスが RMON をサポートしている場合、「D -View 7」で機能の有効 / 無効を指定することが可能です。ボタンを「ON」
	に指定すると、デバイスの RMON を有効にします。
SSH Status	デバイスがリモート SSH ログインをサポートしている場合、「D-View7」からデバイスの SSH サービスを設定することが
	可能です。リモート SSH の有効 / 無効を指定します。ステータスが "Not Supported" と表示されている場合、サービス自
	体は有効であってもステータス通知が無効となっている可能性があります。初期値では「SSH」はポート 22 に設定されて
	いますが、SSHサービスが他のポートで実行されている場合、編集ボタンをクリックして、正しいポート番号を入力します。
Telnet Status	デバイスがリモート Telnet ログインをサポートしている場合、「D-View7」からデバイスの Telnet サービスを設定するこ
	とが可能です。リモート Telnet の有効 / 無効を指定します。ステータスが "Not Supported" と表示されている場合、サービス自体は有効であってもステータス通知が無効となっている可能性があります。初期値では「Telnet」はポート 23 に設
	と人自体は有効であっても人ナーダ人通知が無効となっている可能性があります。初期値では「Telnet」はホート 23 に設定されていますが、Telnet サービスが他のポートで実行されている場合、編集ボタンをクリックして、正しいポート番号
	を入力します。
Web Status	デバイスがリモート Web ログインをサポートしている場合、「D-View7」からデバイスの Web サービスを設定することが
	可能です。リモート Web サービスの有効 / 無効を指定します。ステータスが "Not Supported" と表示されている場合、サー
	ビス自体は有効であってもステータス通知が無効となっている可能性があります。初期値では「Web サービス」はポート
	80 に設定されていますが、リモート Web ログインサービスが他のポートで実行されている場合、編集ボタンをクリック
	して、正しいポート番号を入力します。
HTTPS Web Access	選択したデバイスが HTTPS でのリモートログインをサポートしている場合、SSH サービスのステータスを D-View7 で管理
Status	できます。「HTTPS Web Access Status」の有効 / 無効を指定します。ステータスが「Not Supported」と表示されている場
	合、D-View7 は選択したデバイスの HTTPS サービスをサポートしていません。HTTPS の通知ステータスを有効にするには、
	管理ソフトウェアを使用してください。初期値では、「HTTPS Web Access Status」はポート 443 を使用しています。リモートセキュア Web ログイン・サードフが非標準ポートで実行されている場合は、短集ボタンをクリックして正しいポート値を
	トセキュア Web ログインサービスが非標準ポートで実行されている場合は、編集ボタンをクリックして正しいポート値を入力します。
	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\

注意

DGS-1100-05/08/08P/05PD B1 は、RFC1213、RFC1215 の一部の MIB のみをサポートしています。そのため、自動でのトポロジ作成など、使用できない機能があります。

## 第5章 Monitor (モニタ)

- 「Monitor の概要」
- 「Device View(デバイスビュー)」
- 「Topology View(トポロジビュー)」
- 「Rack View(ラックビュー)」
- 「Event View(イベントビュー)」
- 「Monitor Logs (モニタログ)」
- 「Ping Helper (Ping 送信)」

正記 DG

DGS-1100-05/08/08P/05PD B1 は、RFC1213、RFC1215 の一部の MIB のみをサポートしています。そのため、自動でのトポロジー作成など、使用できない機能があります。

## Monitor の概要

本章では Monitor メニューの機能について説明します。Monitor メニューには以下の画面があります。

- Device View:すべての検出済みデバイスがカテゴライズされた状態で表示されます。
- Topology View:トポロジマップを使用しデバイスがどのように接続しているかを表示します。
- Rack View: 物理的なラックやネットワークスタックのレイアウトのシミュレートを行うことが可能です。
- Event View:デバイスに発生したイベントを時系列にログとして保存します。
- Monitor Logs:ネットワークのデバイスから受信した「Trap」や「Syslog」のメッセージを表示します。
- Ping Helper: リモートまたはローカルの Probe へ Ping を行います。

## Device View (デバイスビュー)

Device View 画面は、デバイスのハードウェアタイプや機能について、Inventory 画面よりも詳細な情報を表示します。 デバイス名のリンクをクリックすると、各デバイスの詳細が表示されます。Probe へのリンクをクリックすると、Probe の詳細が表示されます。 Device View 画面には以下のタブがあります。

- Switch
- · Access Point
- Rogue AP
- Others

- Wireless Controller
- Wireless Client
- ss Client Mobile



図 5-1 Device View

### ■ デバイスリストのエクスポート

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. CSV 形式でリストがダウンロードされます。

### ■ デバイスリストの検索

- 1. 検索ボックスにキーワードを入力します。
- 2. Enter キーまたは検索ボタンを押します。
- 3. より詳細な検索を行う場合は、検索ボックス下に表示「Advanced Search」をクリックします。
- 4. 検索条件を設定し、「Search」をクリックします。

#### ■ 画面の表示を変更する

- 1. リストの項目横のアイコンをクリックし、アルファベット順/逆順でソートできます。
- 2. リスト右端の「+」をクリックし、表示する項目を変更できます。



3. 表示する項目を選択し、「Apply」をクリックします。

## Topology View (トポロジビュー)

Topology View 画面は、サブネット内の Probe によって検出されたネットワーク内のデバイスに基づき、ネットワーク配置図を作成します。 初期設定ではシステムの D-View7 サーバにインストールされた Probe が稼働します。 追加の Probe とサブネットのリストは、画面左側の Probe リストに表示されます。

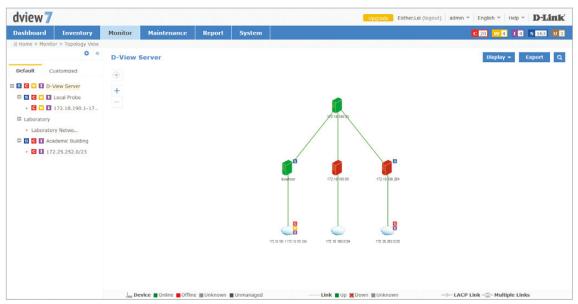


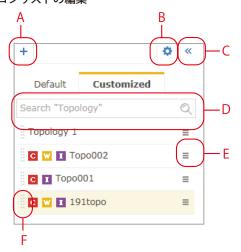
図 5-2 Topology View

## ■ 「Default」タブと「Customized」タブ

トポロジリストには以下の2つのタブがあります。

- 「Default」タブ: D-View7 Probe とそのサブネット、検出されたすべてのデバイスが表示されます。
- 「Customized」タブ:カスタマイズしたトポロジが表示されます。

## ■ トポロジリストの編集

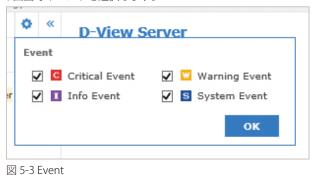


- A:新しいトポロジマップを作成します。詳細は「トポロジマップの作成」を参照してください。
- B:イベントを変更します。詳細は「イベントの変更」を参照してください。
- C:トポロジリストが表示されているコラムを非表示にします。
- D: トポロジを検索します。
- E: トポロジの情報を編集、またはトポロジを削除します。編集できる項目は以下です。
  - 「Name」(名前)
  - 「Data Source of links」(データソースのリンク)
  - 「Description」(概要)
- F:ドラッグし、リストの順番を変更します。

## イベントの変更

トポロジに表示するイベントを変更できます。

- 1. 設定アイコン ◊ をクリックします。
- 2. 以下の画面でイベントを選択します。



☑ 3-3 FACIL

3. 「OK」をクリックします。

### トポロジマップの作成

新しくトポロジを作成する方法について説明します。

- 1. 「Customized」タブを選択します。
- 2. 画面左端の「+」をクリックします。
- 3. 以下の画面で設定を行い、「Next」をクリックします。
  - 「Topology Generate Way 」:トポロジの作成方法を「Automatically」(自動)または「Manually」(手動)から選択します。「Manually」(手動)を選択した場合、デバイスリストからデバイスを選択します。
  - ・「Choose a Central Switch」:トポロジの作成方法として「Automatically」(自動)を選択した場合、Central Switch(中央スイッチ)を指定します。
  - 「Analysis topology within Hops of chosen devices」:ホップ数を選択します。

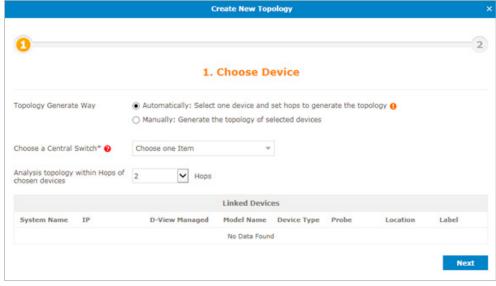


図 5-4 Create New Topology 01

- 4. 以下の画面で設定を行い、「Apply」をクリックします。
  - 「Name」:トポロジマップの名前を入力します。
  - 「Data source of links」:データソースへのリンクを、「Synchronization with system」(システムと同期)または「User-defined」(ユーザ定義)を選択します。
  - 「Description」: トポロジマップの概要を入力します。
  - ・「Display Type」トポロジマップの種類を「Star」(スター型)または「Tree」(ツリー型)から選択します。
  - 「Central Device for display」:トポロジの中央となるデバイスを選択します。「Auto」にチェックを入れると、選択した中央スイッチをもとにマップを作成します。

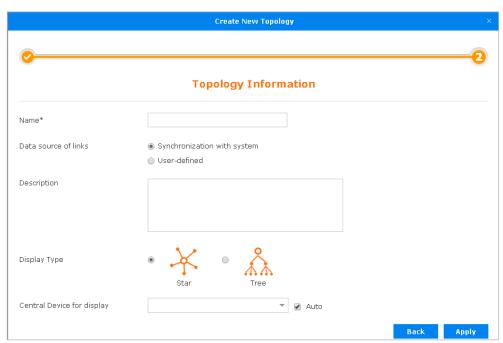


図 5-5 Create New Topology 02

## トポロジマップの操作

トポロジマップの操作方法について説明します。

### ■ 表示の移動・拡大・縮小

トポロジマップを上のオブジェクトを移動する場合、クリックし、表示したい方向へドラッグします。「+」「-」でトポロジマップ画面の拡大、縮小を行います。

ターゲットアイコン→をクリックすると中央スイッチがトポロジマップの中央に来るように表示されます。

### ■ メニューアイコン



- 「Edit」:トポロジマップの編集を行います。詳細は「トポロジマップの編集」を参照してください。
- 「Display」:トポロジマップに表示する項目を「IP」「Stystem Name」から選択します。
- 「Export」: トポロジマップを PNG 形式で表示します。
- Q:トポロジマップを検索します。検索した箇所は赤枠で示されます。

#### ■ デバイス情報の表示

カーソルをトポロジ上のデバイスに乗せると、IPアドレスや MACアドレス、最近のイベントなど、当該デバイスについての情報がポップアップで表示されます。

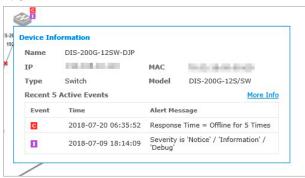


図 5-6 Device Information

#### ■ 接続情報の表示

カーソルをトポロジ上の線に乗せると、リンクポートの情報がポップアップで表示されます。



図 5-7 Line Information

### トポロジマップの編集

- トポロジマップ画面右上の「Edit」をクリックします。
- 2. トポロジマップ上部に表示される以下のアイコンを使用して編集を行います。



## ☐ 「Auto Arrangement」

トポロジマップの表示タイプと中央スイッチを選択します。

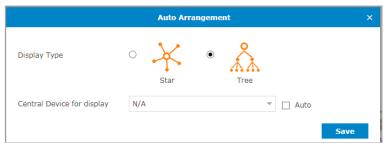


図 5-8 Auto Arrangement

「Display Type」: 表示タイプを「Star」(スター型)または「Tree」(ツリー型)から選択します。

「Central Device for display」:中央スイッチを選択します。「Auto」をチェックすると自動的に中央スイッチを選択します。

## TEdit Devices」

新しいデバイスの追加や既存のデバイスの削除などを行います。



図 5-9 Edit Devices

#### 既存のデバイスの削除

デバイスのチェックを外し、「Save」をクリックします。

### 新規デバイスの追加

「All」をクリックし、有効なデバイスを表示します。追加するデバイスを選択 →「Save」をクリックします。

## ☑ 「Edit Line」

トポロジマップでデバイス間を接続している線の編集を行います。

#### 既存の線を編集する

- (1) トポロジマップの線を選択します。
- (2) 🔽 をクリックします。
- (3) 以下の画面で設定を行います。

「Link Type」:リンクタイプを「Normal Link」「LACP Link」「Logical Link」から選択します。

「Link Device」: リンクしているデバイスが表示されます。

「Link Port」: リンクポートを選択します。 「Link To」: リンク先を選択します。

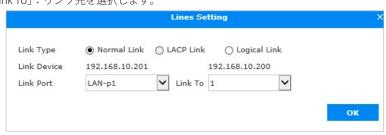
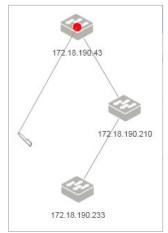


図 5-10 Line Settings

(4)「OK」をクリックします。

### 新規の線を作成する

- (1) デバイスにカーソルを合わせます。
- (2) クリック&ドラッグでデバイスからデバイスへの線を作成します。

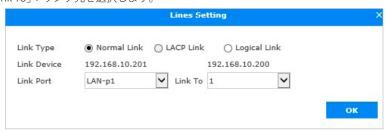


(3) 以下の画面で設定を行います。

「Link Type」:リンクタイプを「Normal Link」「LACP Link」「Logical Link」から選択します。

「Link Device」: リンクしているデバイスが表示されます。

「Link Port」: リンクポートを選択します。 「Link To」: リンク先を選択します。



⊠ 5-11 Line Settings

(4)「OK」をクリックします。

## m 「Delete」

選択したデバイスまたは線を削除します。

3. 以下のいずれかをクリックし、編集を終了します。 「Exit wihout Saving」:変更を保存せずに編集を終了します。 「Save and Exit」:変更を保存し、編集を終了します。

**注意** ユーザ定義のリンクはトポロジ内で最も高い優先度を持ち、トポロジの更新による影響を受けません。

## Rack View (ラックビュー)

Rack View 画面では、物理ラックをシミュレートしたり、デバイスのグループ化などを行う上での「仮想ラック」を作成できます。 複数のラックがラックリストにリスト化され、画面の左側に表示されます。

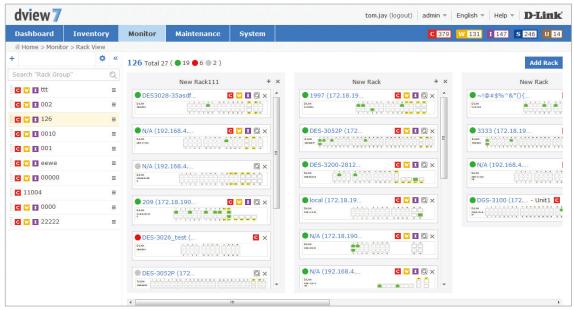
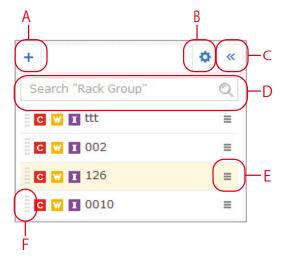


図 5-12 Rack View

## ■ ラックグループリストの編集



- A:新しいラックグループを作成します。「Name」(ラックグループ名)と「Description」(概要)を入力し「Create」をクリックします。
- B:イベントを変更します。表示するイベントをチェックし、「OK」をクリックします。
- C:リストが表示されているコラムを非表示にします。
- D:リストを検索します。
- E: ラックグループリストの名前を変更、またはラックグループリストを削除します。
- F:ドラッグし、リストの順番を変更します。

## ラックの作成

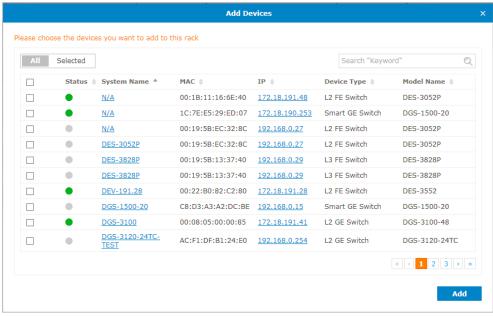
新規のラックを作成する方法について説明します。

- ラックを追加するラックグループを選択します。
   新規でラックグループを作成する場合はラックグループリストの「+」アイコンをクリックします。
- 2. 画面右上部の「Add Rack」をクリックします。
- **3.** 「New Rack」画面右上の「+」をクリックします。



図 5-13 New Rack

4. ラックに追加するデバイスを選択し、「Add」をクリックします。



5. デバイスがラックに追加され、以下のように表示されます。

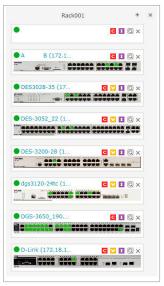


図 5-15 Rack List

デバイスはドラッグ&ドロップで有効なラックに移動できます。

## Event View (イベントビュー)

Event View 画面は、D-View7 サーバで発生したすべてのイベントをリスト化して表示します。

#### 本画面には以下のタブがあります。

- 「Device」タブ:検出したデバイスから受信したイベントを表示します。
- 「System」タブ:システムイベントを表示します。

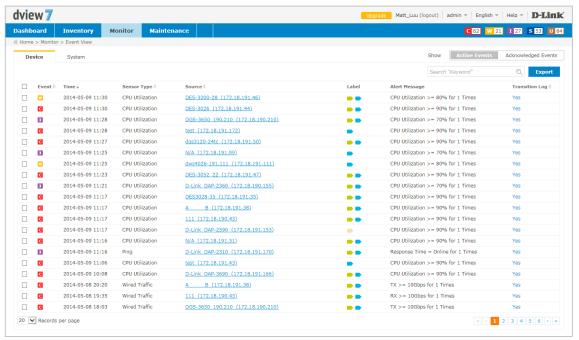


図 5-16 Event View (Device タブ)

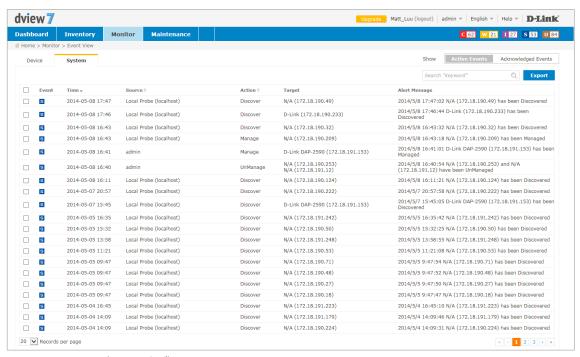


図 5-17 Event View(System タブ)

## Event View 画面の操作

### ■ イベントを認識済みにする

- 1. リストからイベントを選択します。
- 2. リスト上部に表示される「Acknowledge」をクリックします。

#### ■ イベントをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、デバイスリストをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



図 5-18 Advanced Search

- 3. 検索する項目を入力します。
- 4. 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

### ■ イベントリストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. リストが CSV 形式でエクスポートされます。

#### ■ アクティブなイベントのみ表示する

1. 画面右上部の「Active Events」をクリックします。

### ■ 認識済みのイベントのみ表示する

1. 画面右上部の「Acknowledged Events」をクリックします。

✓
▼
 「Device」タブのイベントリスト内にあるリンクをクリックすると、詳細情報が表示されます。

## Monitor Logs (モニタログ)

Monitor Logs 画面は、検出したデバイスから受信した Trap イベントと Syslog イベントを表示します。

本画面には以下のタブがあります。

- 「Trap Log」タブ:検出したデバイスから受信した Trap イベントを表示します。
- 「Syslog」タブ: Syslog イベントを表示します。

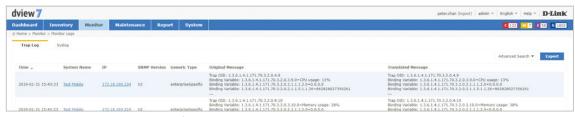


図 5-19 Monitor Logs (Trap Log タブ)



図 5-20 Monitor Logs (Syslog タブ)

## Monitor Logs 画面の操作

#### ■ イベントをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、リストをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

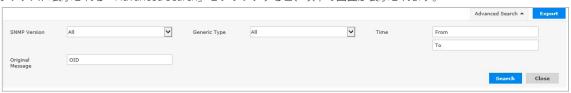


図 5-21 Advanced Search

- 3. 検索する項目を入力します。
- 4. 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

### ■ イベントリストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. デバイスのリストが CSV 形式でエクスポートされます。
- メモ イベントリスト内にあるリンクをクリックすると、詳細情報が表示されます。

## Ping Helper (Ping 送信)

リモートまたはローカルの Probe へ Ping を行います。

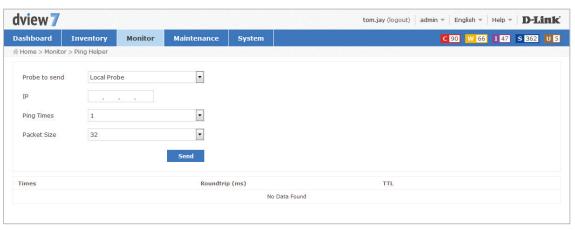


図 5-22 Ping Helper

- 1. 以下の項目を入力します。
  - ・「Probe to send」:Ping を送信する Probe を選択します。
  - ・「IP」: IP アドレスを入力します。
  - •「Ping Times」: Ping の回数を選択します。
  - •「Packet Size」:パケットサイズを選択します。
- 2. 「Send」をクリックします。
- 3. Ping の結果が画面下部に表示されます。

## 第6章 Maintenance (メンテナンス)

- 「Maintenance (メンテナンス) の概要」
- 「Batch Configuration(バッチコンフィグレーション)」
- ・「Firmware Management(ファームウェア管理)」
- 「Configuration Management (コンフィグレーション管理)」
- 「Task Management(タスク管理)」
- ・「File Management(ファイル管理)」
- 「Configuration Comparison (コンフィグレーション比較)」

## Maintenance(メンテナンス)の概要

Maintenance メニューでは、以下の設定を行います。

- Batch Config: テンプレートを使用し、複数のデバイスを同時に設定、管理します。
- Firmware Management:ファームウェアの管理を行います。
- Configuration Management: コンフィグレーションの管理を行います。
- Task Management: タスクの管理を行います。
- File Management:ファームウェアファイル、コンフィグレーションファイルの管理を行います。
- Configuratioin Comparison: コンフィグレーションを比較を行います。
- 注意
  ファームウェアアップグレード、コンフィグバックアップ、コンフィグリストアについては、下記の制限があります。
- DXS-3600 シリーズ:単体、物理スタックを含むファームウェアアップグレード、コンフィグリストアは未サポート。
- DXS-3400 シリーズ: 物理スタック構成でのファームウェアアップグレードは未サポート。
- DGS-3630 シリーズ:物理スタック構成でのファームウェアアップグレードは未サポート。 DGS-3630-28SC/28TC/52TC は単体でのファームウェアアップグレードも未サポート。
- DGS-3620 シリーズ:物理スタック構成でのファームアップグレード、コンフィグリストアは未サポート。
- DGS-3420 シリーズ:物理スタック構成でのファームウェアアップグレードは未サポート。
- DGS-3120 シリーズ:物理スタック構成でのファームウェアアップグレードは未サポート。
- DGS-1510 シリーズ:物理スタック構成でのファームウェアアップグレードは未サポート。
- DMS-1100 シリーズ:ファームウェアアップグレードは未サポート。
- DGS-1100-05/05PD/08/08P (B1): すべて未サポート。
- DIS-200G シリーズ:ファームウェアアップグレードは未サポート。
- DWL-8610AP: コンフィグバックアップは未サポート。
- DAP-3662: コンフィグバックアップは未サポート。

## Batch Configuration (バッチコンフィグレーション)

Batch Configuration 画面では、複数のデバイスを同時に設定、管理できます。 コンフィグのテンプレートはデバイスによって異なります。

**Maintenance>Batch Configuration** をクリックすると、「Config Template」タブの「Common Template」が表示されます。

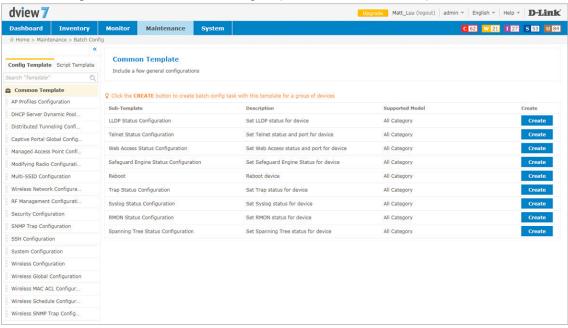
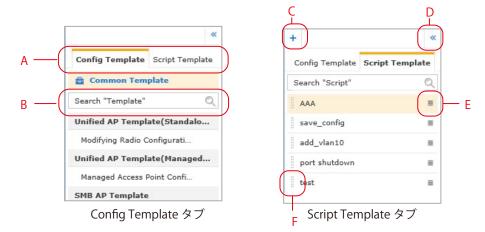


図 6-1 Batch Configration

### ■ テンプレートリストの編集



- A:「Config Template」タブまたは「Script Template」タブを選択します。
- B: テンプレートまたはスクリプトを検索します。
- C:新しいスクリプトテンプレートを作成します。詳細は「スクリプトテンプレートの作成」を参照してください。
- D:リストが表示されているコラムを非表示にします。
- E: テンプレートの名前を変更、またはテンプレートを削除します。
- F:ドラッグし、リストの順番を変更します。

## コンフィグテンプレートの使用

コンフィグテンプレートの使用方法について説明します。

- 1. 「Config Template」タブを選択します。
- 2. 画面右端の「Create」をクリックします。
- コンフィグの動作を設定します。
   以下の画面の例の場合は、「LLDP Status」の「Enable」(有効) /「Disable」(無効)を選択します。

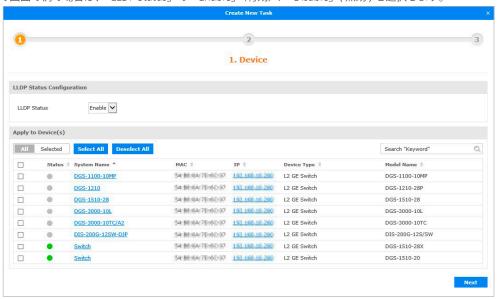


図 6-2 Template 01

- 4. タスクを適用するデバイスを選択し、「Next」をクリックします。
- 5. 以下の画面で設定を行い、「Next」をクリックします。

「Name」: タスク名を入力します。

「Description」: タスクの概要を入力します。

「Type」: タスクのタイプを「One Time」(1回のみ実行)/「Recurrent」(複数回実行)から選択し、スケジュールを設定します。

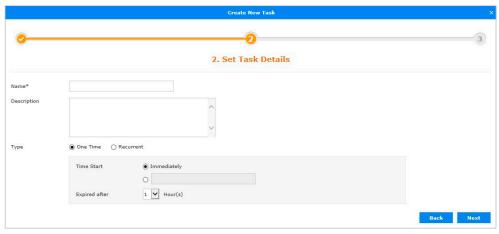


図 6-3 Template 02

6. 確認画面で「Submit」をクリックします。



図 6-4 Template 02

## スクリプトテンプレートの作成

- 1. 画面左上の「+」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。
  - •「Name」:スクリプト名を入力します。
  - ・「Description」: 概要を入力します。
  - •「Command Line」: コマンドを入力します。右端のオンラインヘルプで、基本的なコマンドライン入力ガイドラインを参照できます。

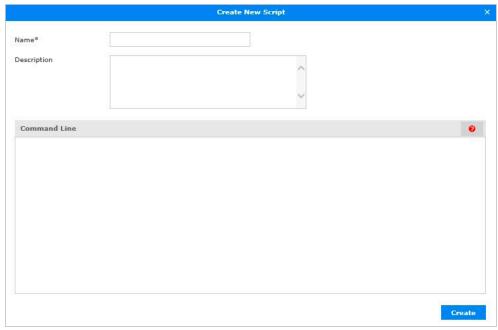


図 6-5 Create New Script

- 3. 「Create」をクリックします。
- (メモ) 「スクリプトテンプレートは画面右端の「Edit」から編集できます。

## スクリプトテンプレートの使用

- 1. 「Script Template」タブを選択します。
- 2. 画面右下の「Create」をクリックします。
- 3. スクリプトを適用するデバイスを選択し、「Next」をクリックします。
- 4. 認証情報を入力し、「Next」をクリックします。



図 6-6 Script Template 01

- 5. 以下の画面で設定を行い、「Next」をクリックします。
  - •「Name」:タスク名を入力します。
  - 「Description」: タスクの概要を入力します。
  - ・「Type」: タスクのタイプを「One Time」(1 回のみ実行)/「Recurrent」(複数回実行)から選択し、スケジュールを設定します。

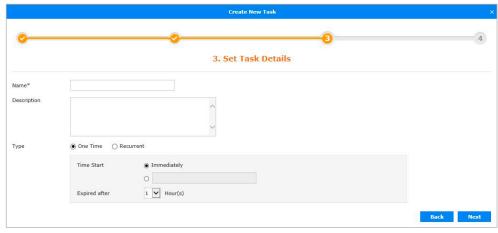


図 6-7 Script Template 02

6. 確認画面で「Submit」をクリックします。

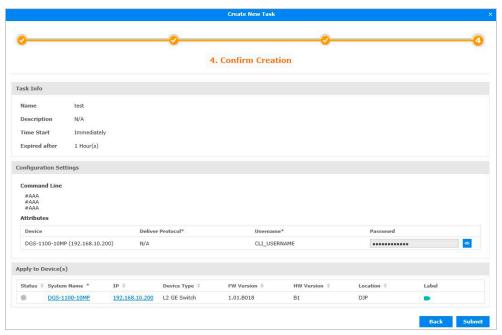


図 6-8 Script Template 03

注意 同時に Telnet や SSH を実行できる数はお使いの Windows OS によって異なります。

## Firmware Management (ファームウェア管理)

Firmware Management 画面では、ネットワーク上のデバイスのファームウェアアップグレード、トラッキングなどの管理を行います。



ファームウェア更新プロセスの初期ステップにおいて、デバイスの種類とファームウェアバイナリが一致していることを確認してください。 一致していないデバイスを選択してしまった場合、更新プロセスは正しく終了しません。

また、ファームウェアリリースノートに記載されている更新の際の注意などを確認し、問題なくプロセスが完了できるかを事前に確かめてください。

### ファームウェアアップグレード

- 1. 画面右上の「Firmware Upgrade」をクリックします。
- 2. ファームウェアとデバイスを選択し、「Next」をクリックします。 ファームウェアは以下から選択できます。
  - ・Upload a new firmware file to upgrade:新しいファームウェアをアップロードする
  - ・Use existing firmware file from D-View 7 to upgrade: D-View7 に存在するファームウェアを使用する
  - ・Use existing firmware file from remote server to upgrade: リモートサーバに存在するファームウェアを使用する

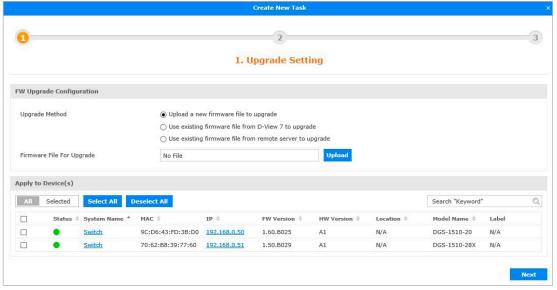


図 6-9 Firmware Upgrade 01

3. タスクの詳細を設定し、「Next」をクリックします。

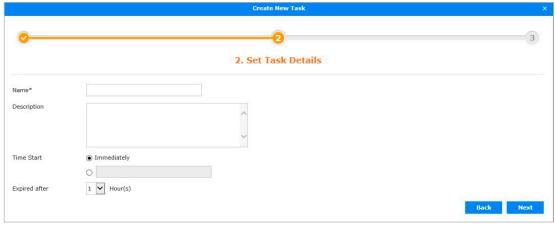


図 6-10 Firmware Upgrade 02

4. 確認画面で「Submit」をクリックします。

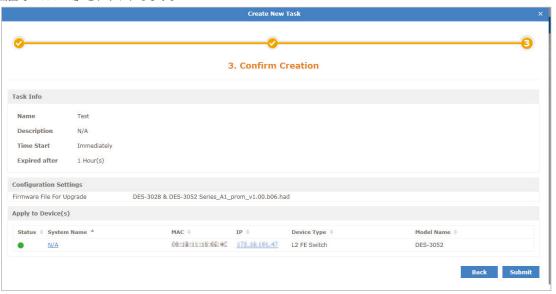


図 6-11 Firmware Upgrade 03

#### ■ ファームウェアアップグレードについての注意事項

物理スタック構成でスイッチをご利用の場合、D-View7からファームウェアアップグレードはできません。

#### ■ ファームウェアのファイル名についての注意事項

ファームウェアアップグレード後、必要に応じてファームウェアのファイル名を変更してください。

以下のスイッチについては、ファームウェアアップグレード後、ブートアップファームウェアとして起動しているファームウェアの Flash 上のファイルを上書きするため、同じファイル名のままとなります。

必要に応じて、ファームウェア名をアップグレード後のバージョンが分かる名前に変更してください。

- DGS-3620 シリーズ
- ・ DGS-3420 シリーズ
- DGS-3120 シリーズ
- DGS-3000 シリーズ

以下のスイッチについては、ファームウェアアップグレード後、「dlink」という新しいファイル名で Flash 上に新しいファームウェアが保存され、 起動ファームウェアに設定されます。

- DXS-3600 シリーズ
- DXS-3400 シリーズ
- DGS-3630シリーズ
- DGS-1510 シリーズ

## Configuration Management (コンフィグレーション管理)

Config Management 画面では、単一または複数のデバイスに対し、コンフィグレーションのリストアとバックアップを実行できます。

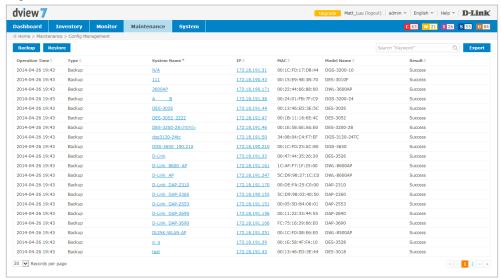


図 6-12 Configration Management

#### ■ Configuration Management 画面の操作



- ・「Backup」: コンフィグレーションのバックアップを行います。詳細は「コンフィグレーションのバックアップ」を参照してください。
- 「Restore」: コンフィグレーションのリストアを行います。詳細は「コンフィグレーションのリストア」を参照してください。
- ・「Search "Keyword"」:リストを検索します。「Advanced Search」をクリックし、詳細な検索を行うこともできます。
- 「Export」: リストを CSV 形式でエクスポートします。

### コンフィグレーションのバックアップ

- **1.** 画面右上の「Backup」をクリックします。
- 2. デバイスを選択し、「Next」をクリックします。

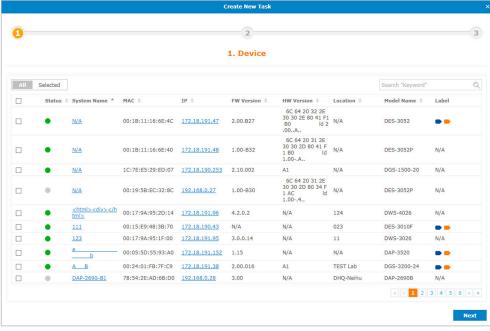


図 6-13 Configuration Backup 01

3. 以下の画面で設定を行い、「Next」をクリックします。

「Name」: タスク名を入力します。

「Description」: タスクの概要を入力します。

「Type」: タスクのタイプを「One Time」(1 回のみ実行)/「Recurrent」(複数回実行)から選択し、スケジュールを設定します。

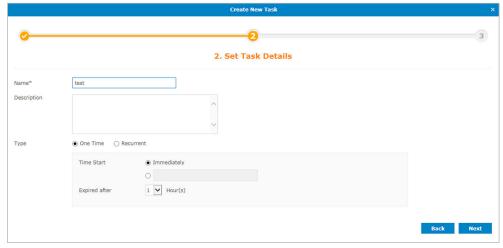


図 6-14 Configuration Backup 02

4. 確認画面で「Submit」をクリックします。



図 6-15 Configuration Backup 03

(メモ) タスクの実行状況は、Maintenance > Task Management 画面で確認できます。

## コンフィグレーションのリストア

- 1. 画面右上の「Restore」をクリックします。
- リストアするファイルを以下から選択し、「Next」をクリックします。 「System」: D-View7 にバックアップされているファイルを使用します。 「Upload」: ファイルをアップロードします。



図 6-16 Configuration Restore 01

3. コンフィグレーションをリストアするデバイスを選択し、「Next」をクリックします。



図 6-17 Configuration Restore 02

- 4. 以下の画面で設定を行い、「Next」をクリックします。
  - •「Name」:タスク名を入力します。
  - •「Description」: タスクの概要を入力します。
  - 「Expired after」: リストア完了までの期限(単位:時間)を選択します。



図 6-18 Configuration Restore 03

5. 確認画面で「Submit」をクリックします。



図 6-19 Configuration Restore 04

メモ タスクの実行状況は、Maintenance > Task Management 画面で確認できます。

## Task Management (タスク管理)

Task Management 画面では、タスクの表示と管理を行います。

- 「Current Task」タブ:現在実行中のタスクの表示と管理を行います。
- 「Historical Task」タブ:以前トラックしていたタスクを表示します。



図 6-20 Task Management (Current Task タブ)

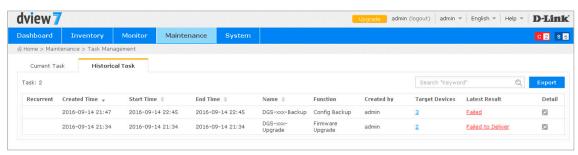


図 6-21 Task Management(Historical Task タブ)

#### ■ タスクをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、タスクリストをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



図 6-22 Advanced Search

- 3. 検索する項目を入力します。
- **4.** 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

## ■ タスクリストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. タスクのリストが CSV 形式でエクスポートされます。

### ■ アイコンについて

◎:タスクの詳細を表示します。

■:タスクを一時停止します。

一時停止したタスクを再開します。

・ タスクを削除します。

## File Management(ファイル管理)

File Management 画面では、D-View7 にアップロードしたファームウェアとコンフィグレーションファイルの管理を行います。

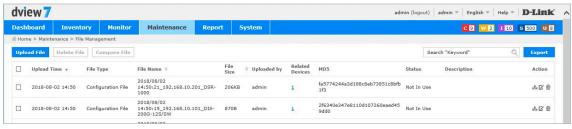


図 6-23 File Management

ファイルリストには以下の項目が表示されます。

- Upload Time:アップロードした日時が表示されます。
- File Type:ファイルタイプが表示されます。
- File Name:ファイル名が表示されます。
- File Size:ファイルサイズが表示されます。
- Uploaded By:アップロードしたユーザが表示されます。
- Related Devices:関連するデバイスです。リンクをクリックすると詳細が表示され、各デバイスの Inventory 画面へ移動できます。
- MD5: MD5 の情報が表示されます。
- Status:ステータスが表示されます。
- Description: 概要が表示されます。
- Action:アイコンから、ファイルの編集/削除/ダウンロードが実行できます。

#### ■ ファイル管理のアイコン



- ・「Upload File」:ファイルをアップロードします。詳細は「ファイルのアップロード」を参照してください。
- 「Delete File」:選択したファイルを削除します。
- •「Compare File」: 選択したファイルの比較を行います。詳細は「ファイルの比較」参照してください。

### ■ アイコンについて

「Action」欄のアイコンから、ファイルの編集/削除/ダウンロードが実行できます。

★:ファイルをダウンロードします。

📝 :ファイルの「Description」を編集します。

👚 :ファイルを削除します。

#### ■ ファイルリストをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、デバイスリストをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



図 6-24 Upload File

- 3. 検索する項目を入力します。
- 4. 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

#### ■ ファイルリストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. ファイルのリストが CSV 形式でエクスポートされます。

## ファイルのアップロード

- 1. 画面左上の「Upload File」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。
  - 「File Type」: ファイルタイプを「Configuration File」(コンフィグレーションファイル)または「Firmware File」(ファームウェアファイル)から選択します。
  - •「Description」:概要を入力します。
  - ・「File To Upload」:「Upload」をクリックしてファイルを選択します。

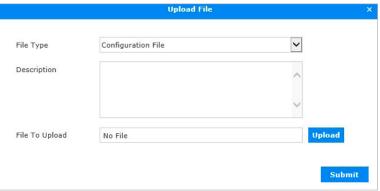


図 6-25 Upload File

3. 「Submit」をクリックします。

## ファイルの削除

- 1. 削除するファイルにチェックをいれます。
- 2. 画面左上の「Delete File」をクリックします。
- 3. 確認画面で「OK」をクリックします。

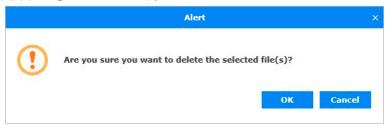


図 6-26 Delete File

## ファイルの比較

- 1. 比較するコンフィグレーションファイルを2つ選択します。
- 2. 画面左上の「Compare File」をクリックします。
- 3. Configuration Comparison 画面で比較結果が表示されます。
- メモ ファイル比較についての詳細は「Configuration Comparison(コンフィグレーション比較)」を参照してください

## Configuration Comparison (コンフィグレーション比較)

Configuration Comparison 画面では、コンフィグレーションファイルの比較を行います。

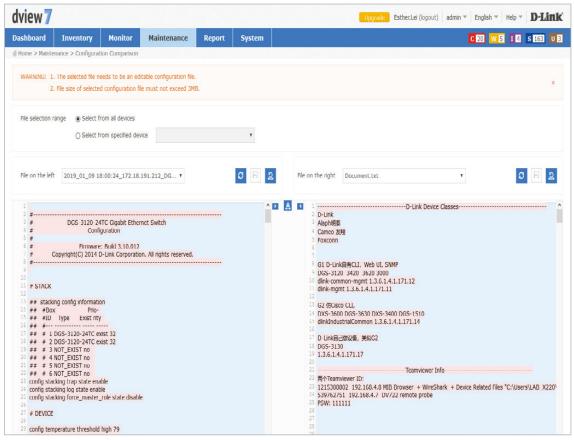


図 6-27 Configuration Comparison

- 1. 「File selection range」でファイルの選択範囲を以下から選択します。
  - 「Select from all devices」: すべてのデバイスからコンフィグレーションファイルを選択します。
  - 「Select from specified device」:指定したデバイスからコンフィグレーションファイルを選択します。ドロップダウンリストからデバイスを 選択します。
- 2. 「File on the left」と「File on the right」で比較するファイルを選択します。
- 3. 比較結果が画面下部に表示されます。 異なる箇所は赤でハイライト表示されます。

### ■ アイコンについて

- 2:コンフィグレーションファイルをデバイスへリストアします。
- ▲ 3: 鍵マークをクリックすると、右パネルと左パネルの同時スクロールを解除できます。
  ▲ ▶マークをクリックすると、ハイライト表示された箇所を別のパネルへ移動できます。

# 第7章 Report (レポート)

• 「Report(レポート)の概要」

## Report(レポート)の概要

Report メニューでは、デバイスに関する詳細なレポートを生成し、閲覧・保存することができます。

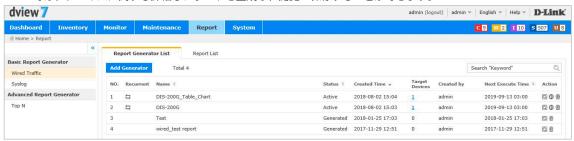


図 7-1 Report

#### ■ タブの種類

- 「Report Generator List」タブ:レポートの作成ルールを設定します。詳細は「レポートジェネレータリスト」を参照してください。
- ・「Report List」タブ:レポートのリストを表示します。詳細は「レポートリスト」を参照してください。

#### ■ レポートの種類

画面左のコラムで表示するレポートの種類を選択できます。

- 「Wired Traffic」:トラフィックの履歴を表示します。
- 「Syslog」: Syslog を表示します。
- 「Top N」: 項目別の上位レート(CPU 使用率、メモリ使用率、応答時間、エラーパケット、スループット)を表示します。

#### ■ レポートをフィルタする

画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、レポートをフィルタできます。

### ■ アイコンについて

Action 欄のアイコンで以下の操作を実行できます。

- ②:レポートの詳細を表示します。
- ■:レポートを一時停止します。
- : 一時停止したレポートを再開します。
- ☆ : レポートを削除します。
- ★: レポートを PDF 形式でダウンロードします。

## レポートジェネレータリスト

レポートの作成ルールを設定します。

- 1. 左コラムでレポートの種類を「Wired Traffic」「Syslog」「Top N」から選択します。
- 2. 「Add Generator」をクリックします。



図 7-2 Add Generator

3. レポート「Name」(名前)と「Description」(概要)を入力し、「Next」をクリックします。



図 7-3 Report Generator 01

4. レポートの生成ルールを設定し、「Next」をクリックします。

#### 手順1で「Wired Traffic」または「Syslog」を選択した場合:

- 「Generate Type」:「One Time」(1回のみのレポート生成) または「Reccurent」(定期的なレポート生成) を選択し、スケジュールを設定します。
- 「Display Mode」: レポートの表示「Table」(表) または「Chart」(グラフ) から選択します。



図 7-4 Report Generatoor 02

### 手順1で「Top N」を選択した場合:

- 「Generate Type」:「One Time」(1回のみのレポート生成) または「Reccurent」(定期的なレポート生成) を選択し、スケジュールを設定します。
- 「Statistical Type」:統計タイプを以下から選択します。
  - 「CPU Utilization」「Memory Utilization」「Response Time」「Wired Error Packet」「Wired Throughput(TX)」「Wired Throughput(RX)」
- 「Display Mode」: レポートの表示「Table」(表) または「Chart」(グラフ) から選択します。



図 7-5 Report Generator 03

5. レポートを生成するデバイスを選択し、「Next」をクリックします。



図 7-6 Report Generator 04

6. 確認画面で「Submit」をクリックします。

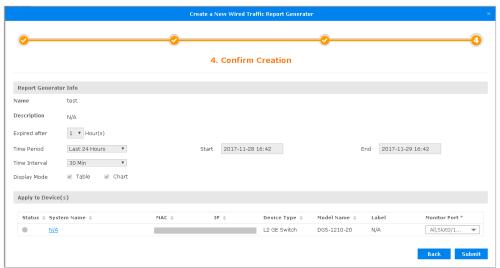


図 7-7 Report Generator 05

7. 作成したルールは右側パネルに表示されます。

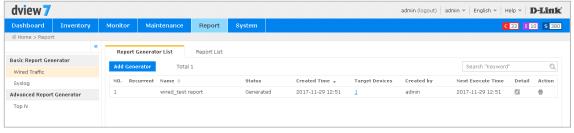


図 7-8 Report Generator List

## レポートリスト

生成されたレポートの一覧を表示します。

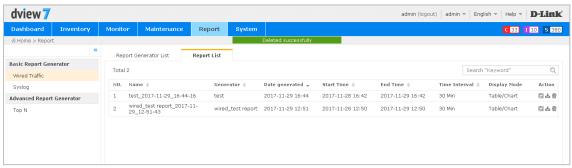


図 7-9 Report List

- ・「Action」欄のアイコンで詳細情報の表示などを実行できます。詳細は「アイコンについて」を参照してください。
- ・「Report」では、検出済みデバイスに関する詳細なレポートを生成し、閲覧・保存することが可能です。
- ・「Report」の初期表示項目は「Basic Report Generator」タブ下の「Wired Traffic」です。
- レポートの種別には「Wired Traffic」「Syslog」「Top N」があり、それぞれのレポートではトラフィックの履歴や Syslog、項目別の上位レート(CPU 使用率、メモリ使用率、応答時間、エラーパケット、スループット)を取得することができます。

# 第8章 System (システム)

- •「System (システム) の概要」
- 「License (ライセンス)」
- 「Discovery(Probe 検出)」
- 「User / Workspace (ユーザ / ワークスペース管理)」
- ・「Sensor Settings(センサ設定)」
- ・「Notification Center(通知センター)」
- 「System Logs(システムログ)」
- 「Trap Editor(トラップエディタ)」
- 「About (本製品について)」

### System(システム)の概要

System メニューでは、ライセンスや Probe の管理などを行います。System メニューには以下の画面があります。

- 「License」: ライセンスの管理を行います。
- 「Discovery」: Probe の管理を行います。
- 「User/Workspace」: ワークスペースの管理を行います。
- 「Sensor Settings」: センサの設定を行います。
- 「Notification Center」:通知ルールの設定を行います。
- 「System Logs」: イベントのリストを表示します。
- •「Trap Editor」: SNMP トラップの管理を行います。
- •「About」: D-View7 についての情報を表示します。

### License (ライセンス)

License 画面では、既存のライセンスの管理やライセンスのアクティベーションを行います。

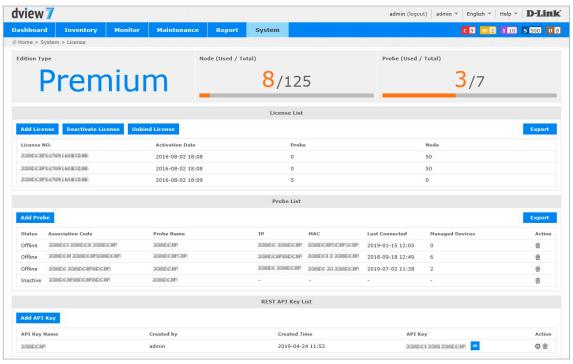


図 7-1 License - List

#### ■ アイコンについて

- 「Add License」: ライセンスの追加を行います。詳細は第2章の「ライセンスのアクティベーション」を参照してください。
- 「Deactive License」: ライセンスの無効化を行います。詳細は「ライセンスの無効化」を参照してください。
- 「Unbind License」: ライセンスの解放(アンバインド)を行います。詳細は「ライセンスの解放」を参照してください。
- 「Export」: リストを CSV 形式でエクスポートします。
- 「Add Probe」: Probe の追加を行います。詳細は「Probe の追加」を参照してください。
- 「Add API Key」: API キーの追加を行います。詳細は「API キーの追加」を参照してください。

### ライセンスの無効化

ライセンスを無効にする方法について説明します。

**注意** ライセンス無効化の処理は取り消すことができません。

注意 ライセンスを無効化すると、サーバと D-View ライセンスの関連性は断たれ、D-View7 が無効化されます。

注意 ライセンスの無効化は、主にライセンスの他のサーバへの移行時など、サーバの移動、交換、初期化などの際に行います。 一度 D-View7 を無効化すると、リセットや再インストールを行わない限り元に戻すことはできません。

- 1. 「Deactivate License」をクリックします。
- 2. 警告を確認後、「l understand the risk and confirm to deactivate」にチェックを入れ、「Confirm」をクリックします。

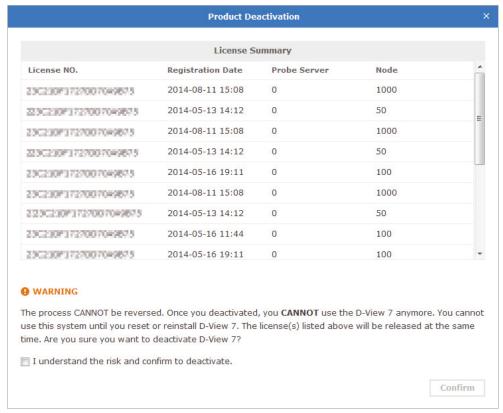


図 7-2 License - Deactivate License

- 3. ライセンス解除後、以下のオプションを選択できます。
  - ・「Export Database」(データベースのエクスポート):新規にインストールする D-View7 ためにデータベースをバックアップします。
  - 「Reset System」(システムのリセット): D-View7 をリセットしサーバからすべての機器情報と設定を消去します。
  - 「Logout」(ログアウト): D-View7 のインタフェースからログアウトします。

### ライセンスの解放

ライセンスを解放(アンバインド)する方法について説明します。 ライセンスを解放すると、D-View7 ライセンスとサーバの関係性が断たれますが、トライアル版の D-View7 は使用できます。 ライセンスの解放は、サーバの移動、交換などの際に行います。

- **1.** 「Unbind License」をクリックします。
- 2. 以下の画面を確認後、「OK」をクリックします。

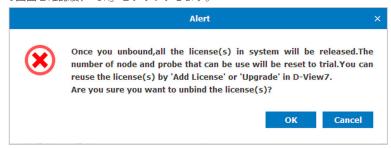


図 7-3 Alert - Unbind License

注意

ライセンスの解放を行うと、D-View7 はトライアル版に戻ります。26 台以上の管理ノード、もしくは3 つ以上の Probe がある場合、D-View7 はトライアル版で対応可能なノード /Probe 数になるまで、全てのノードや Probe の管理を停止します。

#### Probe の追加

Probe の追加方法について説明します。

- 1. Probe のライセンスを追加します。手順については第2章の「ライセンスのアクティベーション」を参照してください。
- **2.** 「Add Probe」をクリックします。
- **3.** 「Probe Name」(Probe 名)入力し、「Next」をクリックします。



図 7-4 Add Probe 01

**4.** D-View7 は自動的に新しく作成された Probe に有効なライセンスコードを割り当てます。 アクティベーションを行うために、Probe サーバに入力する必要のあるアクティベーションコードも発行されます。

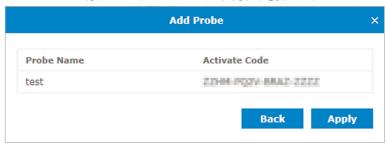


図 7-5 Add Probe 02

- 5. アクティベーションコードをリモート Probe サーバに入力します。 アクティベーションコードを入力し D-View7 サーバへの接続が正常に戻るまで、Probe は D-View7 サーバ上で非アクティブのままとなります。
- メモ Action 欄の から Probe を削除できます。

### API キーの追加

REST API に使用する API キーの追加方法について説明します。

- **1.** 「Add API Key」をクリックします。
- 2. 「Name」に名前を入力し、「Next」をクリックします。

Next

図 7-6 Add API Key 01

3. 「Apply」をクリックします。



図 7-7 Add API Key 02

## Discovery (Probe 検出)

Discovery 画面では、D-View7 の管理者が D-View7 サーバのアクティブな Probe の管理を行うことができます。

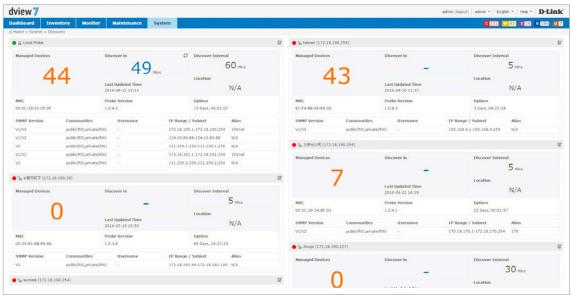


図 7-8 Discovery

#### ■ ウィジェットについて

Probe の情報はそれぞれのウィジェットに表示されます。

ウィジェットには、「Probe 名」「IP アドレス」「管理デバイス」「バージョン」などの情報が表示されます。

ウィジェットの下部には Probe の検出モードが表示されます。



図 7-9 Widget

Probe がオフライン状態の場合、Local Probe ステータスアイコンは赤色になります。 ステータスアイコンの横に「!」マークが表示された場合、マウスカーソルを合わせるとトラブルシューティング情報が表示されます。



図 7-10 Discovery trouble shooting

### Probe の編集

- 1. ウィジェット右上の をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行い、「Save」をクリックします。

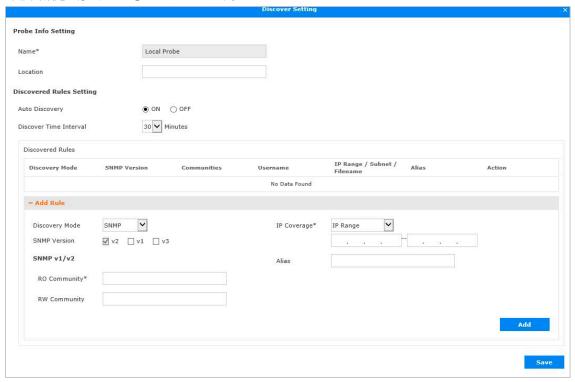


図 7-11 Discover Setting

#### **Probe Info Setting**

「Name」: Probe 名を入力します。

「Location」:場所を入力します。

### **Discovered Rules Setting**

• 「Auto Discovery」:自動検出を「ON」または「OFF」にします。

• 「Discover Time Interval」:検出を行う時間間隔(単位:分)を選択します。

#### Discovered Rules

「Add Rule」をクリックすると、ルール設定画面が表示されます。

以下の項目を設定後、「Add」をクリックします。

- 「Discovery Mode」:検出モードを「SNMP」または「SNMP Trap」から選択します。
- 「SNMP Version」: SNMP のバージョンを選択します。

SNMP v1/v2 を選択した場合

「RO Community」:読み取り専用の SNMP コミュニティ名を入力します。

「RW Community」:書き込み専用の SNMP コミュニティ名を入力します。

SNMP v3 を選択した場合

「Username」:ユーザ名を入力します。

「Mode」:モードを「AuthPriv」「AuthNopriv」「NoAuthNopriv」から選択します。認証ありのモードを選択した場合、認証の設定を行います。

- 「IP Coverage」: IP アドレスの範囲を「IP Range」(IP 範囲)「Subnet」(サブネット)「Import From File」(ファイルからインポート)から選択します。「Import From File」を選択した場合は、CSV 形式のファイルを使用してください。
- •「Alias」:エイリアスを入力します。

### User / Workspace (ユーザ / ワークスペース管理)

User / Workspace 画面は、ユーザアカウントとすべての有効なネットワークスペースを表示します。 また、ワークスペースの追加を行うことも可能です。

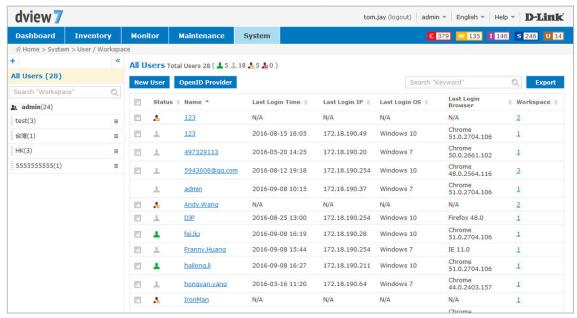


図 7-12 User/Workspace

### ■ ワークスペースリストの編集



- A:新しいワークスペースを作成します。詳細は「ワークスペースの作成」を参照してください。
- B:リストが表示されているコラムを非表示にします。
- C: リストを検索します。
- D:ワークスペースの名前を変更、またはワークスペースを削除します。
- E:ドラッグし、リストの順番を変更します。

#### ■ 右側パネルについて



- ・「Users」タブ:ユーザのリストが表示されます。リンクをクリックすると詳細情報が表示されます。
- 「Device」タブ:デバイスのリストが表示されます。リンクをクリックすると Inventory 画面で詳細情報が表示されます。
- 「New User」: ユーザの追加を行います。詳細は「ユーザの追加」を参照してください。
- •「OpenID Provider」: OpenID のユーザ情報を設定します。詳細は「OpenID プロバイダの設定」を参照してください。
- 「Edit」: ワークスペースのユーザまたはデバイスを編集します。
- 「Search Keyword」: ユーザまたはデバイスの検索を行います。
- 「Export」: リストを CSV 形式でエクスポートします。

### ワークスペースの作成

新しくワークスペースを作成する方法について説明します。

- 1. 画面左端の「+」をクリックします。
- **2.** 「Name」(名前)と「Description」(概要 ) を入力し、「Next」をクリックします。

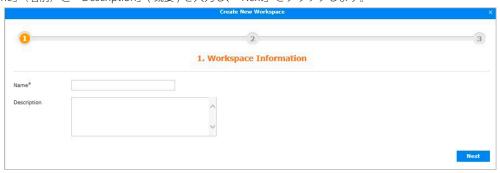


図 7-13 Create New Workspace 01

3. デバイスを選択し、「Next」をクリックします。 選択したデバイスが無線コントローラなどのデバイスで管理されている場合、管理しているデバイスも追加してください。

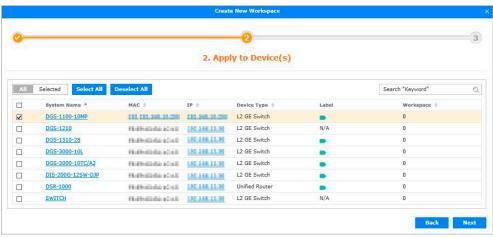


図 7-14 Create New Workspace 02

画面右端の検索ボックスでデバイスを検索できます。「Advanced Search」からより詳細な検索を行うこともできます。



図 7-15 Advanced Search

4. デバイスおよびモジュールの権限を「Read Only」(読み取りのみ)または「Read & write」(読み取りと書き込み)から選択します。



☑ 7-16 Create New Workspace 03

5. 「Submit」をクリックします。

### ユーザの追加

D-View7 サーバに新しいユーザを追加する方法を説明します。

- 1. 「New User」をクリックします。
- 2. 以下の画面で設定を行います。
  - Account Source:アカウントのソースを「Local」または「OpenID」を選択します。
  - Email Address: Eメールアドレスを入力します。
  - Name: ユーザ名を入力します。
  - Password:パスワードを入力します。(「Local」選択時のみ)
  - Repeat Password:再度パスワードを入力します。(「Local」選択時のみ)
  - Description:概要を入力します。
  - Account Type:アカウントのタイプを「Admin」(管理者) または「User」(ユーザ) から選択します。
  - Privilege:アカウントタイプで「User」を選択した場合、ユーザの権限を選択します。アカウントの特権は、ワークスペースに基づくため、ワークスペースがユーザーが割り当てられるデバイスに対し正しい許可を持つかどうかを必ず確認してください。

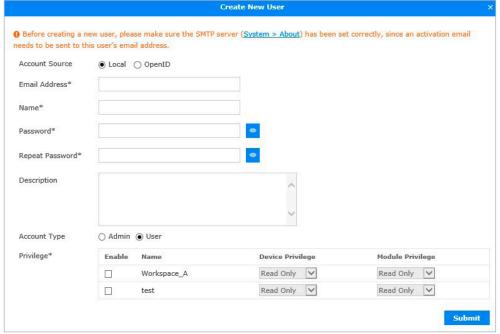


図 7-17 Create New User

3. 「Submit」をクリックします。

### ユーザの編集

既存のユーザの情報を編集します。

- 1. 右パネルの「System」列でユーザ名のリンクをクリックします。
- 2. User Profile 画面でユーザ情報の編集を行います。

#### Account Information(アカウント情報)タブ

ステータス、アカウントタイプ、権限を編集できます。

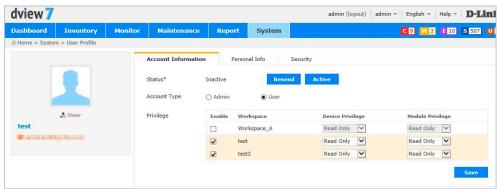


図 7-18 User Profile\_Account Information

#### Personal Info(個人情報)タブ

ユーザ名、場所、電話番号、説明を変更できます。

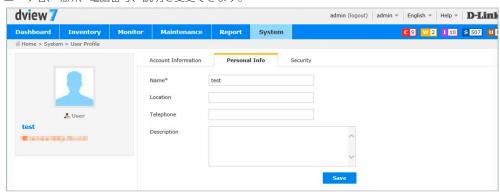


図 7-19 User Profile\_Personal Info

#### Security (セキュリティ) タブ

パスワードとEメールを変更できます。

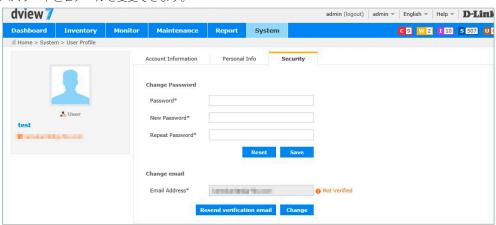


図 7-20 User Profile\_Security

3. 「Save」をクリックし、設定を適用します。

## Sensor Settings(センサ設定)

Sensor Settings 画面では、センサの表示と編集、センサの新規作成を行うことができます。本画面で設定したセンサは、センサを適用したデバイスの Inventory 画面に表示されます。

センサの種類によっては適用できないデバイスがあります。(例:無線関連のセンサは無線機能のないデバイスに適用できません。)

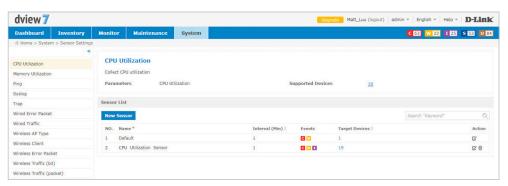


図 7-21 Sensor Settings

#### センサの作成

- 1. 左コラムのセンサリストから、センサのタイプを選択します。
- 2. 「New Sensor」をクリックします。
- 3. 以下の画面で設定を行い、「Next」をクリックします。
  - 「Name」: センサの名前
  - 「Interval」: デバイスからセンサがデータを収集する間隔(単位: 秒)を選択します。
  - •「Description」:概要を入力します。

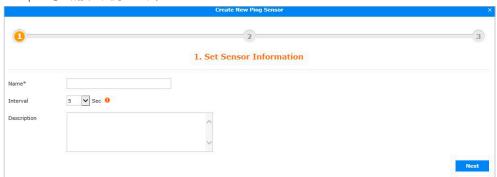


図 7-22 Create New Sensor 01

- 4. 以下の画面でセンサの情報を入力し、「Next」をクリックします。
  - 「Event」: イベントの「ON」または「OFF」を選択します。イベントは「Info Event」 <「Warning Event」 <「Critical Event」の順で優先度が高くなります。
  - ・「Trigger」:トリガとなるしきい値を設定します。しきい値の単位はセンサのタイプによって異なります。
  - 「Alert when trigger repeat for」:アラートを通知する前にトリガを繰り返す回数を設定します。
  - 「Escalation」:「ON」にした場合、イベントが複数回検出されるとアラートはさらに高い優先度に変更(エスカレート)されます。
  - 「Escalation when status repeat for」:エスカレートされる前にイベントを繰り返す回数を設定します。



図 7-23 Create New Sensor 02

5. センサを適用するデバイスを選択します。

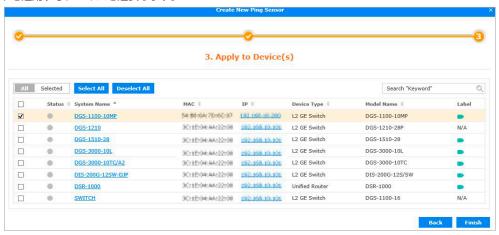


図 7-24 Create New Sensor 03

6. 「Finish」をクリックします。

作成したセンサはセンサリストに表示されます。

Action 欄のアイコンから編集、削除を実行できます。

☆: センサを削除します。☑: センサを削除します。

### Notification Center (通知センター)

Notification Center は、何らかのイベントが検知された時に、管理者へ通知を実行する機能です。 本画面では通知ルールの設定を行うことができます。



同時に Telnet や SSH を実行できる数はお使いの Windows OS に依存します。

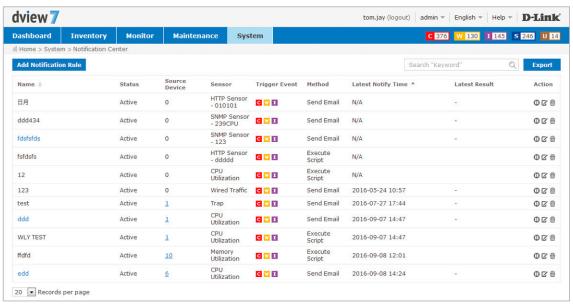


図 7-25 Notification Center

#### ■ 通知ルールをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、通知ルールをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

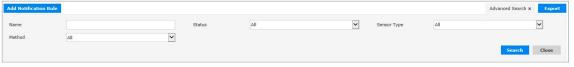


図 7-26 Advanced Search

- 3. 検索する項目を入力します。
- 4. 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

#### ■ 通知ルールリストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. 通知ルールのリストが CSV 形式でエクスポートされます。

#### ■ Action 欄のアイコンについて

- :ルールを一時停止します。
- ●:一時停止したルールを再開します。
- ☑:ルールを編集します。編集方法については「通知ルールの追加」を参照してください。
- **一**:ルールを削除します。

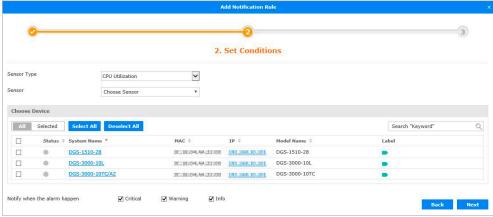
### 通知ルールの追加

- **1.** 「Add Notification Rule」をクリックします。
- **2.** 通知ルールの「Name」(名前)と「Description」(概要)を入力し、「Next」をクリックします。



図 7-27 Add Notification Rule 01

- 3. 以下の画面で設定を行い、「Next」をクリックします。
  - 「Sensor Type」: センサのタイプを選択します。
  - 「Sensor」: センサを選択します。
  - 「Choose Device」:デバイスを選択します。
  - 「Notify when the alarm happen」:通知するアラートのレベルを選択します。



☑ 7-28 Add Notification Rule 02

4. 通知方法を「Send Email Notification」(E メールを送信)または「Execute Script」(スクリプトを実行)から選択します。

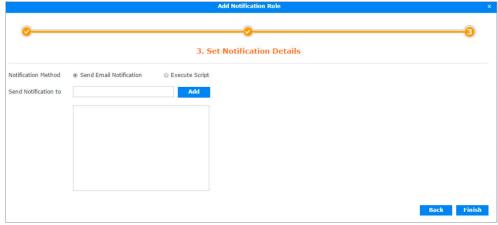


図 7-29 Add Notification Rule 03

5. 「Send Email Notification」を選択した場合は、「Send Notification to」に E メールアドレスを入力 →「Finish」をクリックします。

- 6. 「Execute Script」を選択した場合、以下の項目を入力 →「Next」をクリックします。
  - 「Command Line」: コマンドを入力します。
  - 「Apply Script to」:コマンドを実行するデバイスを「Itself」または「Other Devices」から選択します。「Other Devices」を選択した場合、表示される D-View7 の管理デバイスから少なくとも一つ選択します。

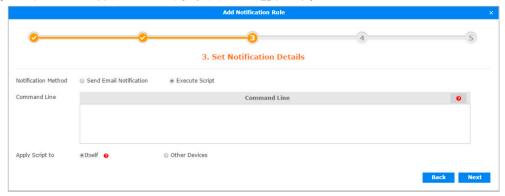


図 7-30 Add Notification Rule 04

7. 接続方法(SSH または Telnet)とユーザ名・パスワードを指定し、「Next」をクリックします。

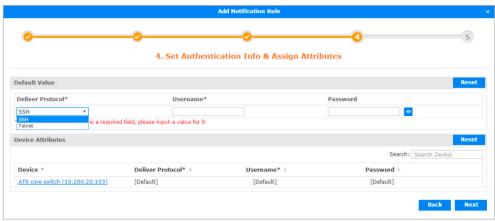


図 7-31 Add Notification Rule 05

8. オプションとしてスクリプトのアウトプットを受信する E-mail アドレスを指定することができます。「Send Result to」に E メールアドレスを入力します。

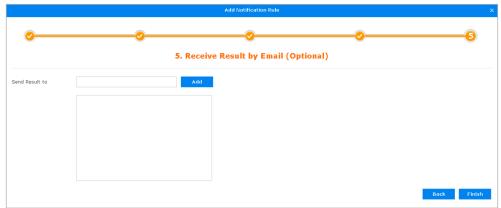


図 7-32 Add Notification Rule 06

**9.** 「Finish」をクリックします。

# System Logs(システムログ)

System Logs 画面では、D-View7 サーバで発生したすべてのイベントのリストを表示します。

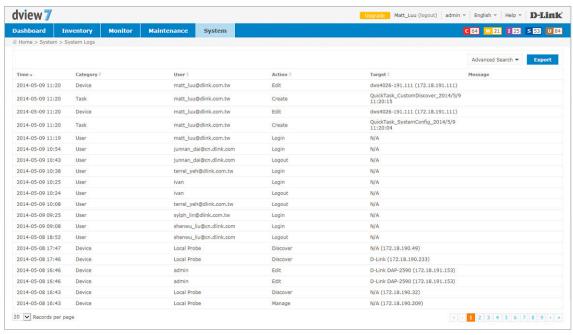


図 7-33 System Logs

#### ■ イベントリストをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、イベントリストをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



図 7-34 Advanced Search

- 3. 検索する項目を入力します。
- 4. 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

### ■ イベントリストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. イベントリストが CSV 形式でエクスポートされます。

## Trap Editor (トラップエディタ)

Trap Editor 画面では、SNMP トラップの管理を行います。

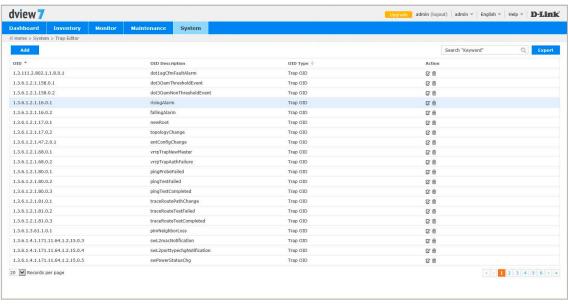


図 7-35 Trap Editor

#### ■ トラップリストをフィルタする

- 1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、トラップリストをフィルタできます。
- 2. 検索ボックスに表示される「Advanced Search」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



図 7-36 Advanced Search

- 3. 検索する項目を入力します。
- **4.** 「Search」をクリックし、フィルタを実行します。

#### ■ トラップリストをエクスポートする

- 1. 画面右上部の「Export」をクリックします。
- 2. トラップリストが CSV 形式でエクスポートされます。

#### ■ Action 欄のアイコンについて

☑:トラップの OID を編集します。

・トラップを削除します。

#### トラップの追加

新しいトラップを追加する方法について説明します。

- 1. 「Add」をクリックします。
- 2. 以下の項目を入力します。
  - 「OID」: OID を入力します。
  - •「OID Description」:OID の概要を入力します。
  - •「OID Type」: OID のタイプを「Trap OID」または「Binding Variable OID」から選択します。



図 7-37 Add Trap OID Description

3. 「Save」をクリックします。

### About (本製品について)

About 画面では D-View7 サーバの情報を表示します。

表示される情報は IP アドレス、MAC アドレス、システムの稼働時間、ソフトウェアのバーションなどです。

- 「Support Device Model List」タブ: D-View7 と互換性のあるデバイスを表示します。
- 「Customized Identified Device Model List」タブ:カスタマイズされ、識別されたデバイスを表示します。

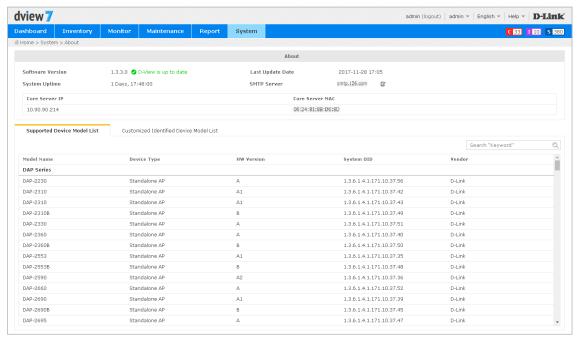


図 7-38 About

#### ■ デバイスリストをフィルタする

1. 画面右上部の検索ボックスにキーワードを入力し、デバイスリストをフィルタできます。

#### ■ デバイスリストを編集する

- 1. 「Customized Identified Device Model List」タブを選択します。
- 2. 

  をクリックします。
- 3. 以下の画面でデバイス情報を変更します。

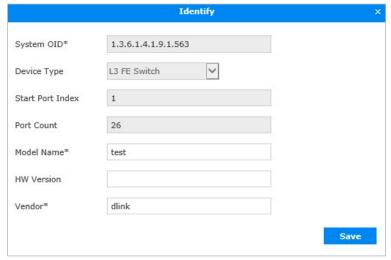


図 7-39 Identify

**4.** 「Save」をクリックします。

#### ■ D-View7 の E メール設定を編集する

- 1. 「SMTP Server」横のメールアドレスの「きをクリックします。
- 2. 以下の画面で E メールの設定を行います。
  - SMTP Host Address: SMTP ホストアドレスを入力します。
  - Port:ポートを入力します。
  - From Email Address:E メールアドレスを入力します。
  - From Name: 名前を入力します。
  - SSL: SSLを「Enable」(有効) または「Disable」(無効) に設定します。
  - EncodingType:エンコード形式を選択します。
  - Require SMTP Authentication:SMTP 認証を要求する場合、チェックを入れてユーザ名とパスワードを入力します。
  - ・ Send Test Email:テストメールを送信する場合、チェックを入れてメールアドレスを入力 →「Test」をクリックします。

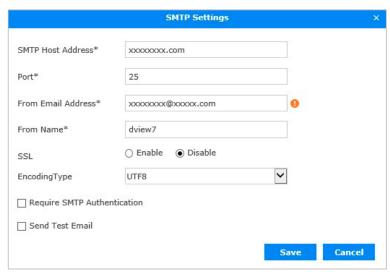


図 7-40 SMTP Settings

# 付録 A MongoDB バージョン 2.6 から 3.2 への移行

MongoDB のバージョン 2.6 から 3.2 への移行について説明します。 「MongoDB Upgrade Tool」は http://dview.dlink.com/download.php からダウンロードできます。

### 移行手順

- 1. D-View7 MongoDB ツール(D-View7 MongoDB Tool.exe)を起動します。
- 2. バージョンの移行に同意する場合は「Agree」をクリックします。



図 8-1 MongoDB 01

3. 以下の画面で「Check」をクリックします。本ツールを初めて使用する場合「Check」のみ選択可能です。



図 8-2 MongoDB 02

**4.** 確認画面が表示されます。再度「Check」を実行する場合は「Check」をクリックします。 キャンセルする場合は「Cancel」をクリックしメイン画面に戻ります。



図 8-3 MongoDB 02

- **5.** 「Check」が完了すると「Data Backup」が表示されます。 バージョン移行の前に「Data Backup」をクリックし、データベースのバックアップを行います。
- **6.** バックアップ先として PC 上のパスを指定します。初期値では「Backup」フォルダが移行ツールと同じ階層に作成されます。「Backup」をクリックし、バックアップを開始します。



図 8-4 MongoDB 03

- 7. バックアップ結果が表示されます。バックアップ完了後、「Cancel」をクリックしメイン画面へ戻ります。
- 8. バックアップ後のメイン画面には、起動中の「MongoDB」の状況に応じて以下の項目が表示されます。必要に応じてそれぞれの項目を実行してください。
  - 「Upgrade」(MongoDBのアップグレード)
  - 「Register」 (Windows サービスの登録)
  - 「Install」 (MongoDB のインストール)
- 「Upgrade」を行う場合(「MongoDB」のアップグレード)

手順「8」で「Upgrade」が表示されている場合、クリックし「MongoDB」のインストール(アップグレード)用パスを指定します。



図 8-5 MongoDB 04

既存のインストール済みのデータベースをアップグレードする場合、必ず事前に当該データベースのバックアップを取得してください。 オリジナルのデータフォルダ内は、アップグレード後は空になります。

「Yes, I have backed-up the original database」(オリジナルのデータベースをバックアップ済みです)の項目にチェックを入れ、「Upgrade」を クリックしてアップグレードを開始します。 インストレーションパスの下部にアップグレード状況が表示されます。

アップグレード完了後、「Cancel」をクリックしメイン画面へ戻ります。

■ 「Register」を行う場合(Winodws サービスとしての登録)

手順「8」で「Register」ボタンが表示されている場合、クリックし「MongoDB」の「bin」用パスを指定します。



図 8-6 MongoDB 05

「Register」をクリックし、登録を開始します。

登録完了後、「Cancel」をクリックしメイン画面へ戻ります。

■ 「Install」を行う場合(「MongoDB」のインストール)

手順「8」で「Install」ボタンが表示されている場合、クリックし「MongoDB」のインストール先を指定します。



図 8-7 MongoDB 06

「Install」をクリックしてインストールを開始します。登録が完了した後、「Cancel」をクリックしメイン画面へ戻ります。

9. 「MongoDB」のインストール、Windows Service への登録が完了すると、メイン画面の「Data Restore」が選択可能となります。
「Data Restore」をクリックし、バックアップ済みの「MongoDB 2.6」データベースを「MongoDB 3.2」のデータベースとしてリストアします。



図 8-8 MongoDB 07

- 10. 「Data Restore」をクリックし、バックアップフォルダを指定します。「Restore」をクリックしリストアを開始します。
- 11. リストア状況が表示されます。リストアが完了すると「done」と表示されます。「Cancel」をクリックし、メイン画面へ戻ります。

# トラブルシューティング

「Data Backup」「Data Restore」を実行中に以下のエラーメッセージが表示される場合があります。

メッセージ内容	解決方法		
Failed: error connecting to db server: no reachable servers	<ol> <li>「Windows service manager」から「MongoDB」サービスを起動する。</li> <li>「MongoDB」を起動できない場合、MongoDB「bin」のパスにある「Mongo.config」の内容を確認します。(例; D:\MongoDB\bin.)</li> </ol>		
	「Mongo.config」の内容は下記のようである必要があります。  directoryperdb = true logappend = true storageEngine = wiredTiger wiredTigerDirectoryForIndexes = true wiredTigerCollectionBlockCompressor = zlib serviceName = MongoDB serviceDisplayName = MongoDB logpath = D:\MongoDB\log.txt dbpath = D:\MongoDB\data  3. 「MongoDB」サービスを開始後、再度「バックアップ」「リストア」を実行します。		
Failed: DView7. Bas_Template: error reading database: not authorized on DView7 to execute command { listCollections: 1, cursor: { batchSize: 0 } }	<ol> <li>MongoDB「bin」のパスにある「Mongo.config」の内容を確認します。(例; D:\MongoDB\bin.)</li> <li>ファイル内の「auth」の文字列を探します。発見した場合「auth = true」のエントリとともに削除します。</li> <li>発見できない場合、以下の動作を実行します。</li> <li>①管理者として "cmd" を実行</li> <li>② "sc stop MongoDB" を入力、Enter を実行</li> <li>③ "sc delete MongoDB" を入力、Enter を実行</li> <li>④メイン画面で「Check」をクリックし環境を確認</li> <li>⑤「MongoDB Settings」が有効な場合、クリックし「Windows service」へ登録</li> <li>4. 「Windows service manager」で「MongoDB」を再起動します。</li> <li>5. 再度「バックアップ」「リストア」を実行します。</li> </ol>		

# MongoDB チェック結果について

MongoDB のチェック結果について表示します。

MongoDB バージョン	MongoDB サービス状態	結果	機能の状態
2.6.5	"MongoDB" という名前で Windows サービスとして登録されている。 (Be registered as windows service named as "MongoDB")	「MongoDB 2.6」と「MongoDB 3.2」がインストールされており、「MongoDB 2.6」が Windows サービスとして登録されています。「Database Backup」機能を使って「D-View7」データベースのバックアップを行い、「MongoDB Settings」で「MongoDB 3.2」のインストール、アップグレード、登録を行います。	有効: 「Data Backup」 「MongoDB Settings」 無効: 「Data Restore」
2.6.5	"MongoDB" という名前で Windows サービスとして登録されていない。 (Never be registered as windows service; No service named "MongoDB")	「MongoDB 2.6」がインストールされていますが、「MongoDB 2.6」が Windows サービスとして登録されていません。「MongoDB Settings」で「MongoDB 3.2」へのアップグレード、Windows サービスへの登録を行います。そして「Database Restore」機能を使って「MongoDB 3.2」へバックアップデータのリストアを行います。	有効: 「MongoDB Settings」 無効: 「Data Restore」 「Data Backup」
3.2.6	"MongoDB" という名前で Windows サービスとして登録されている。 (Be registered as windows service named as "MongoDB")	て登録されています。「Database Restore」 機能を使って「MongoDB	

MongoDB バージョン	MongoDB サービス状態	結果	機能の状態
3.2.6	"MongoDB" という名前で Windows サービスとして登録されていない。 (Never be registered as windows service; No service named "MongoDB")	「MongoDB 3.2」がインストールされていますが、Windows サービスとして登録されていません。「MongoDB Settings」で Windows サービスへの登録を行います。そして「Database Restore」機能を使って「MongoDB 3.2」へバックアップデータのリストアを行います。	有効: 「MongoDB Settings」 無効: 「Data Backup」 「Data Restore」
2.6.5/3.2.6	「3.2.6」が Windows サービスとして登録されている。 (3.2.6 was registered as windows service named as "MongoDB")	「MongoDB 2.6」と「MongoDB 3.2」がインストールされており、「MongoDB 3.2」が Windows サービスとして登録されています。「Database Restore」機能を使って「MongoDB 3.2」へバックアップデータのリストアを行います。	有効: 「Data Restore」 無効: 「Data Backup」 「MongoDB Settings」
2.6.5/3.2.6	「2.6.5」が Windows サービスとして登録されている。 (3.2.6 was registered as windows service named as "MongoDB")	「MongoDB 2.6」と「MongoDB 3.2」がインストールされており、「MongoDB 2.6」が Windows サービスとして登録されています。「Database Backup」機能を使って「D-View7」データベースのバックアップを行い、「MongoDB Settings」で「MongoDB 3.2」のインストール、アップグレード、または登録を行います。	有効: 「Data Backup」 「MongoDB Settings」 無効: 「Data Restore」
2.6.5/3.2.6	「2.6.5」または「3.2.6」のどちらかが、 "MongoDB"という名前で Windows サービスとして登録されているが、どちらか分析できない。 (One of them was registered as windows service named as "MongoDB", but the tool cannot analysis which one supply the service.)	「MongoDB 2.6」と「MongoDB 3.2」がインストールされており、 どちらかWindows サービスとして登録されています。Windows サー ビスとして登録されていない方をアンインストールしてください。	有効:「一」 無効: 「Data Restore」 「Data Backup」 「MongoDB Settings」
2.6.5/3.2.6	「2.6.5」または「3.2.6」のどちらも、 "MongoDB"という名前で Windows サー ビスとして登録されていない。 (Both them were not be registered as windows; No service named "MongoDB")	「MongoDB 2.6」と「MongoDB 3.2」がインストールされていますが、 どちらも Windows サービスとして登録されていません。「MongoDB Settings」で「MongoDB 3.2」の登録、そして「Database Restore」 機能を使って「MongoDB 3.2」へバックアップデータのリストアを 行います。	有効: 「MongoDB Settings」 無効: 「Data Restore」 「Data Backup」
2.6.5/3.2.6	「MongoDB」という名のサービスがない。 (No "MongoDB" service)	「MongoDB」が PC に見つかりません。「MongoDB Settings」で「MongoDB 3.2」のインストール、Windows サービスへの登録を行います。そして「Database Restore」機能を使って「MongoDB 3.2」へバックアップデータのリストアを行います。	有効: 「MongoDB Settings」 無効: 「Data Restore」 「Data Backup」
2.6.5/3.2.6	「MongoDB」という名の Windows サービスがある。 (There is a windows services named "MongoDB")	バージョンのわからない「MongoDB」が Windows サービスとして登録されています。本ツールは D-View7 によってインストールされた「MongoDB」のバージョンのみ使用可能です。	有効:「一」 無効: 「Data Restore」 「Data Backup」 「MongoDB Settings」

### 付録 B リモート Probe の追加

本項目ではリモート Probe の追加について記載致します。 使用する「D-View 7 Probe」ツールについては http://dview.dlink.com/download.php からダウンロード可能です。

### D-View 7 Probe ツールのインストール

1. D-View 7 Probe インストーラ(dv-700\_probe\_v1.0.1.9.exe)を起動し、「Next」をクリックします。



図 8-9 Welcome

2. ライセンス合意を行い「Next」をクリックします。

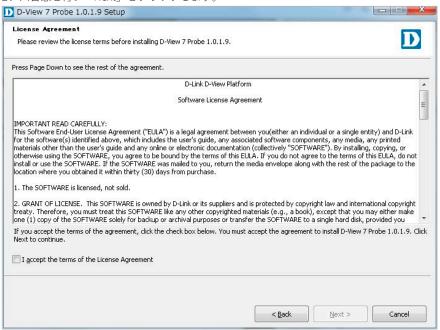


図 8-10 License Agreement

**3.** 「Browse」をクリックし、D-View 7 Probe アプリケーションをインストールするフォルダを指定します。左下に、インストールに必要なディスク容量と現在の空き容量が表示されます。「Install」をクリックしてインストールを開始します。

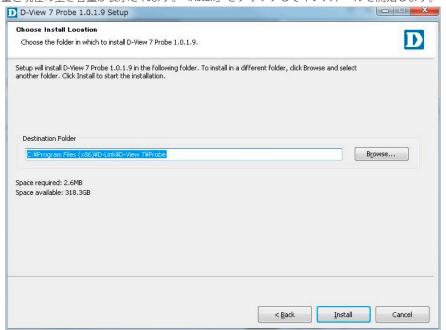


図 8-11 Choose Install Location

**4.** インストールが完了すると、以下の画面が表示されます。「Run D-View 7 Probe」にチェックを入れると、インストールツールの終了後にソフトウェアが起動します。インストールウィザードを終了するには「Finish」をクリックします。

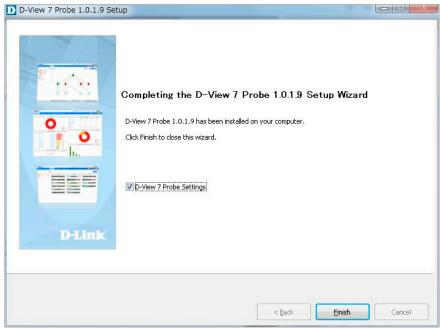


図 8-12 Completing

### Probe のアクティベーション

Probe のインストール後、ライセンスの有効化と D-View7 サーバへの追加を行います。 Probe 設定ツールの初回起動時に、ライセンスとサーバの設定を行うウィザードが表示されます。

以下の画面で設定を行います。

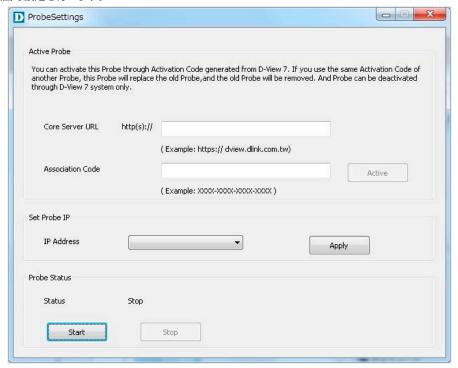


図 8-13 Welcome

#### Active Probe セクション

「Core Server URL」:コアサーバの URL を入力します。FQDN(例:http://dview.dlink.com.tw)か、IP アドレス(例:http://192.168.0.1)を設定することができます。

「Activation Code」:アクティベーションコードを入力します。アクティベーションコードは、XXXX-XXXX-XXXX の形式であり、コアサーバのライセンス画面で確認することができます。



別の Probe と同じアクティベーションコードを使用した場合、新しい Probe が古い Probe に置き換わり、古い Probe は D-View7 から削除されます。Probe の非アクティブ化は D-View7 コアサーバのインタフェース上のみで行うことが可能です。

#### Set Probe IP セクション

「IP Address」: Probe ソフトウェアに使用するローカル Probe の IP アドレスを選択します。

#### Set Probe Status セクション

ローカル Probe のステータスが表示されます。 Probe ソフトウェアを起動するには「Start」、停止するには「Stop」をクリックします。

### Probe の検出

D-View7 サーバの Discovery 画面を開き、Probe の検出ルールを設定します。 Probe の検出手順については、「Discovery(Probe 検出)」を参照してください。

### 付録 C D-View7 への HTTPS 接続

Microsoft Internet Information Services (IIS) の設定を行い、HTTPS 接続を行います。 インターネットまたはローカル LAN から D-View7 に対するセキュアな接続を行うことができます。

### システム要件

以下の手順では IIS 7 を使用した設定を記載しています。サポートされる他の Windows Server システムでも同様の手順です。サポートされる OS については「ハードウェア要件」を参照してください。

上記ソフトウェア要件に加え、サーバ証明書が必要となります。自己署名証明書または認証局により署名された証明書を使用することができます。 自己署名証明書を使用した場合でも、セットアップ手順に大きな違いはありません。

また、本手順では Microsoft URL Rewrite Module 2.0 for IIS 7(x64) パッケージを使用します。これは、Microsoft ダウンロードセンターからダウンロードすることが可能です。

### HTTPS 接続設定手順

- 1. Microsoft ダウンロードセンターから Microsoft URL Rewrite Module 2.0 for IIS 7(x64) パッケージをダウンロードし、インストールを行います。インストール完了後、IIS Manager または CLI を使用して IIS を再起動します。IIS Manager 起動後、接続パネルでサーバ名を選択すると、メイン画面に「URL 書き換え」オプションが表示されます。
- 2. IIS Manager の接続パネルでサーバ名を選択した状態で、「サーバ証明書」を開きます。操作パネルで「自己署名入り証明書の作成」をクリックします。
- 3. 証明書要求のファイル名を入力し、「OK」をクリックします。ここで設定した名前が「サーバ証明書」インタフェースに表示されます。

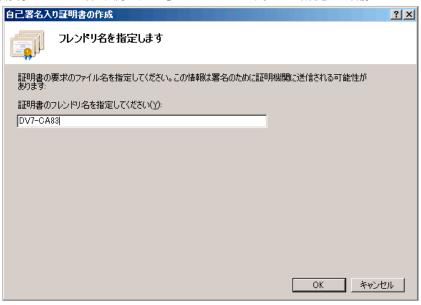


図 8-14 自己署名入り証明書の作成

**4.** 接続パネルで「Default Web Site」を右クリックし、「バインドの編集」を選択します。サイト バインド画面で「追加」ボタンをクリックし、種類に https を指定します。SSL 証明書には先ほど作成した証明書を選択し、「OK」をクリックします。「閉じる」をクリックしてサイトバインド画面を終了します。

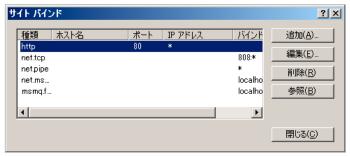


図 8-15 Site Bindings

- 5. 接続パネルでサーバ名が選択された状態で、URL 書き換えツールを開きます。操作パネルで「規則の追加」をクリックし、受信規則で「空の規則」を選択して「OK」をクリックします。
- **6.** 「受信規則の編集」画面で、ルール名(例: HTTP to HTTPS redirect)を入力します。「URL の一致」セクションでは、「(.\*)」といったパターン(括 弧は除く)を設定します。
- 7. 「条件」セクションでは、「追加」ボタンをクリックし、「条件の入力」欄に「{HTTPS}」を入力します。パターンには「^OFF\$」と入力し、「OK」をクリックします。

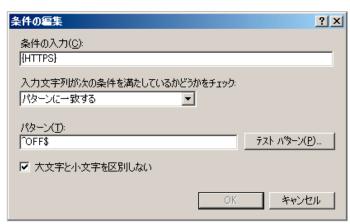


図 8-16 Add Condition

- 8. 「アクション」セクションでは、アクションの種類に「リダイレクト」を選択します。 リダイレクト URL に「https://{HTTP\_HOST}/{R:1}」を入力し、リダイレクトの種類は「検出 (302)」を選択します。アクションパネルの「適用」 をクリックし、設定を保存します。設定を破棄する場合は「キャンセル」をクリックします。
- 9. D-View7への HTTPS 接続が可能となります。(接続 URL 例: https://<hostname or IP>/DView7/)

# 付録 D MongoDB の手動アンインストール

通常のアンインストール手順により MongoDB が削除されない場合や、クラスタ構成の D-View7 システムで MongoDB が D-View7 とは異なるサーバにインストールされている場合などに、手動による削除が必要になる場合があります。

D-View7 サーバ上での通常のアンインストール手順については、第2章の「ライセンスのアクティベーション」を参照してください。

### システム要件

システム要件の詳細は、第2章の「インストール要件」を参照してください。

### アンインストール手順

1. MongoDB がインストールされているサーバで、Windows のスタートメニューから「すべてのプログラム > アクセサリ」を開き、コマンドプロンプトを右クリックして「管理者として実行」を選択します。



図 8-17 Windows メニュー

2. 「sc stop MongoDB」を入力し、Enter キーを押下します。

図 8-18 sc stop MongoDB

3. 「sc delete MongoDB」を入力し、Enter キーを押下します。

```
C:\Users\Administrator\sc delete MongoDB
[SCI DeleteService SUCCESS]

\times 8-19 sc delete MongoDB
```

4. Windows のスタートメニューからコントロールパネルを開き、「プログラムと機能」を選択します。MongoDB のインストールパッケージを選択して「アンインストール」をクリックします。確認メッセージに同意して、アンインストール処理を続行します。

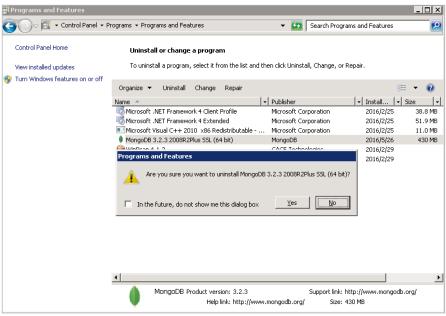


図 8-20 プログラムと機能

5. ログとデータを削除する場合は、MongoDBのインストールフォルダで削除を行います。

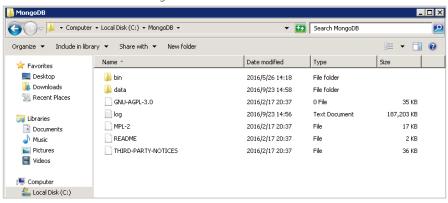


図 8-21 ログとデータの削除

### 付録 E D-View7 の移行と D-View7 ライセンスの解除

本項目では、D-View7を別のサーバへ移行する手順と、ライセンスを解除する手順について説明します。



サーバ機器の故障状態によっては、「1. ライセンスの解放」「2. データベースのバックアップ」の実行が不可能になり、正しくライセンスの移行作業が完了できない場合があります。データベースのバックアップが行われていなければ新しいサーバでのデータの復旧はできないため、定期的にバックアップを取得しておくことを強く推奨します。

### D-View7 の移行について

本項目では D-View7 を別のサーバへ移行する手順について説明します。 手順の概要は以下の通りです。

- (1) ライセンスの解放
- (2) データベースのバックアップ
- (3) 移行先 PC の IP アドレス変更
- (4) 移行先 PC への D-View7 のインストール
- (5) 移行先 PC へのデータベースのリストア
- (6) D-View7 の再起動
- (7) 移行先 PC へのライセンス追加

#### (1) ライセンスの解放

1. D-View7 の System > License 画面で「Unbind License」をクリックします。

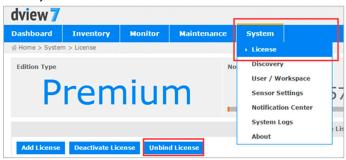


図 8-22 Unbind License

2. 警告メッセージが表示されます。問題がなければ「OK」をクリックします。



図 8-23 Alert Message

3. ライセンスが解放されました。「OK」をクリックします。

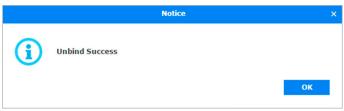


図 8-24 License Unbind

4. メイン画面に戻ります。ライセンスの解放が確認できます。



図 8-25 No License

### (2) データベースのバックアップ

- **注意** サーバの故障状態によりデータベースのバックアップ作業ができない場合、新しいサーバでのデータ復旧はできません。そのような事態に備えて、定期的にバックアップを取得しておくことを強く推奨します。
- 1. 「Windows」で管理者として「cmd」(コマンドプロンプト)を起動させます。
- 2. 「cd」コマンドを使用して、ディレクトリを「MongoDB」のインストールパスに変更します。(例:「cd D:\MongoDB\bin」)
- 3. 「MongoDB」のサービスが開始していることを確認してください。「mongo.exe」を入力、「Enter」をクリックしてデータベースに接続します。

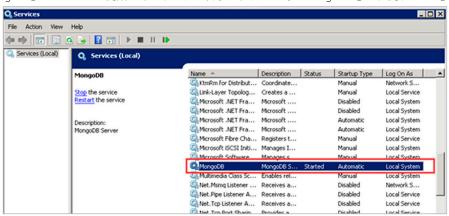


図 8-26 MongoDB.exe

4. ログイン成功後、「use admin」を実行し管理者データベースへ移行します。

```
C:\bin>mongo.exe
MongoDB shell version: 2.6.5
connecting to: test
> use admin
switched to db admin
> _
```

図 8-27 use admin

- 5. 「show users」を入力し、現在の全ユーザのデータベースを確認します。「MongoDB」が管理者モード(authentication mode)で実行されているかも確認します。
- 6. 「コマンドプロンプト」にエラーが発生していない場合、手順「10」へ移動します。
- 7. 「コマンドプロンプト」 にエラーメッセージが表示されている場合、データベースアカウントとパスワードでログインする必要があります。(エ ラーメッセージは " 権限がない " といったものです。「Error: not authorized on admin to execute command…」)

```
> show users
2016-05-20T11:49:19.656+0800 Error: not authorized on admin to execute command (
usersInfo: 1.0 > at src/mongo/shell/db.js:1281
```

図 8-28 Not Authorized

8. 「db.auth('admin', 'admin')」を入力し、管理者データベースへログインします。

```
> db.auth('admin','admin')
1
> _
```

図 8-29 Admin

- 9. コマンドプロンプトに「1」が表示されるとログインは成功です。失敗した場合は再度手順「8」からやり直してください。
- **10.** 「use DView7」を入力し「D-View7」のデータベースに移行します。

11. 次のコマンドを入力し実行します。

```
db.createUser({
    user: "dview",
    pwd: "dview",
    roles:[{
        role: "readWrite",
        db: "DView7"
    }]
})
```

12. 「Enter」を入力します。成功を示す「Successfully…」が表示されない場合、手順「10」から再度やり直します。

図 8-31 Create

- 13.「exit」を入力し、現在の接続を切断します。
- **14.** コマンド「mongodump.exe h host –d dbName –o dir –u user –p pwd」を入力します。「Enter」を押しバックアップを実行します。

```
(例)
mongodump.exe -h 127.0.0.1 -d DView7 -o "D:\MongoDB backup" -u dview -p dview
```

```
パラメータについて
「-h」: MongoDBのホストIPアドレス(例:127.0.0.1)
「-d」: バックアップが必要なデータベースのインスタンス(例:DView7)
「-o」: バックアップデータベースのパス。バックアップ前に作成されている必要があります。(例:C:\data\dump)
「-u」: 現在のデータベースユーザ名
「-p」: 現在のデータベースパスワード
```

- **15.** バックアップの動作が完了すると、"DView7" ドキュメントフォルダが「C:\data\dump」に配置され、全ての D-View7 データベースバックアップファイルは「C:\data\dump\DView7」に保存されます。(mongoDB のインストールパスやバックアップ指定ディレクトリにより、保存先は異なります。)
- データベースのバックアップパスを「MongoDB」のインストールパスと同じディレクトリにしないでください。同じディレクトリにすると D-View7 のアンインストール時にバックアップファイルも削除されてしまいます。

```
#icrosoft Windows URA本 10.0.10240]
(c) 2015 #icrosoft Corporation. All rights reserved.
C:\Windows\systemS2>cd C:\Program Files\WingoD8 2.6 Standard\bin
C:\Program Files\WingoD8 2.6 Standard\bin>mongo.exe
MongoD8 shell version: 2.6.5
cornecting to: test
> use admin
switched to db admin
> show users
> exit
```

図 8-32 Non-Authentication Backup

```
C:\Program Files\MongoOB 2.6 Standard\bin>mongo 172.18.190.22
MongoOB shell version: 2.6.5
connecting to: 172.18.190.22/test
> use admin
switched to db admin
> show users

2015-12-22711:19:42.564+0800 Error: not authorized on admin to execute command (usersInfo: 1.0) at src/mongo/shell/db.
js:1081
> db. auth('admin', 'admin');
```

図 8-33 Authentication Mode Backup

#### (3) 移行先 PC の IP アドレス変更

古い「D-View7」にいくつかのリモート Probe が接続されている場合、該当の Probe の再インストールを防ぐために、移行先の PC の IP アドレスを移行元の PC の IP アドレスに変更しておく必要があります。

#### (4) 移行先 PC への D-View7 のインストール

移行先の PC に D-View7 をインストールします。「第2章 製品のインストール」を参照ください。

#### (5) 移行先 PC へのデータベースのリストア

移行先の PC にバックアップしたデータベースのリストアをします。

- 1. 「Windows」で管理者として「cmd」(コマンドプロンプト)を起動させます。
- 2. 「cd」コマンドを使用して、ディレクトリを「MongoDB」のインストールパスに変更します。(例:「cd D:\MongoDB\bin」)
- 3. 「MongoDB」のサービスが開始していることを確認してください。「mongo.exe」を入力、「Enter」をクリックしてデータベースに接続します。

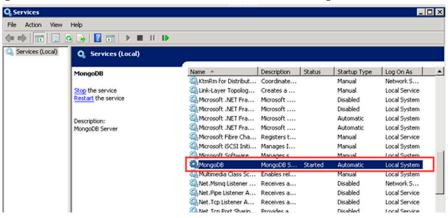


図 8-34 MongoDB.exe

4. ログイン成功後、「use admin」を実行し管理者データベースへ移行します。

```
C:\bin>mongo.exe
MongoDB shell version: 2.6.5
connecting to: test
> use admin
switched to db admin
> _____
```

図 8-35 use admin

- 5. 「show users」を入力し、現在の全ユーザのデータベースを確認します。「MongoDB」が管理者モード(authentication mode)で実行されているかも確認します。
- 6. 「コマンドプロンプト」にエラーが発生していない場合、手順「10」へ移動します。
- 7. 「コマンドプロンプト」にエラーメッセージが表示されている場合、データベースアカウントとパスワードでログインする必要があります。(エラーメッセージは "権限がない" といったものです。「Error: not authorized on admin to execute command…」)

```
> show users
2016-05-20111:49:19.656+0800 Error: not authorized on admin to execute command (
usersInfo: 1.0 > at src/mongo/shell/db.js:1281
```

図 8-36 Not Authorized

8. 「db.auth('admin', 'admin')」を入力し、管理者データベースへログインします。



図 8-37 Admin

- 9. コマンドプロンプトに「1」が表示されるとログインは成功です。失敗した場合は再度手順「8」からやり直してください。
- 10. 「use DView7」を入力し「D-View7」のデータベースに移行します。

```
> use DView?
switched to db DView?
```

図 8-38 D-View7 database

11. 次のコマンドを入力し実行します。

```
db.createUser({
    user: "dview",
    pwd: "dview",
    roles:[{
        role: "readWrite",
        db: "DView7"
    }]
})
```

12. 「Enter」を入力します。成功を示す「Successfully…」が表示されない場合、手順「10」から再度やり直します。

図 8-39 Create

- 13.「exit」を入力し、現在の接続を切断します。
- **14.** コマンド「mongorestore.exe -h 127.0.0.1 -d DView7 "D:\MongoDB backup\DView7" -u dview -p dview --drop」を入力します。「Enter」を押しリストアを実行します。

```
パラメータについて
「-h」: MongoDB のホスト IP アドレス
「-d」: リストアデータベースのインスタンス(例:C:\data\dump\DView7)
「-drop」: リストアの前に、現在のデータベースの削除が必要です。現在のデータベースはバックアップファイルとしてカバーされています。
「-u」: 現在のデータベースユーザ名
「-p」: 現在のデータベースパスワード
```

**15.** ユーザは「"mongorestore.exe --help"」にてデータベースバックアップコマンドを確認できます。

```
2016-05-17T19:21:15.136+0800
                                     restoring irectoreyperdb.Snr_ErrorPacket_Day fro
m D:\MongoDB backup\DView7\Snr_ErrorPacket_Day.bson
2016-05-17719:21:15.145+0800 restoring indexes f
                                     restoring indexes for collection irectoreyperdb.
Snr_ErrorPacket_Day from metadata
2016-05-12719:21:15.511+0800
                                     finished restoring irectoreyperdb.Evt_EventHisto
ry (0 documents)
2016-05-17T19:21:15.514+0800
2016-05-17719:21:15.514+0800 reading metadata for irectoreyperdb.Snr_ErrorPac
ket_HalfHour from D:\MongoDB backup\DUiew7\Snr_ErrorPacket_HalfHour.metadata.jso
2016-05-17T19:21:15.516+0800
                                     restoring irectoreyperdb.Snr_ErrorPacket_HalfHou
r from D:\MongoDB backup\DView7\Snr_ErrorPacket_HalfHour.bson
2016-05-17T19:21:15.520+0800
                                    restoring indexes for collection irectoreyperdb.
Snr_ErrorPacket_HalfHour from metadata
2016-05-17T19:21:15.955+0800 finish
                                     finished restoring irectoreyperdb.Evt_EventInfo
(0 documents)
2016-05-17T19:21:16.255+0800
                                     finished restoring irectoreyperdb.Snr_PortTraffi
c_HalfHour (0 documents)
2016-05-17T19:21:16.709+0800
                                     finished restoring irectoreyperdb.Snr_ErrorPacke
t_Day (Ø documents)
2016-05-17T19:21:17.356+0800
                                     finished restoring irectoreyperdb.Snr_ErrorPacke
t_HalfHour (Ø documents)
2016-05-17119:21:17.357+0800
C:\Program Files\MongoDB\Server\3.2\bin>
```

図 8-40 More Commands

# (6) D-View7 の再起動

D-View7の再起動を行います。

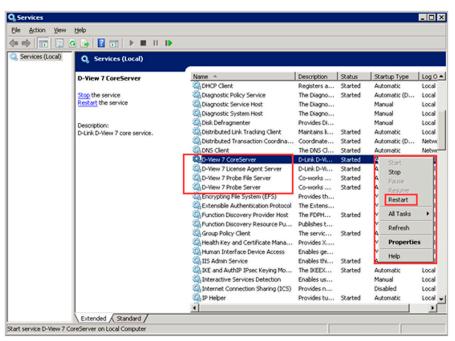


図 8-41 D-View7 Restart

注意

D-View7 Core Server のサービスを再起動する前に、Mongo DB のサービスが先に起動していることを確認してください。詳細は「第2章製品のインストール」の「D-View7 をインストールしたサーバの起動時または再起動時についての注意」を参照してください。

### (7). 移行先 PC へのライセンス追加

D-View7 移行先の PC でのライセンスの追加を行います。

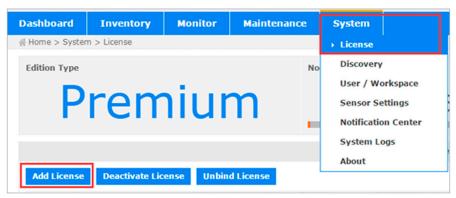


図 8-42 Add License

ライセンスの追加については、「ライセンスのアクティベーション」を参照ください。

# D-View ライセンスの解除について

本項目では D-View7 のライセンス解除について説明します。

警告 ライセンスを一度解除してしまいますと、以後 D-View7 を使用することはできなくなります。 D-View7 のリセット、再インストールをするまで使用することはできません。

主に次の手順で「D-View ライセンスの解除」「システムのリセット」「リストア / 再起動」を行います。

- (1) ライセンス解除 (Deactivate License)
- (2) データベースのエクスポート (Export Database)
- (3) システムのリセット (Reset System)
- (4) データベースのリストア
- (5) D-View7 の再起動
- (6) リセットした D-View7 へのライセンス追加

#### (1) ライセンス解除(Deactivate License)

1. System > License 画面で「Deactivate License」をクリックします。次の画面が表示されます。

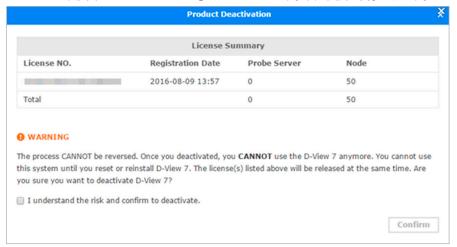


図 8-43 Deactivate License

- 2. 警告を確認した後、「I understand the risk and confirm to deactivate」にチェックを入れ、「Confirm」をクリックします。D-View7 ライセンスの解除が開始されます。
- 3. ライセンス解除後、画面が表示されます。

「Export Database」(データベースのエクスポート)「Reset System」(システムのリセット)「Logout」(ログアウト)の 3 つのオプションを選択できます。

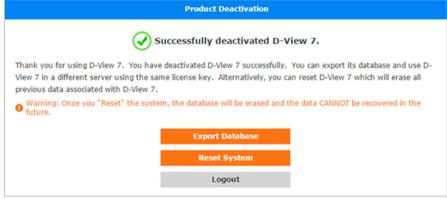


図 8-44 Deactivated

# (2) データベースのエクスポート(Export Database)

- 1. 「Windows」で管理者として「cmd」(コマンドプロンプト)を起動させます。
- 2. 「cd」コマンドを使用して、ディレクトリを「MongoDB」のインストールパスに変更します。(例:「cd D:\MongoDB\bin」)
- 3. 「MongoDB」のサービスが開始していることを確認してください。「mongo.exe」を入力、「Enter」をクリックしてデータベースに接続します。

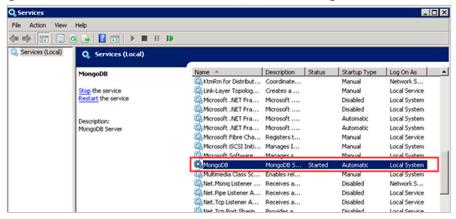


図 8-45 MongoDB.exe

4. ログイン成功後、「use admin」を実行し管理者データベースへ移行します。

```
C:\bin>mongo.exe
MongoDB shell version: 2.6.5
connecting to: test
> use admin
switched to db admin
> _
```

図 8-46 use admin

- 5. 「show users」を入力し、現在の全ユーザのデータベースを確認します。「MongoDB」が管理者モード(authentication mode)で実行されているかも確認します。
- 6. 「コマンドプロンプト」にエラーが発生していない場合、手順「10」へ移動します。
- 7. 「コマンドプロンプト」にエラーメッセージが表示されている場合、データベースアカウントとパスワードでログインする必要があります。(エラーメッセージは "権限がない"といったものです。「Error: not authorized on admin to execute command…」)

```
> show users
2016-05-20T11:49:19.656+0800 Error: not authorized on admin to execute command (
usersInfo: 1.0 > at src/mongo/shell/db.js:1281
```

図 8-47 Not Authorized

8. 「db.auth('admin', 'admin')」を入力し、管理者データベースへログインします。

```
> db.auth('admin','admin')
1
> _
```

図 8-48 Admin

- 9. コマンドプロンプトに「1」が表示されるとログインは成功です。失敗した場合は再度手順「8」からやり直してください。
- 10. 「use DView7」を入力し「D-View7」のデータベースに移行します。

11. 次のコマンドを入力し実行します。

```
db.createUser({

user: "dview",

pwd: "dview",

roles:[{

role: "readWrite",

db: "DView7"

}]

})
```

12. 「Enter」を入力します。成功を示す「Successfully…」が表示されない場合、手順「10」から再度やり直します。

図 8-50 Create

- 13.「exit」を入力し、現在の接続を切断します。
- **14.** コマンド「mongodump.exe h host –d dbName –o dir –u user –p pwd」を入力します。「Enter」を押しバックアップを実行します。

(例)
mongodump.exe -h 127.0.0.1 -d DView7 -o "D:\MongoDB backup" -u dview -p dview

```
パラメータについて
「-h」: MongoDB のホスト IP アドレス(例:127.0.0.1)
「-d」: バックアップが必要なデータベースのインスタンス(例:DView7)
「-o」: バックアップデータベースのパス。バックアップ前に作成されている必要があります。(例:C:\data\dump)
「-u」: 現在のデータベースユーザ名
「-p」: 現在のデータベースパスワード
```

- **15.** バックアップの動作が完了すると、"DView7" ドキュメントフォルダが「C:\data\dump」に配置され、全ての D-View7 データベースバックアップファイルは「C:\data\dump\DView7」に保存されます。(mongoDB のインストールパスやバックアップ指定ディレクトリにより、保存先は異なります。)
- 注意 データベースのバックアップパスを「MongoDB」のインストールパスと同じディレクトリにしないでください。同じディレクトリにすると D-View7 のアンインストール時にバックアップファイルも削除されてしまいます。
- **16.** ユーザは「"mongorestore.exe --help"」にてデータベースバックアップコマンドを確認できます。

```
#icrosoft Vindows 1824 10.0.10240]
(c) 2015 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\system32\cd C:\Program Files\MongoUB 2.6 Standard\bin

C:\Program Files\MongoUB 2.6 Standard\bin\mongo.exe

MongoUB shell version: 2.6.5

connecting to: test
) use admin
switched to db admin
) show users
) exit

bye

C:\Program Files\MongoUB 2.6 Standard\bin\mongodump.exe -d DView7 -o e:\db

connected to: 127.0.0.1

2015-12-22710:48:08.27140800 DATABASE: DView7 to e:\db\DView7

2015-12-22710:48:08.27140800 DView7.system.indexes to e:\db\DView7

2015-12-22710:48:08.27240800 DView7.system.indexes to e:\db\DView7\Evt_EventSetting to e:\db\DView7\Evt_EventSetting.metadata.json

2015-12-22710:48:08.27340800 Metadata for DView7.Evt_EventSetting to e:\db\DView7\Evt_EventSetting.metadata.json

DView7.Evt_ReventProfile_EventSetting to e:\db\DView7\Evt_REventProfile_EventSetting.bson

DView7.Evt_ReventProfile_EventSetting to e:\db\DView7\Evt_REventProfile_EventSetting.bson

DVIEw7.Evt_REventProfile_EventSetting to e:\db\DView7\Evt_REventProfile_EventSetting.bson
```

図 8-51 Non-Authentication Backup

図 8-52 Authentication Mode Backup

# (3) システムのリセット(Reset System)

1. ライセンス解除(Deactivate License)後の画面にて「Reset System」をクリックします。次の画面が表示されます。「X」をクリックして、前の画面に戻ることも可能です。「OK」をクリックするとシステムはリセットされ初期値に戻ります。



図 8-53 Reset System

2. リセットを実行しています。

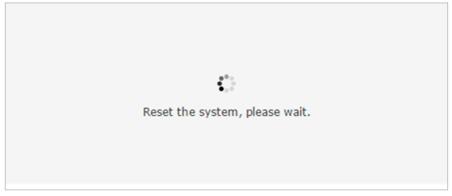


図 8-54 Reset

3. システムのリセットが完了しました。「Go to Login」でログインした後、すべての値が初期値に戻っていることを確認できます。



 $\ \boxtimes\ 8\text{-}55$  Reset the system successfully

#### (4) データベースのリストア

エクスポート (バックアップ) したデータベースのリストアをします。

- 1. 「Windows」で管理者として「cmd」(コマンドプロンプト)を起動させます。
- 2. 「cd」コマンドを使用して、ディレクトリを「MongoDB」のインストールパスに変更します。(例:「cd D:\MongoDB\bin」)
- **3.** 「MongoDB」のサービスが開始していることを確認してください。「mongo.exe」を入力、「Enter」をクリックしてデータベースに接続します。

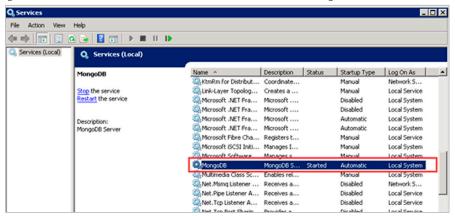


図 8-56 MongoDB.exe

4. ログイン成功後、「use admin」を実行し管理者データベースへ移行します。

```
C:\bin>mongo.exe
MongoDB shell version: 2.6.5
connecting to: test
> use admin
switched to db admin
> _
```

図 8-57 use admin

- 5. 「show users」を入力し、現在の全ユーザのデータベースを確認します。「MongoDB」が管理者モード(authentication mode)で実行されているかも確認します。
- 6. 「コマンドプロンプト」にエラーが発生していない場合、手順「10」へ移動します。
- 7. 「コマンドプロンプト」にエラーメッセージが表示されている場合、データベースアカウントとパスワードでログインする必要があります。(エラーメッセージは " 権限がない " といったものです。「Error: not authorized on admin to execute command…」)

```
> show users
2016-05-20T11:49:19.656+0800 Error: not authorized on admin to execute command <
usersInfo: 1.0 > at src/mongo/shell/db.js:1281
```

図 8-58 Not Authorized

8. 「db.auth('admin', 'admin')」を入力し、管理者データベースへログインします。

```
> db.auth('admin','admin')
1
> _
```

図 8-59 Admin

- 9. コマンドプロンプトに「1」が表示されるとログインは成功です。失敗した場合は再度手順「8」からやり直してください。
- **10.** 「use DView7」を入力し「D-View7」のデータベースに移行します。

```
> use DView?
switched to db DView?

Section 28-60 D-View7 database
```

11. 次のコマンドを入力し実行します。

```
db.createUser({
    user: "dview",
    pwd: "dview",
    roles:[{
        role: "readWrite",
        db: "DView7"
    }]
})
```

12. 「Enter」を入力します。成功を示す「Successfully…」が表示されない場合、手順「10」から再度やり直します。

図 8-61 Create

- 13.「exit」を入力し、現在の接続を切断します。
- **14.** コマンド「mongorestore.exe -h 127.0.0.1 -d DView7 "D:\MongoDB backup\DView7" -u dview -p dview --drop」を入力します。「Enter」を押しリストアを実行します。

```
パラメータについて
「-h」: MongoDB のホスト IP アドレス
「-d」: リストアデータベースのインスタンス(例:C:\data\dump\DView7)
「-drop」: リストアの前に、現在のデータベースの削除が必要です。現在のデータベースはバックアップファイルとしてカバーされています。
「-u」: 現在のデータベースユーザ名
「-p」: 現在のデータベースパスワード
```

**15.** ユーザは「"mongorestore.exe --help"」にてデータベースバックアップコマンドを確認できます。

```
2016-05-17T19:21:15.136+0800
                                    restoring irectoreyperdb.Snr_ErrorPacket_Day fro
n D:\MongoDB backup\DUiev7\Snr_ErrorPacket_Day.bson
2016-05-17T19:21:15.145+0800 restoring indexes f
                                    restoring indexes for collection irectoreyperdb.
Snr_ErrorPacket_Day from metadata
2016-05-17T19:21:15.511+0800 fi
                                     finished restoring irectoreyperdb.Evt_EventHisto
ry (0 documents)
2016-05-17T19:21:15.514+0800
                                     reading metadata for irectoreyperdb.Snr_ErrorPac
ket_HalfHour from D:\MongoDB backup\DView7\Snr_ErrorPacket_HalfHour.metadata.jsc
2016-05-17T19:21:15.516+0800
                                     restoring irectoreyperdb.Snr_ErrorPacket_HalfHou
r from D:\MongoDB backup\DView7\Snr_ErrorPacket_HalfHour.bson
2016-05-17T19:21:15.520+0800
                                     restoring indexes for collection irectoreyperdb.
Snr_ErrorPacket_HalfHour from metadata
2016-05-17T19:21:15.955+0800 finish
                                     finished\ restoring\ irectorey perdb. Evt\_EventInfo
(0 documents)
2016-05-17T19:21:16.255+0800
                                     finished restoring irectoreyperdb.Snr_PortTraff:
c_HalfHour (0 documents)
2016-05-17T19:21:16.709+0800
                                     finished restoring irectoreyperdb.Snr_ErrorPacke
t_Day (Ø documents)
2016-05-17T19:21:17.356+0800
                                     finished restoring irectoreyperdb.Snr_ErrorPacket
t_HalfHour (Ø documents)
2016-05-17T19:21:17.357+0800
C:\Program Files\MongoDB\Server\3.2\bin>
```

図 8-62 More Commands

# (5) D-View7 の再起動

D-View7 の再起動を行います。

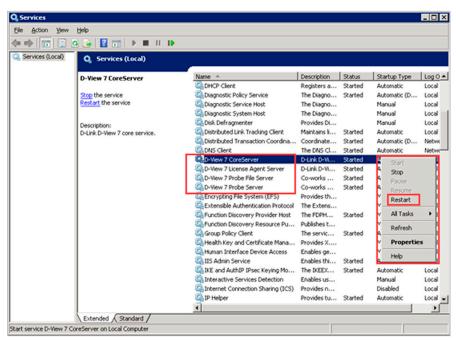


図 8-63 D-View7 Restart

**注意** D-View7 Core Server のサービスを起動する前に、Mongo DB のサービスが先に起動していることを確認してください。詳細は「第2章製品のインストール」の「D-View7 をインストールしたサーバの起動時または再起動時についての注意」を参照してください。

#### (6) リセットした D-View7 へのライセンス追加

リセット、データベースもリストアを実行した D-View7 へのライセンスの追加を行います。



図 8-64 Add License

ライセンスの追加については、「ライセンスのアクティベーション」を参照してください。

# 付録 F RESTAPI 設定ガイド

D-View7 との間で情報を取得および送信する、カスタム API ついて説明します。

#### ■ リターンステータスコード

ステータスコード	説明
-1	無効なリクエストです。
0	実行が成功しました。
1	不明なエラーです。
101	API キーが無効です。
103	無効な操作方法です。
105	データ形式が例外です。
106	APIキーがアクティベートされていません。
107	タスクは存在しない、もしくは消去されています。
108	タスクのタイプがサポートされていません。

# ■ アクションコマンドリスト

ステータスコード	説明
getProbeInfoList	アクティブ化された Probe のリストを取得します。
getProbeInfo	選択した Probe の情報を取得します。
getProbeDiscoverParaList	選択した Probe の検出ルールを取得します。
setProbeInfo	Probe の情報をアップデートします。
delDiscoverParaList	選択した Probe の検出ルールを削除します。
addDiscoverPara	Probe の検出ルールを追加します。
getDeviceList	デバイスの基本情報を取得します。
createTask	サポートされているタスクをデバイスに作成します。
getTaskResultInfo	タスク情報と実行結果を取得します。
uploadFile	D-View7 にファイルをアップロードします。
createSnmpTask	特定の OID 値を取得する SNMP タスクを作成します。
getSnmpTaskResultInfo	createSnmpTask API で通常使用される、実行済み SNMP タスクの結果を取得します。

# uploadFile API - デバイスのコンフィグレーションファイル / ファームウェアファイルを D-View にアップする

# ■ リクエスト URL

 $\bullet \ \ \{ D\_View\_7\_Url\}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAyeGxnPORAKQ\&action=uploadFilender (Application of the Company of the$ 

#### ■ リクエスト方法

• Post

# ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
file	必須	file	アップロードするファイル。

# ■ データリターンの例

```
"fileId": "5b1f6b6edf11a91fbcad7f44",
"fileName": "uploadFile.cfg",
"message": "SUCCESS",
"status_code": 0
}
```

#### ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	説明
status_code	int	ステータスコード。
message	string	メッセージ。
fileId	string	正常にアップロードされたファイルの ID。 この ID は、"createTask" API が "Firmware Upgrade" タスクまたは "Configuration Restore" タスクを作成するために使用されます。
fileName	string	正常にアップロードされたファイルのファイル名。 このファイル名は、"createTask" API が "Firmware Upgrade" タスクまたは "Configuration Restore" タスクを作成するために使用されます。

```
■ ファイルアップロードの例(C#)
using System.Collections.Generic;
using System.Linq;
using System.Text;
using System.Net;
using System.IO;
namespace ConsoleApplication1
{
  class UpLoadFile
  {
    public string Name { set; get; }
    public string FileName { set; get; }
    public string Content_Type { set; get; }
    public byte[] Data { set; get; }
  }
  class Program
    /// <summary>
    /// Converting files into byte[] arrays
    /// </summary>
    /// <param name=" fileName" ></param>
    /// <returns></returns>
    private static byte[] FileContent(string fileName)
      FileStream fs = new FileStream(fileName, FileMode.Open, FileAccess.Read);
      try
        byte[] buffur = new byte[fs.Length];
        fs.Read(buffur, 0, (int)fs.Length);
        return buffur;
      }
      catch (Exception ex)
      {
        return null;
      finally
      {
        if (fs!= null)
        {
          fs.Close();
        }
    /// <summary>
    /// Initiating a HTTP POST request, to upload the file
    /// </summary>
    /// <param name=" url" >Request URL</param>
    /// <param name=" file" >File</param>
```

```
/// <param name=" endoding" >Code Method</param>
/// <returns></returns>
public static string PostResponse(string url, UpLoadFile file, Encoding endoding)
  string boundary = "-----" + DateTime.Now.Ticks.ToString("x");
  HttpWebRequest request = (HttpWebRequest)WebRequest.Create(url);
  request.ContentType = "multipart/form-data; boundary=" + boundary;
  request.Method = "POST";
  request.KeepAlive = true;
  request.Expect = "";
  MemoryStream stream = new MemoryStream();
  byte[] line = Encoding.ASCII.GetBytes( "--" + boundary + "\r");
  byte[] enterER = Encoding.ASCII.GetBytes( "\r\n" );
  ////submit file
  if (file!= null)
      string\ fformat = "Content-Disposition:form-data; name=\ {0}\ {1}\ "r\nContent-Type:{2}\r\n\r\n"; \\
    stream.Write(line, 0, line.Length); //item separator
    string s = string.Format(fformat, file.Name, file.FileName, file.Content_Type);
    byte[] data = Encoding.UTF8.GetBytes(s);
    stream.Write(data, 0, data.Length);
    stream.Write(file.Data, 0, file.Data.Length);
    stream.Write(enterER, 0, enterER.Length); //add \r\n
  }
    byte[] foot\_data = Encoding.UTF8.GetBytes("--" + boundary + "--\r\n"); //The final delimiter string of the item needs to be taken with--
    stream.Write(foot_data, 0, foot_data.Length);
    request.ContentLength = stream.Length;
    Stream requestStream = request.GetRequestStream(); //Write request data
    stream.Position = 0L;
    stream.CopyTo(requestStream); //
    stream.Close();
    requestStream.Close();
    try
      HttpWebResponse response;
      try
        response = (HttpWebResponse)request.GetResponse();
          using (var responseStream = response.GetResponseStream())
          using (var mstream = new MemoryStream())
          responseStream.CopyTo(mstream);
          string message = endoding.GetString(mstream.ToArray());
          return message;
        }
      }
      catch (Exception ex)
      {
        throw ex;
      }
    catch (WebException ex)
      throw ex;
  }
  catch (Exception ex)
```

```
throw ex;
      }
    }
    static void Main(string[] args)
    {
      UpLoadFile file = new UpLoadFile();
      file. Name = "C:\Users\Administrator\Desktop\DView7\uploadFile.cfg";
      file.FileName = "uploadFile.cfg";
      file.Content_Type = "application/octet-stream";
      file.Data = FileContent(file.Name);
      string \ msg = PostResponse(\ "http://localhost:8080/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2\ j|l30A3kMFl4oAyeGxnPORAKQ&action=uploadFile"\ ,
file, Encoding.UTF8);
  }
 }
 }
■ ファイルアップロードの例(HTML)
<html>
  <head>
   <style>
     form{width: 450px;}
     div{padding:10px 10px;text-align: center;}
     form div select,input,textarea{width: 250px;}
      form div span{width: 100px;float: left;text-align: left;padding: 0 20px;}
      .btn{float: right;width: 120px;}
   </style>
  </head>
<body>
 <form action=" http://175.18.172.22/DView7/api/json/Api.aspx?apiKey= UpHkF7abCDEFG HGfzUqHvqAbXJOXXX&action=uploadFile" method="</pre>
post" enctype=" multipart/form-data" >
  <div>
     <span>File Type</span>
    <select name=" fileType" >
        <option value=" CFG" selected =" selected" >CFG</option>
        <option value=" FW" >FW</option>
    </select>
  </div>
  <div>
     <span>File Note</span>
    <textarea name=" fileNote" maxlength=" 255" rows=" 3" cols=" 20" ></textarea>
  </div>
  <div>
    <span>Select File</span>
    <input type=" file" name=" file" />
  </div>
  <div>
    <input type=" submit" value=" Upload File" class=" btn" />
  </div>
 </form>
</body>
</html>
<!--
The action format is {DV7_WEB_URL}/api/json/Api.aspx?apiKey= UpHkF7abCDEFGHGfzUqH
vqAbXJOXXX&action=uploadFile;
You need to modify the {DV7_WEB_URL} and apiKey based on your real test environment;
```

# getProbeInfoList API- すべてのアクティブな Probe の情報リストを取得する

#### ■ リクエスト URL

 {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api. aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAyeGxnPORAKQ&action=getProbeInfoList

#### ■ リクエスト方法

• Get

# ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。

### ■ データリターンの例

```
"data" :[
{
 "Active" : true,
 "AutoDiscover": true,
 "Description": "",
 "IP": "localhost",
 "Interval" : 1800,
 "Location": "",
 "MAC": "00:0C:29:61:0F:0F",
 "Name": "Local Probe",
 "Online": false,
 "PBID": "599d6187bccccc25fc185780",
 "PBSN": "local",
 "Version": "1.0.6.1"
},
{
 "Active": true,
 "AutoDiscover": true,
 "Description": "",
 "IP": "172.18.190.254",
 "Interval": 1800,
 "Location": "",
 "MAC": "FC:45:96:32:5A:FC",
 "Name": "London",
 "Online": false,
 "PBID": "58f02daaa7c4a1212c43e6af",
 "PBSN": "BJAZ-ZKEZ-PJMZ-ZCYP",
 "Version": "1.0.5.3"
},
],
"message": "SUCCESS",
"status_code": 0
```

#### ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	書き込み	説明
		可 / 不可	
status_code	int	不可	ステータスコード。
message	string	不可	メッセージ。
Name	string	可	Probe 名。
Description	string	可	Probe の説明。
Location	string	可	Probe のロケーション。
Interval	int	可	Probe 検出の間隔:300、900、1800、3600(単位:秒)
AutoDiscover	bool	可	True:自動検出が有効、False: 自動検出が無効
Active	bool	不可	True:有効、False: 無効
IP	string	不可	Probe サーバIP のアドレス。
MAC	string	不可	Probe サーバの MAC アドレス
Online	bool	不可	Probe の接続ステータス。
			true:オンライン、false:オフライン
PBID	string	不可	Probe 固有の ID。
PBSN	string	不可	Probe のシリアルナンバー。
Version	string	不可	Probe のバージョン。

# getProbeInfo API - Probe の基本的な情報を取得する

#### ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4 oAyeGxnPORAKQ&action=getProbeInfo&probeSN=local

#### ■ リクエスト方法

Get

# ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須 / 任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
probeSN	必須	string	Probe のシリアルナンバー。

# ■ データリターンの例

```
{
 "data" :[
   "Active" : true,
   "AutoDiscover": true,
   "Description" : "" \, ,
   "IP": "localhost",
   "Interval" : 1800,
   "Location": "",
   "MAC": "00:0C:29:61:0F:0F",
   "Name": "Local Probe",
   "Online": false,
   "PBID": "599d6187b7c4a125fc185780",
   "PBSN": "local",
   "Version": "1.0.6.1"
  }
 ],
 "message": "SUCCESS",
 "status_code":0
```

### ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	書き込み 可 / 不可	説明	
status_code	int	不可	ステータスコード。	
message	string	不可	メッセージ。	
Name	string	可	Probe 名。	
Description	string	可	Probe の説明。	
Location	string	可	Probe のロケーション。	
Interval	int	可	Probe 検出の間隔:300、900、1800、3600(単位:秒)	
AutoDiscover	bool	可	True:自動検出が有効、False: 自動検出が無効	
Active	bool	不可	True:有効、False:無効	
IP	string	不可	Probe サーバ IP のアドレス。	
MAC	string	不可	Probe サーバの MAC アドレス	
Online	bool	不可	Probe の接続ステータス。	
			true:オンライン、false:オフライン	
PBID	string	不可	Probe 固有の ID。	
PBSN	string	不可	Probe のシリアルナンバー。	
Version	string	不可	Probe のバージョン。	

# setProbeInfo API - Probe の情報をアップデートする

# ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAye GxnPORAKQ&action=setProbeInfo&autoDiscover=true&interval=180 0&location=&name=local&pbid=599d6187b7c4a125fc185780

# ■ リクエスト方法

Post

# ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	書き込み 可 / 不可	説明
apiKey	必須	string	不可	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	不可	操作方法。
autoDiscover	必須	bool	可	True:自動検出が有効、False:自動検出が無効
name	必須	string	可	Probe 名。 (Probe 名は変更できません。最大 32 文字です。)
location	必須	string	可	Probe の場所。         (空欄にはできません。最大 32 文字で設定します。)
interval	必須	int	可	自動検出の間隔:300、900、1800、3600(単位:秒)
pbid	必須	string	不可	Probe の ID。

### ■ データリターンの例

```
{
  "data": "",
  "message": "SUCCESS",
  "status_code": 0
}
```

# ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	書き込み 可 / 不可	説明
status_code	int	不可	ステータスコード。
message	string	不可	メッセージ。

# getProbeDiscoverParaList API -Probe の検出ルールリストを取得する

#### ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAye GxnPORAKQ&action=getProbeDiscoverParaList&probeSN=local

#### ■ リクエスト方法

Post

#### ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
probeSN	必須	string	Probe のシリアルナンバー。

#### ■ データリターンの例

```
//Local Probe
"data" :[
 "IPCoverageType": 0,
 "IPPara": "172.18.190.1-172.18.190.200",
 "IPVersion": 0,
 "Name": "mptest",
 "PBSN": "local",
 "SNMPConfig":[
  "public \omega private",
 ],
 "SNMPVersion": 1,
 "id": "23c557f6-3137-4caf-8f4c-dc70c1b32e70"
}
],
"message": "SUCCESS",
"status_code":0
//Remote Probe
"data" :[
{
 "IPCoverageType": 1,
 "IPPara": "192.168.4.0/24",
 "IPVersion": 0,
 "Name" : "" ,
 "PBSN": "TTZEZ-EETZ-CCKZ-DDKX",
 "SNMPConfig":[
 "public \omega private",
 ],
 "SNMPVersion": 3,
 "id": "ae72a891-ebeb-4a6d-8678-9272fceb03b0"
},
 "IPCoverageType": 1,
 "IPPara": "192.168.0.1-192.168.1.254",
 "IPVersion": 0,
 "Name": "AliaTest",
 "PBSN": "TTZEZ-EETZ-CCKZ-DDKX",
 "SNMPConfig":[
 "RO \omega RW"
```

```
"SNMPVersion" : 0,
"id" : "5b4c693457c444434582b7287"
}
],
"message" : "SUCCESS" ,
"status_code" : 0
```

#### ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	書き込み 可 / 不可	説明
status_code	int	不可	ステータスコード。
message	string	不可	メッセージ。
PBSN	string	不可	検出ルールが属する Probe のシリアルナンバー。
id	string	不可	検出ルールの ID。
Name	string	可	検出ルールの名前。
SNMPVersion	int	可	検出ルールの SNMP バージョン。
SNMPConfig	array	可	検出ルールの SNMP コミュニティ。 分離には「ω」記号を使用します。
IPCoverageType	int	可	検出ルールの IP カバレッジタイプ。
IPVersion	int	可	検出ルールの IP バージョン。
IPPara	string	可	検出ルールの IP 範囲。

# ■ IPCoverageType の値のリスト

值	説明
0	IP範囲
1	IP サブネット
2	予約済み
3	IP アドレス設定のために CSV ファイルをインポート

注意 「2」「3」は現在サポートされていません。

# ■ IPVersion の値のリスト

值	説明
0	IPv4
1	IPv6

注意 IPv6 は現在サポートされていません。

# ■ SNMP Version の値のリスト

值	説明
0	SNMPv1
1	SNMPv2
2	SNMPv3
3	SNMPv1v2
4	SNMPv2v3
5	SNMPv1v2v3

注意 「2」「4」「5」は現在サポートされていません。

# addDiscoverParaList API - Probe の検出ルールを追加する

#### ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jII30A3kMFl4 oAyeGxnPORAKQ&action = addDiscoverPara&probeSn = local&ipCoverageType=0&ipPara=172.18.190.1-172.18.190.200&ipVersion=0-&name=discover Para&ro Community=public&rw Community=private&snmp Version=1

#### ■ リクエスト方法

• Post

# ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
probeSN	必須	string	Probe のシリアルナンバー。
ipCoverageType	必須	int	検出ルールの IP カバレッジタイプ。 0:IP 範囲、1:IP サブネット
ipPara	必須	string	IP 情報、IP 範囲。 IP 情報の例: 192.168.0.1-192.168.0.100 IP 範囲の例: 192.168.0.10/24
ipVersion	必須	int	IP アドレスのバージョン。 0: IPv4 (現在は IPv4 のみサポート)
name	必須	string	検出ルールの名前。
roCommunity	必須	string	検出ルールの SNMP read-only コミュニティ。
rwCommunity	必須	string	検出ルールの SNMP read/write コミュニティ。
snmpVersion	必須	int	SNMP バージョン。(SNMPv3 は現在サポートしていません。)

# ■ データリターンの例

```
{
"data" : "" ,
"message": "SUCCESS",
"status_code":0
```

# ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	書き込み 可/不可	説明
status_code	int	不可	ステータスコード。
message	string	不可	メッセージ。

# ■ IPCoverageType の値のリスト

値	説明		
0	IP範囲の設定		
1	IP サブネットマスクの設定		

# ■ IPVersion の値のリスト

値	説明
0	IPv4

#### ■ SNMP Version の値のリスト

•	Sittini Version Vales / //	
	値	説明
	0	SNMPv1
	1	SNMPv2
ĺ	2	SNMPv1v2

注意 SNMPv3 は現在サポートされていません。

# delDiscoverParaList API - Probe の検出ルールを削除する

#### ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAyeGxnPORAKQ&a ction=delDiscoverParaList&probeld=599d6187b7c4a125fc185780&probeSn=local&id s=23c557f6-3137-4caf-8f4c-dc70c1b32e70,23c557f6-3137-4caf-8f4c-dc70c1b32e70

# ■ リクエスト方法

Post

#### ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
probeSN	必須	string	Probe のシリアルナンバー。
probeld	必須	string	Probe の ID。
ids	必須	string	削除する検出ルールの ID。 複数の検出ルールを削除するには、カンマ "," を使用して区切ります。 セットが空の場合、この Probe の下のすべての検出ルールが 削除されます。

# ■ データリターンの例

```
{
"data": "",
"message": "SUCCESS",
"status_code": 0
}
```

#### ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	書き込み 可 / 不可	説明
status_code	int	不可	ステータスコード。
message	string	不可	メッセージ。

# getDeviceList API - D-View7 が確認および管理しているデバイスのリストを取得する

### ■ リクエスト URL

• Get all managed devices list:

{D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A 3kMFl4oAyeGxnPORAKQ&action=getDeviceList

• Get managed devices list by probe:

 $\label{lem:condition} $$ D_View_7_Url\-\arrowvert = NPXT7x2jII30A3kMFI4 oAyeGxnPORAKQ&action=getDeviceList\&probeSn=local and the condition of the condition o$ 

• Get managed devices list by IP range and probe:

 $\label{lem:condition} $$ \{D_View_7\_Url\}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2j||30A3kMFl4oAyeGxnPORAKQ $$ action=getDeviceList&probeSn=local&startlp=192.168.0.1&endlp=192.168.0.100 $$ action=getDeviceList&probeSn=local&startlp=192.168.0.1&endlp=192.168.0.100 $$ action=getDeviceList&probeSn=local&startlp=192.168.0.1&endlp=192.168.0.100 $$ action=getDeviceList&probeSn=local&startlp=192.168.0.1&endlp=192.168.0.$ 

#### ■ リクエスト方法

• Get

#### ■ パラメータリスト

(1) 2 - 2 9 2 1.			
パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
ProbeSn	任意	string	Probe でデバイスをフィルタする。 null に設定できます。startlp および endlp と組み合わせて使用できます。 単独で使用することもできます。
startlp	任意	string	IP 範囲でデバイスをフィルタする。 null に設定できます。endlp と同時に使用する必要があります。
endlp	任意	string	IP 範囲でデバイスをフィルタする。 null に設定できます。startlp と同時に使用する必要があります。

# ■ データリターンの例

```
{
"data" :[
{
 "contact": "",
 "description": "DWS-3160-24PC Gigabit Ethernet Switch",
 "devld": "59eebbccb7c4a15ae014592b",
 "deviceType": "Wireless Switch",
 "discoverTime": "/Date(1508813484921+0800)/",
 "fwVersion": "1.00.038",
"hwVersion": "A1",
 "ip": "172.18.190.209",
 "location": "",
 "mac": "14:D6:4D:60:E6:60",
 "modelName": "DWS-3160-24PC",
 "oid": "1.3.6.1.4.1.171.10.117.1.1",
 "serialNumber": "R3B33C2000005",
 "snmpPrivilege": "RO",
 "status": 0,
 "supportTaskKind":[
 \text{"LLDPOn"} ,
 "LLDPOff",
 "SyslogOff",
 "SyslogOn",
 "TelnetOff",
 "TelnetOn",
 "TelnetOff",
 "TelnetOn",
 "TrapOff",
 "TrapOn",
 "WebOff",
 "WebOn",
 "SpanningOff"\ ,\\
 "SpanningOn",
 "SafeguardOff",
 "SafeguardOn",
 "ConfigBackup",
 "ConfigRestore",
 "FirmwareUpgrade",
 " Reboot"
],
 "sysName": "DGS-3120-24TC",
 "vendor" : "D-Link"
],
"message": "SUCCESS",
"status_code":0
```

#### ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	説明		
status_code	int	ステータスコード。		
message	string	メッセージ。		
data	array	フィルタしたデバイスのリスト。		
snmpPrivilege	string	デバイスの D-View 7 SNMP 権限。 RW:Read-Write(読み取り / 書き込み)権限、RO:Read-Only(読み取りのみ)権限		
status	int	デバイスのオンライン / オフラインのステータス。 0: オンライン 1: オフライン 2: 不明(接続している Probe が D-View7 コアサーバから切断されました。)		
supportTaskKind	array	デバイスのサポートしているタスクのタイプ。 "LLDPOff", "SyslogOff", "SyslogOn", "TelnetOff", "TelnetOn", "TelnetOff", "TelnetOff", "TrapOff", "TrapOn", "WebOff", "WebOn", "SpanningOff", "SpanningOn", "SafeguardOff", "SafeguardOn", "ConfigBackup", "ConfigRestore", "FirmwareUpgrade", "Reboot"		

# getTaskResultInfo API - 作成したタスクの実行結果を取得する

#### ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAyeGxnPO RAKQ&action=getTaskResultInfo&taskId=5ab0c8a4b7c4a11db4594a1b

#### ■ リクエスト方法

• Get

#### ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須 / 任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
taskld	必須	string	作成されたタスクの ID。createTask API の実行から取得できます。

# ■ データリターンの例

```
"data": "5b4d8a7ab7c4a128d4ab9160",
"message": "SUCCESS",
"status_code" : 0
"data" :{
 "createTime": "2018-06-10 22:47:49",
 "endTime": "2018-06-10 22:47:49",
 "startTime": "2018-06-10 22:47:49",
 "taskld": "5b1d3a15df11a92374e56184",
 "taskKind": "ConfigRestore",
 "taskResult": "Failed",
 "taskResultDetail" :[
  "content": "Receive result timeout!",
  "devIP": "172.18.190.5",
  "devld": "58c8df15b7c4a14064a2abff",
  "devMac": "1C:7E:E5:29:ED:07",
   "status": "Failed"
  },
  {
   "content": "Receive result timeout!",
  "devIP": "172.18.190.233",
   "devld": "58c8df16b7c4a14064a2ac39",
   "devMac": "00:05:5D:8F:12:52",
   "status": "Failed"
```

```
}
],
"taskState" : 3
},
"message" : "SUCCESS" ,
"status_code" : 0
}
```

# ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	説明	
status_code	int	ステータスコード。	
message	string	メッセージ。	
taskState	int	タスクの現在のステータス。	
		0:実行中、1:一時停止中、2:タスクが削除された、3:完了	
createTime	string	タスクの作成時間。	
endTime	string	タスクの実行の終了時間(null に設定可能)。	
startTime	string	タスクの実行の開始時間(null に設定可能)。	
taskld	string	タスクのID。	
taskKind	string	タスクのタイプ。	
taskResult	string	タスクの実行結果。	
		Failed to Deliver(配信に失敗)、Partially Delivered(部分的に配信済)、Delivered(配	
		信済)、Partially Done(部分的に完了)、Delivering(配信中)、Failed(失敗)、Done(完	
		了)	
taskResultDetail	array	各デバイスの実行中のタスクの結果。	
devIP	string	デバイスの IP アドレス。	
devld	string	デバイスのID。	
devMac	string	デバイスの MAX アドレス。	
content	string	タスク実行結果の詳細情報。	
status	string	各デバイスのタスクの実行結果。	
		Failed to Deliver(配信に失敗)、Partially Delivered(部分的に配信済)、Delivered(配	
		信済)、Partially Done(部分的に完了)、Delivering(配信中)、Failed(失敗)、Done(完	
		了)	

# createTask API - デバイス設定を変更するタスクを作成する

#### ■ リクエスト URL

• Restore Configuration:

• Telnet On:

 $\label{local-poly-special} $$ \{D_view_7_Url\}/api/json/Api.aspx?apiKey=6eSJcUi15qwrzN9ppLy5gE5h3Hue0lX3&action=createTask&taskName=Telnet_on&taskKind=TelnetOn&devId=59eeccccb7c4a15ae014592b&port=23$ 

• LLDP Off:

{D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=6eSJcUi15qwrzN9ppLy5gE5h3Hue0lX3&action=createTask&taskName=API\_SystemConfig&taskKind=SystemConfig&devId=59eeccccb7c4a15ae014592b&sysName=DGS-3120-24TC&sysLocation=RD-Lab&sysContact=Tom

# ■ リクエスト方法

Post

#### ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
taskName	必須	string	作成するタスクの名前。
taskKind	必須	string	作成するタスクのタイプ。 詳細は「サポートしているタスクのリスト」を確認してください。
devld	必須	string	タスクを実行するデバイスの ID。設定できるデバイスは 1 つのみです。
fileld	任意	string	ファームウェアアップグレードまたはコンフィグレーションリストアに使用するファイルの ID。 ID は、"UploadFile" API を呼び出した後に取得できます。
fileName	任意	string	ファームウェアアップグレードまたはコンフィグレーションリストアに使用するファイルの名前。 ファイルは、"UploadFile" API を呼び出した後に取得できます。
port	任意	int	UDP ポート番号。 TelnetOn、SSHOn、WebOn タスクを作成する場合、本パラメータの値を 設定する必要があります。
sysName	任意	string	デバイスのシステム名。 SystemConfig Task を作成する場合、本パラメータの値を設定する必要があります。
sysLocation	任意	string	デバイスの設置場所。 SystemConfig Task を作成する場合、本パラメータの値を設定する必要があります。
sysContact	任意	string	デバイスの管理者の名前や連絡先。 SystemConfig Task を作成する場合、本パラメータの値を設定する必要があります。

### ■ データリターンの例

{
 "error\_code" :0,
 "message" :" SUCCESS" ,
 "data" :" 5b1a4cbfdf11a9398c6b3a00"
}

### ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	説明
status_code	int	ステータスコード。
message	string	メッセージ。
data	int	検出ルールが属する Probe のシリアルナンバー。

# ■ サポートしているタスクのリスト

パラメータ名	説明					
ConfigRestore	デバイスの設定をリストアします。					
FirmwareUpgrade	ファームウェアをアップグレードします。					
SystemConfig	「System Name」「System Location」「System Contact」の値を更新します。					
LLDPOff	LLDP を無効にします。					
LLDPOn	LLDPを有効にします。					
SyslogOff	デバイスの Syslog を無効にし、すべての Syslog ホストを削除します。					
SyslogOn	デバイスの Syslog を有効にし、D-View7 にホストポイントを作成します。					
TelnetOff	デバイスの Telnet を無効にします。					
TelnetOn	デバイスの Telnet を有効にし、Telnet の UDP ポートを設定します。 UDP ポートの初期値:23					
SSHOff	デバイスの SSH を無効にします。					
SSHOn	デバイスの SSH を有効にし、SSH の UDP ポートを設定します。 UDP ポートの初期値:22					
TrapOff	デバイスの SNMP トラップを無効にし、すべての SNMP トラップホストを削除します。					
TrapOn	デバイスの SNMP トラップを有効にし、D-View7 にホストポイントを作成します。					
WebOff	デバイスの Web を無効にします。					
WebOn	デバイスの Web を有効にします。					
SpanningOff	デバイスの STP を無効にします。					
SpanningOn	デバイスの STP を有効にします。					
RmonOff	デバイスの RMON を無効にします。					
RmonOn	デバイスの RMON を有効にします。					
SafeguardOff	デバイスのセーフガードを無効にします。					
SafeguardOn	デバイスのセーフガードを有効にします。					
WebHttpsOff	デバイスの Web HTTPS を無効にします。					
WebHttpsOn	デバイスの Web HTTPS を有効にします。					
Reboot	デバイスをリブートします。					

# createSnmpTask API - デバイスから特定の OID を取得するための、カスタマイズ SNMP タスクを作成する

#### ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAyeG xnPORAKQ&action=createSnmpTask&oid=1.3.6.1.2.1.1.2.0&valueType=3 &devlds=58c8df15b7c4a14064a2abff,58c8df16b7c4a14064a2ac39

# ■ リクエスト方法

Post

# ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須 / 任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
oid	必須	string	値を取得するために使用する特定の OID。
valueType	必須	int	OID 値のデータ型を返します。
			現在サポートしてるタイプ:Number、Boolean、String
devlds	必須	string	特定の OID 値を読み取るために指定されたデバイスの ID。 指定するデバイス ID が複数ある場合はコンマ「」で区切ります。

### ■ データリターンの例

```
"data" : "5b1a4f1ddf11a9398c6b3a1a" ,
"message" : "SUCCESS" ,
"status_code" : 0
}
```

# ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	説明
status_code	int	ステータスコード。
message	string	メッセージ。
data	string	作成したタスクのID。

# ■ valueType パラメータリスト

値	説明
1	Number
2	Boolean
3	String

# getSnmpTaskResultInfo API- カスタマイズ SNMP タスクの実行結果を取得する

#### ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAyeGxnPOR AKQ&action=getSnmpTaskResultInfo&taskId=5b1a4f1ddf11a9398c6b3a1a

# ■ リクエスト方法

Get

# ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
taskld	必須	_	ユーザーは、「createSnmpTask」の応答情報から SNMP タスクの ID を取得できます。

#### ■ データリターンの例

```
"data":[

{
    "devId": "58c8df15b7c4a14064a2abff",
    "result": "Collecting Result..."
},
{
    "devId": "58c8df16b7c4a14064a2ac39",
    "result": "Collecting Result..."
}
],
    "finished": false,
    "message": "SUCCESS",
    "status_code": 0
}
```

# ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	説明
status_code	int	ステータスコード。
message	string	メッセージ。
finished	bool	特定のデバイスの実行ステータス。
		true:完了、false:実行中
data	array	結果のデータ。
devld	string	タスクを実行したデバイスのID。
result	string	タスクの実行ステータスまたは実行結果

# instantlyDiscover API - オンライン Probe 検出機能を即時実行する

# ■ リクエスト URL

• {D\_View\_7\_Url}/api/json/Api.aspx?apiKey=NPXT7x2jll30A3kMFl4oAyeGxn PORAKQ&action=instantlyDiscover&pbid=599d6187b7c4a125fc185780

# ■ リクエスト方法

Post

# ■ パラメータリスト

パラメータ名	必須/任意	タイプ	説明
apiKey	必須	string	D-View7 にアクセスする REST API キー。
action	必須	string	操作方法。
pbid	必須	string	Probe の ID。

# ■ データリターンの例

```
{
    "data" : "" ,
    "message" : "SUCCESS" ,
    "status_code" : 0
}
```

### ■ リターンパラメータリスト

パラメータ名	タイプ	説明
status_code	int	ステータスコード。
message	string	メッセージ。

# 付録 G サードパーティ製機器の管理

本項目では、D-View7 を使用したサードパーティ製機器の管理について説明します。 説明する内容は以下です。

- 「サードパーティ製機器の検出」
- 「サードパーティ製機器のモデルリストへの追加」
- 「ウィジェットによるサードパーティ製機器の情報表示」

# サードパーティ製機器の検出

本項目では D-View7 を使用したサードパーティ製機器の検出について説明します。

1. D-View7 によって検出されたサードパーティ製機器は「Inventory」の「Unmanaged」に追加されます。「Device Type」としては「Unknown」と認識されます。

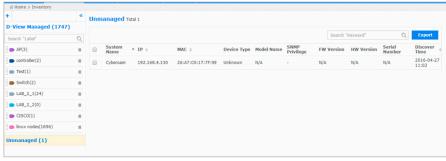


図 8-65 Unmanaged

2. 当該の機器を選択し「Move to Managed」をクリックすることで、「D-View Managed」へ移動させます。

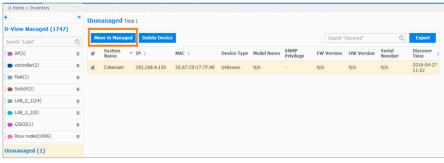


図 8-66 Move to Managed

3. 必要に応じてラベルを指定します。

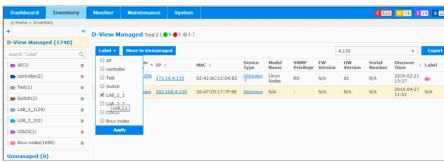


図 8-67 Set Label

4. この時点では「System name(Cyberoam)」「IP アドレス」「MAC アドレス」が表示されます。「Device Type」は「Unknown」のままです。



図 8-68 D-View Managed

5. 「System name」の「Cyberoam」をクリックし、当該デバイスの「Overview」(デバイス概要)を表示します。



図 8-69 System name

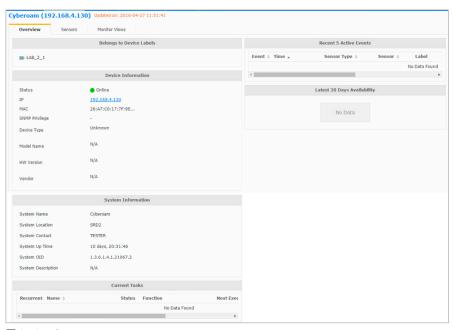


図 8-70 Overview

# サードパーティ製機器のモデルリストへの追加

検出したサードパーティ製機器を **System > About** 画面のモデルリスト(Customized Identified Device Model List)へ追加する方法について説明します。

1. System > About 画面の「Customized Identified Device Model List」タブを選択し、「Add」をクリックします。

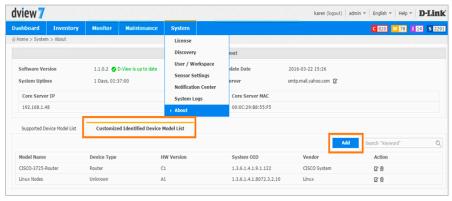


図 8-71 Customized Identified Device Model List - Add

2. 「Indentity」(識別情報)を入力するポップアップが表示されます。 該当する機器の「System OID」「Device Type」「Model Name」「HW Version」「Vendor」などの情報を入力します。

	Indentify	×
System OID*		
Device Type	Unknown v	
Model Name*		
HW Version		
Vendor*		
		Save

図 8-72 Indentity

3. 選択する「Device Type」などによって入力する情報は異なります。情報を入力し、「Save」をクリックします。

	Indentify	×
System OID*	1.3.6.1.4.1.21067.2	
Device Type	L3 GE Switch ▼ •	
Start Port Index	5	0
Port Count	6	0
Model Name*	CR35wiNG	
HW Version		
Vendor*	Cyberoam	
		Save

図 8-73 Indentity (入力)

4. System > About 画面の「Customized Identified Device Model List」タブで更新した情報を確認できます。



図 8-74 Customized Identified Device Model List

5. Home > Inventory 画面の「D-View Managed」からも更新された情報が確認できます。

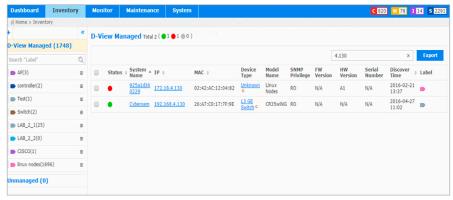


図 8-75 D-View Managed

6. 「System Name」欄のリンクをクリックし、デバイスの詳細情報画面を表示します。「Overview」タブでも詳細情報を確認できます。

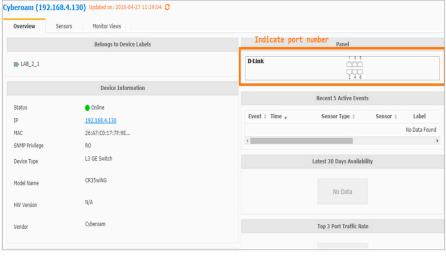


図 8-76 Overview

# ウィジェットによるサードパーティ製機器の情報表示

本項目ではサードパーティ製機器の情報をウィジェットで表示する設定について説明します。 最初に「Sensor Setting」(センサ設定)で表示する情報を設定し、その後「Add a New Widget」でウィジェットを作成、設定したセンサを登録します。

#### センサ設定

1. System > Sensor Settings 画面で「Customized Sensor」→「SNMP Sensor」を選択し、「New Sensor」をクリックします。

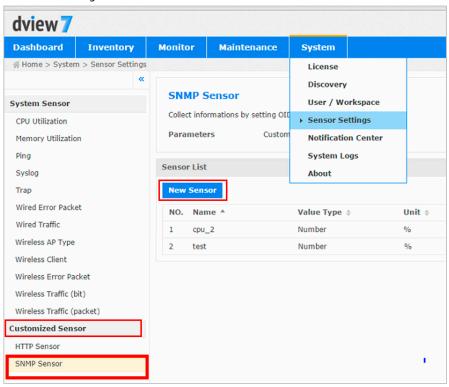


図 8-77 Sensor Settings - New Sensor

2. センサ情報を入力します。「Next」をクリックします。



図 8-78 Sensor Information ①

**3.** Attributes Setting(属性情報)を入力します。「Next」をクリックします。



図 8-79 Attributes Setting

4. センサの情報を設定し、「Next」をクリックします。



図 8-80 Event Trigger Rule

5. 作成中のセンサに当該のサードパーティ製機器を登録(選択)し、「Next」をクリックします。



図 8-81 Apply Device

6. 確認後、「Finish」をクリックします。



図 8-82 Apply Device

7. 作成したセンサが「Sensor List」に追加されたことを確認します。

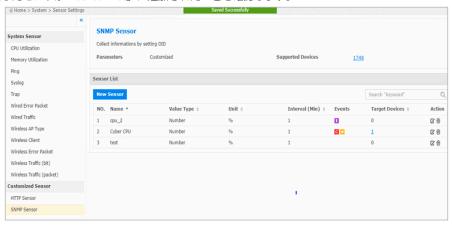


図 8-83 Sensor List

# ウィジェットの追加

- 1. Dashboard > Customized 画面で「Create a New Dashboard」または左上部の「+」をクリックし、新規ダッシュボード作成画面を表示します。
- 2. 名前、概要を入力し「Create」をクリックします。

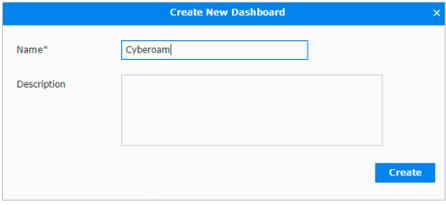


図 8-84 Create a New Dashboard

3. 新規ダッシュボード選択時に表示される「Add a New Widget」をクリックし、新しいウィジェットを作成します。



図 8-85 Add a New Widget

- 4. 以下の項目を入力後、「Create」をクリックします。
  - •「Name」:ウィジェット名を入力します。
  - ・「Choose a device」:当該の機器を選択します。
  - 「Sensor type」: センサの種類を選択します。
  - •「Sensor」:作成したセンサを選択します。

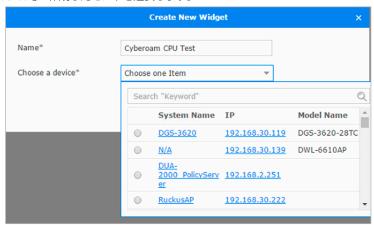


図 8-86 Create New Widget 01

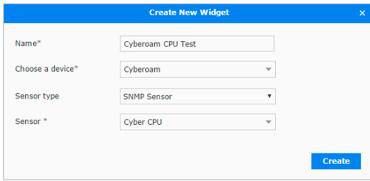


図 8-87 Create New Widget 02

# 5. サードパーティ製機器のウィジェットが作成されました。

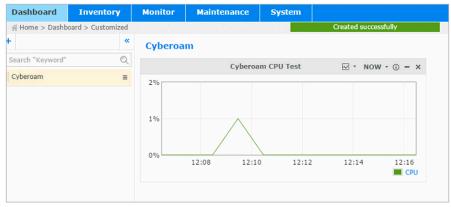


図 8-88 Widget Added